

# 「参考情報」の内容について

この「参考情報」には、以下の項目を収録しています。

## パソコン活用編 .....2

### ■ 設定ユーティリティの活用

INSメイトV30Slimの設定ユーティリティを使って通信料金や通信履歴などの情報を確認する方法について説明しています。

### ■ パソコンでの設定画面

INSメイトV30Slimの設定ユーティリティの画面と設定内容について説明しています。

### ■ いろいろな通信機能

INSメイトV30Slimを使った通信のいろいろな機能を紹介しています。

### ■ RS-232Cポートの設定

イーージーウィザードを使ったRS-232Cポートの設定方法を説明しています。

## 手動設定編 .....51

イーージーウィザードが利用できない場合に、必要なソフトウェアをインストールする方法、インターネット接続の設定を行う方法について説明しています。

## その他 .....149

### ■ ATコマンド

### ■ 設定記入シート

PDFファイルをプリントアウトして設定内容を記入し、保守のための資料としてご利用ください。

### お知らせ

- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- Windows Vista®の場合、「プログラムのインストール／実行」画面や「ユーザアカウント制御」画面が表示されることがあります。

# パソコン活用編

- 1 設定ユーティリティの活用 ……3
- 2 パソコンでの設定画面 ……9
- 3 いろいろな通信機能 ……26
- 4 RS-232Cポートの設定 ……41

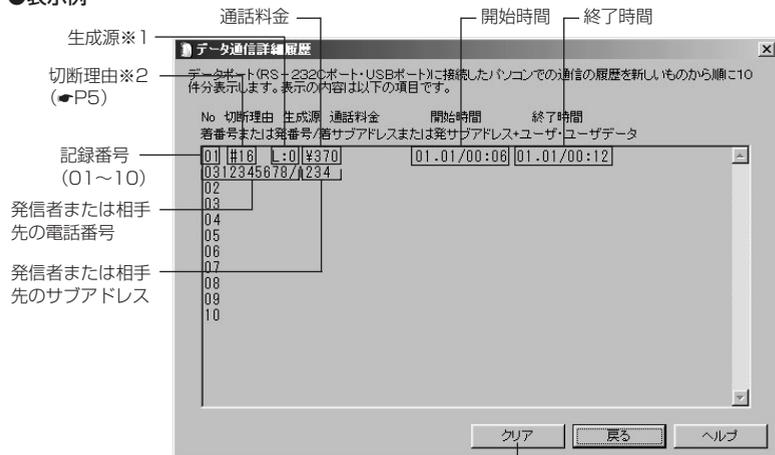


# いろいろな情報を表示するには

## データ通信の詳細履歴を確認する

最新の通信開始日時、終了日時、相手先番号は、メニュー画面で確認することができます。  
 [詳細履歴] をクリックすると、データ通信詳細履歴画面が表示されます。この画面では、接続したパソコンでの最新10件分の通信履歴を確認することができます。

### ●表示例



データ通信の履歴を消去するときをクリックします。確認のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

### ※1 生成源の値と意味

値	生成源
0	ユーザ
1	ローカルユーザ収容私設網 (自分側)
2	ローカルユーザ収容公衆網 (自分側)
3	中継網
4	リモートユーザ収容公衆網 (相手側)
5	リモートユーザ収容私設網 (相手側)
7	国際網
A	インタワーキング先の網

## ※2 切断理由の値と意味

値	切断理由	値	切断理由
1	欠番	57	伝達能力不許可
2	指定中継網へのルートなし	58	現在利用不可伝達能力
3	相手へのルートなし	63	その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス
6	チャンネル利用不可	65	未提供伝達能力指定
7	呼が設定済みのチャンネルへ着呼	66	未提供チャンネル種別指定
16	正常切断	69	未提供ファシリティ要求
17	着ユーザビジー	70	制限デジタル情報転送能力のみ可能
18	着ユーザレスポンスなし	79	その他のサービスまたはオプションの未提供クラス
19	相手ユーザ応答なし（呼出中）	81	無効呼番号値使用
20	加入者不在	82	無効チャンネル番号使用
21	通信拒否	83	指定された中断呼識別番号未使用
22	相手加入者番号変更	84	中断呼識別番号使用中
26	選択されなかったユーザの切断復旧	85	中断呼なし
27	着側インタフェース起動不可	86	指定中断呼切断復旧済み
28	無効番号フォーマット（不完全番号）	87	ユーザはCUGメンバではない
29	ファシリティ拒否	88	端末属性不一致
30	状態問い合わせへの応答	91	無効中断網選択
31	その他の正常クラス	95	その他の無効メッセージクラス
34	利用可回線／チャンネルなし	96	必須情報要素不足
38	網故障	97	メッセージ種別未定義または未提供
41	一時的失敗	98	呼状態とメッセージ不一致またはメッセージ種別未定義または未提供
42	交換機輻輳	99	情報要素未定義または未提供
43	アクセス情報廃棄	100	情報要素内容無効
44	要求回線／チャンネル利用不可	101	呼状態とメッセージ不一致
47	その他のリソース使用不可クラス	102	タイム満了による回復
49	QOS利用不可	111	その他の手順誤りクラス
50	要求ファシリティ未契約	127	その他のインタワーキングクラス



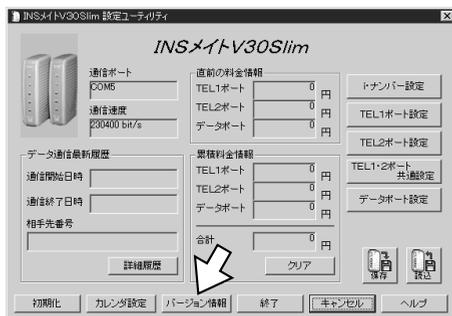
## お知らせ

●本商品に乾電池が入っていない状態で電源アダプタを抜くと、データ通信最新・詳細履歴は消去されます。

# いろいろな情報を表示するには

## バージョンを確認する

メニュー画面の【バージョン情報】をクリックすると、本商品のバージョン、設定ユーティリティのバージョンを確認することができます。



## ヘルプを表示する

本商品の使い方を説明したヘルプを見ることができます。

### ● Windows®をご利用の場合

メニュー画面の【ヘルプ】をクリックすると、本商品のヘルプ画面が表示されます。



### ● Macintoshをご利用の場合

Macintosh HDの中の [INSメイトV30Slim] フォルダの中にヘルプファイルがあります。ヘルプファイルのアイコンをダブルクリックすると、ヘルプが表示されます。

ヘルプを表示するには、Acrobat® Readerまたは、それに類する機能が必要です。

※Acrobat® Readerをインストールするには、OS8,9の場合は「Acrobat4」フォルダをダブルクリックし、OS Xの場合は「Acrobat5」フォルダをダブルクリックし、手動でインストールしてください。同様に、「Manual」フォルダの中のPDFファイルを開覧したいときや「readme.rtf」を見たいときも直接ファイルをダブルクリックしてください。



## ワンポイント

### ● Windows®でスタートメニューからヘルプを表示するには

[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] (または [すべてのプログラム]) - [INSメイトV30Slim ユーティリティ] - [INSメイトV30Slim 設定ユーティリティ ヘルプ] をクリックします。

# 設定値をパソコンに保存するには

本商品に設定した設定値をパソコンに保存することができます。

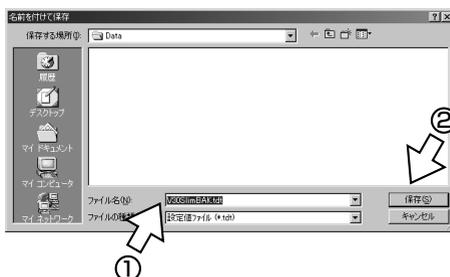
## 設定値をパソコンに保存する

1 メニュー画面の【保存】をクリックする。



2 ファイル名を入力し、【保存】をクリックする。

設定値を記録したファイルがパソコンに保存されます。  
Mac OS®の場合は、「ファイル名」の部分で「V30SlimBAK.tdt」などと表示されます。



### ワンポイント

#### ● ファイルを保存するフォルダについて

設定値を記録したファイルを保存する場所（フォルダ）は変更することができます。お買い求め時の設定は、Windows®の場合、OSがインストールされているドライブの [Program Files] - [INS-Mate V30Slim ユーティリティ] - [Data] です。

Mac OS 8.1、8.5、8.6、9、9.1、9.2の場合、[Macintosh HD] - [INS-Mate V30Slim] - [DATA] です。

Mac OS Xの場合、[Macintosh HD] - [Applications] - [INS-Mate V30Slim] - [DATA] です。

1 設定ユーティリティの活用

2 パソコンでの設定画面

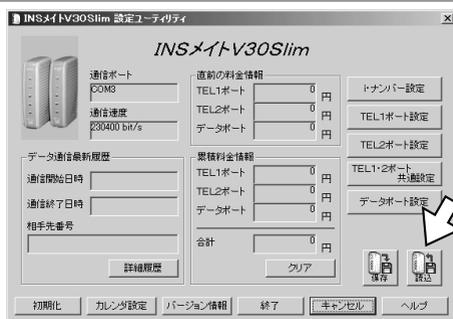
3 いろいろな通信機能

4 PORT-SAVEの設定

# 設定値をパソコンに保存するには

## 設定値をパソコンから読み出す

1 メニュー画面の【読み出す】をクリックする。



2 ファイル名を指定し、【開く】をクリックする。

パソコンに保存していた設定値を設定ユーティリティに読み込みます。



3 本商品に設定値を保存するには、メニュー画面で【終了】をクリックしたのち、【OK】をクリックする。

## i・ナンバー設定画面

メニュー画面で【i・ナンバー設定】をクリックすると表示される画面です。i・ナンバーをご利用になる場合に設定します。

※下線\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
i・ナンバー (取扱説明書▶P150)	i・ナンバーを利用するとき、「使用する」を選択します。	<u>使用しない</u> 使用する
i・ナンバー電話番号 (取扱説明書▶P150)	i・ナンバーの電話番号を入力します。	i・ナンバー情報1: 対応した電話番号 (最大20桁) i・ナンバー情報2: 対応した電話番号 (最大20桁) i・ナンバー情報3: 対応した電話番号 (最大20桁)
i・ナンバー着信設定 (取扱説明書▶P150)	それぞれの番号に着信があったとき、どのポートを呼び出すかを選択します。	i・ナンバー情報1: <u>TEL1</u> TEL2 データ i・ナンバー情報2: <u>TEL1</u> <u>TEL2</u> データ i・ナンバー情報3: <u>TEL1</u> TEL2 データ
発信ポート番号指定 (取扱説明書▶P150)	それぞれのポートから発信するとき、どの番号を通知するかを選択します。	i・ナンバー情報1: <u>TEL1</u> TEL2 データ i・ナンバー情報2: <u>TEL1</u> <u>TEL2</u> データ i・ナンバー情報3: <u>TEL1</u> TEL2 データ



### お知らせ

- i・ナンバーを「使用する」に設定した場合は、グローバル着信の設定は無効です。

# TEL1ポート設定画面／TEL2ポート 設定画面

メニュー画面で【TEL1ポート設定】をクリックするとTEL1ポート設定画面、【TEL2ポート設定】をクリックするとTEL2ポート設定画面が表示されます。TEL1ポート、TEL2ポートそれぞれの画面で設定を行います。例はTEL1ポート設定画面です。

## ■ 発信・着信1

※下線\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
発信者番号 (取扱説明書●P140)	発信するときに通知する電話番号を入力します。	電話番号 (最大32桁)
着信する番号 (取扱説明書●P152)	このアナログポートに着信する電話番号を入力します。1つのアナログポートに最大8個の電話番号を設定できます。	電話番号 (最大32桁)
サブアドレス (取扱説明書●P158)	このアナログポートに設定するサブアドレスを入力します。	サブアドレス (最大19桁)
発信者番号通知 (取扱説明書●P141)	このアナログポートから発信するとき、発信者番号を通知するかどうかを設定します。	発信者番号通知する 発信者番号通知しない <u>INSネット64申込内容に従う</u>
サブアドレスなし着信する (取扱説明書●P158)	サブアドレスが指定されていない着信を受けるかどうかを設定します。	着信する 着信しない
グローバル着信する (取扱説明書●P152)	INSネット64のグローバル着信の利用を契約している場合、このポートでグローバル着信を利用するかどうかを設定します。	着信する 着信しない



### ワンポイント

#### ● 着信する番号をすべて消去するには

着信する番号欄の下にある【クリア】をクリックすると、電話番号をすべて消去することができます。

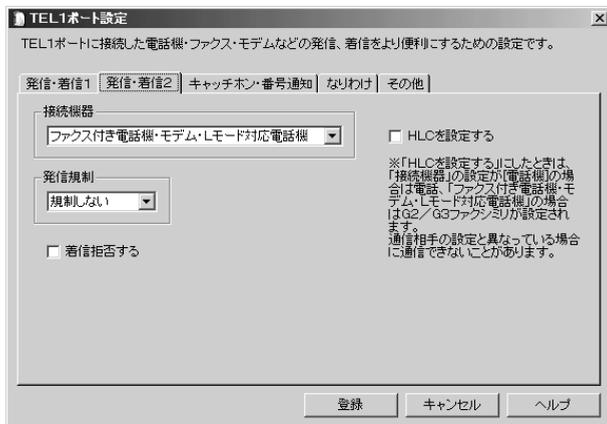
 お知らせ

- 発信者番号通知を「通知しない」または「通知する」に設定し、i・ナンバーを「使用する」に設定した場合は、必ず発信者番号（取扱説明書●P140）を正しく設定してください。
- 「サブアドレスなし着信する」を選択しない場合は、サブアドレスのない着信（相手が契約者回線番号、i・ナンバー電話番号または追加番号のみで発信）は受けられなくなります。

 お願い

- 発信者番号を正しく設定しない場合、相手に発信者番号（取扱説明書●P140）が正しく通知されません。また、INSネット64サービスが利用できない場合がありますので、発信者番号を正しく設定してください。

## ■ 発信・着信2



※下線\_は、お買い求め時の設定です。

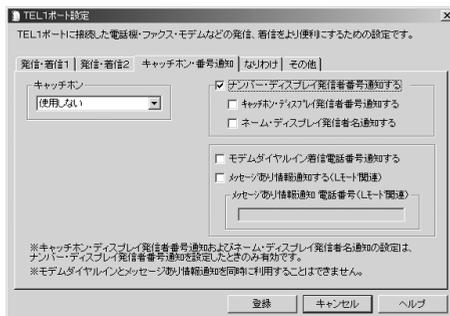
設定項目	説明	設定内容
接続機器 (取扱説明書▶P159)	このアナログポートに接続する機器を選択します。HLCの設定を「する」にしたときは、発信側のHLCの設定とここで設定した内容が異なる場合は、着信しないことがあります。	接続しない 電話機 ファクス付き電話機・モデム・Lモード対応電話機
発信規制 (取扱説明書▶P109)	このアナログポートに接続したアナログ通信機器からの発信を規制するときに設定します。1桁目が「0」の電話番号への発信を規制する場合は「0発信規制」、すべての外線発信を規制する場合は「外線発信規制」を選択します。	規制しない 0発信規制 外線発信規制
着信拒否する (取扱説明書▶110)	このアナログポートに接続したアナログ通信機器で着信を受けないときに設定します。	しない する
HLCを設定する (取扱説明書▶P159)	HLC（高位レイヤ整合性）を利用するときに設定します。「する」にしたときは、「接続機器」で設定した内容が、発信側のHLCの設定と一致したときに着信を受けられます。	しない する



### お知らせ

- アナログポートにファクス付き電話機を接続したときは、相手が電話でもファクスでも着信を受けられるように「HLCを設定する」のチェックを外してください。

## ■ キャッチホン・番号通知



※下線\_\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
キャッチホン (取扱説明書●P116)	INSキャッチホンまたは疑似キャッチホンを利用するときに設定します。	使用しない 疑似キャッチホン INSキャッチホン
ナンバー・ディスプレイ 発信者番号通知する (取扱説明書●P142)	ナンバー・ディスプレイを利用するときに設定します。	しない する
キャッチホン・ディス プレイ発信者番号通知 する (取扱説明書●P144)	キャッチホン・ディスプレイを利用するときに設定します。	しない する
ネーム・ディスプレイ 発信者名通知する (取扱説明書●P146)	ネーム・ディスプレイを利用するときに設定します。	しない する
モデムダイヤルイン着 信電話番号通知する (取 扱説明書●P154、156)	モデムダイヤルインを利用するときに設定します。	しない する
メッセージあり情報 通知する (Lモード関 連) (取扱説明書●P133、 135)	INSメッセージ到着お知らせサービスを利用して、アナログ通信機器にメッセージあり情報を通知するときに設定します。	しない する
メッセージあり情報 通知電話番号 (Lモード 関連) (取扱説明書●P133、 135)	LモードまたはINSメッセージ到着お知らせサービスで使用する電話番号が表示されます。発信者番号 (●P10) を入力すると自動的に設定されます。	

### お知らせ

- キャッチホン・ディスプレイ発信者番号通知およびネーム・ディスプレイ発信者名通知の設定は、ナンバー・ディスプレイ発信者番号通知を設定したときのみ有効です。
- モデムダイヤルインとメッセージあり情報通知を同時に利用することはできません。

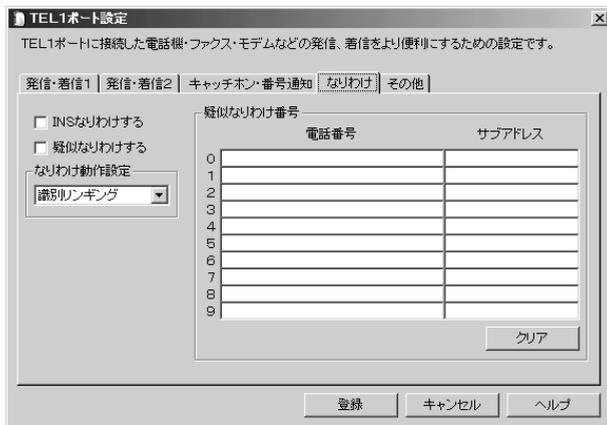
1  
設定ユー  
ティ  
リ  
ティ  
の  
活  
用

2  
パ  
ン  
コ  
ン  
の  
設  
定  
画  
面

3  
通  
信  
機  
能  
の  
活  
用

4  
R  
S  
T  
R  
O  
の  
設  
定

## ■ なりわけ



※下線\_は、お買い求め時の設定です。

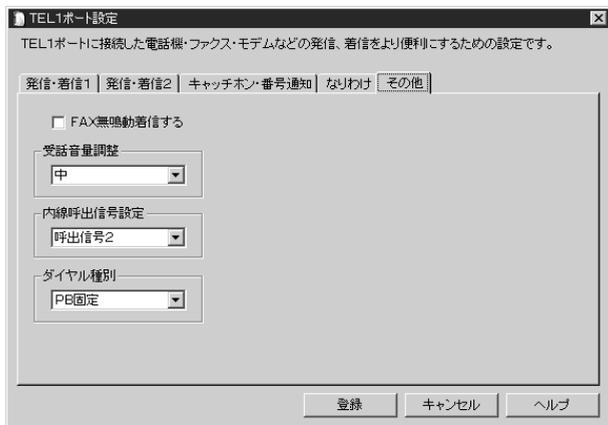
設定項目	説明	設定内容
INSなりわけする (取扱説明書▶P120)	INSなりわけサービスを利用するときに設定します。	<u>しない</u> する
疑似なりわけする (取扱説明書▶P121)	疑似なりわけを利用するときに設定します。	<u>しない</u> する
なりわけ動作設定 (取扱説明書▶P120、121)	INSなりわけサービスまたは疑似なりわけを利用する場合、なりわけの動作を選択します。	識別リングング セキュリティ(着信拒否)
疑似なりわけ番号 (取扱説明書▶P121)	疑似なりわけに登録する電話番号を入力します。サブアドレスを設定することもできます。	電話番号(最大32桁) サブアドレス(最大19桁)



### ワンポイント

- 疑似なりわけ番号をすべて消去するには  
疑似なりわけ番号欄の右下にある「クリア」をクリックすると、電話番号、サブアドレスをすべて消去することができます。

## ■ その他



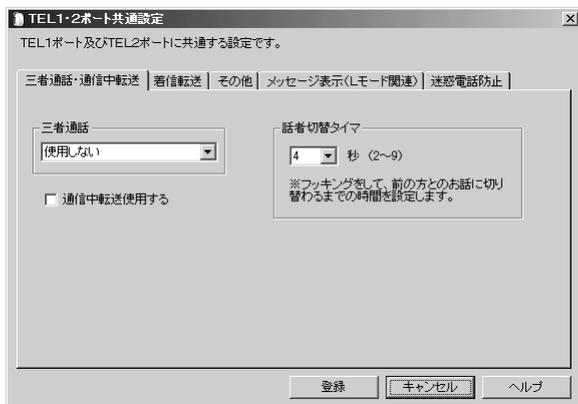
※下線\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
FAX無鳴動着信する (取扱説明書▶P139)	FAX無鳴動着信を利用するかどうかを選択します。	<u>し</u> ない する
受話音量調整 (取扱説明書▶P109)	このアナログポートに接続したアナログ通信機器の受話音量を調整します。	小 <u>中</u> 大
内線呼出信号設定 (取扱説明書▶P113)	内線通話、内線転送のときの呼出音を選択します。	呼出信号1「ブルルル、ブルルル…」 呼出信号 <u>2</u> 「ブルブル、ブルブル…」
ダイヤル種別 (取扱説明書▶P31、109)	このアナログポートにダイヤル式(DP)のアナログ通信機器を接続するとき、「DP固定」に設定します。	PB固定 DP固定

# TEL1・2ポート共通設定画面

メニュー画面で【TEL1・2ポート共通設定】をクリックすると表示される画面です。

## ■ 三者通話・通信中転送



※下線\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
三者通話 (取扱説明書●P126)	フレックスホンの三者通話、または疑似三者通話を利用するときに設定します。	使用しない 疑似三者通話する 三者通話する
通信中転送使用する (取扱説明書●P131)	通信中転送を利用するかどうかを選択します。	使用しない 使用する
話者切替タイマ (取扱説明書●P130)	三者通話などで話す相手を切り替えるとき、フッキングをしてから別の相手とのお話しに切り替わるまでの時間を設定します。	2~9 (秒) (お買い求め時：4秒)

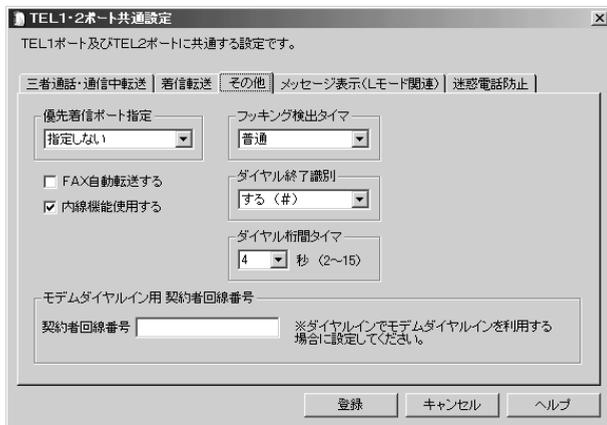
## ■ 着信転送

※下線\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
着信転送 (取扱説明書●P162)	フレックスホンの着信転送、または疑似着信転送を利用するときに設定します。	使用しない 疑似着信転送する 着信転送する
着信転送トークン設定 (取扱説明書●P162)	フレックスホンの着信転送をご利用のとき、電話をかけてきた方、転送する相手に流す音声(トークン)を設定します。	転送トークンなし、転送元トークンなし 転送トークンあり、転送元トークンなし 転送トークンなし、転送元トークンあり 転送トークンあり、転送元トークンあり
着信転送 転送元・転送先電話番号設定 (取扱説明書●P163)	着信転送の転送元電話番号、転送元サブアドレス、転送先電話番号を設定します。契約者回線番号用、ダイヤルイン/i・ナンバー用1、ダイヤルイン/i・ナンバー用2のそれぞれについて設定できます。	転送元電話番号(最大32桁) 転送元サブアドレス(最大19桁) 転送先電話番号(最大32桁)

# TEL1・2ポート共通設定画面

## ■ その他



※下線\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
優先着信ポート指定 (取扱説明書●P115)	どちらかのアナログポートを優先的に着信させたいときに設定します。	指定しない TEL1ポート TEL2ポート
FAX自動転送する (取扱説明書●P137)	FAX自動転送を利用するときに設定します。	しない する
内線機能使用する (取扱説明書●P113)	内線通話、内線転送を使用するかどうかを選択します。	使用しない 使用する
フッキング検出タイム (取扱説明書●P113)	フックスイッチを長めに押してもフッキングと認識させる場合は「長い」に、短めに押してもフッキングと認識させる場合は「短い」に設定します。	短い 普通 長い
ダイヤル終了識別 (取扱説明書●P109)	ダイヤル終了時にⓂボタンを押しても発信できないようにする場合は「しない」に、Ⓜボタンを2回押して発信できるようにする場合は「する(＃)」に設定します。	しない する(＃) する(＃＃)
ダイヤル桁間タイム (取扱説明書●P109)	ダイヤルボタンを押してから自動的に発信するまでの間隔を設定します。	2～15(秒) (お買い求め時：4秒)
モデムダイヤルライン用契約者回線番号 (取扱説明書●P156)	モデムダイヤルラインを利用する場合、契約者回線番号で着信したときに通知する電話番号を設定します。必ず市内局番から設定します。通常は、契約者回線番号を設定してください。	電話番号(最大20桁)

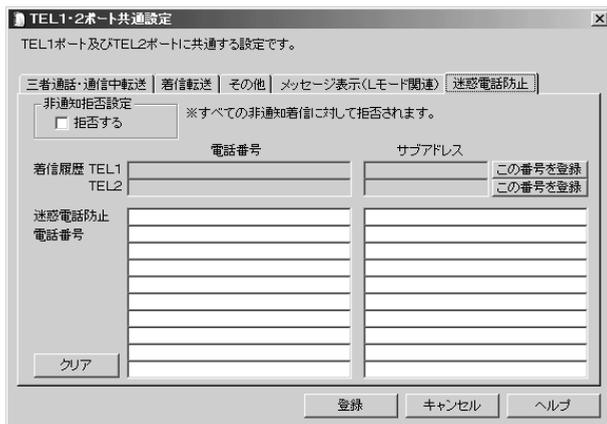
## ■ メッセージ表示（Lモード関連）



※下線\_\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
MSGランプ設定（Lモード関連） （取扱説明書 ● P133、135）	LモードまたはINSメッセージ到着お知らせサービスをご利用の場合、メッセージあり状態をランプで表示するときを設定します。	<u>メッセージあり状態表示をする</u> <u>メッセージあり状態表示をしない</u>

## ■ 迷惑電話防止



※下線\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
非通知拒否設定 (取扱説明書▶P125)	相手が電話番号を通知してこない場合の着信を拒否するときに設定します。	拒否する <u>拒否しない</u>
着信履歴	TEL1ポート、TEL2ポートの最新の着信履歴1件の電話番号、サブアドレスが表示されます。	
この番号を登録	クリックすると、着信履歴に表示されている電話番号が迷惑電話防止電話番号に登録されます。	
迷惑電話防止電話番号 (取扱説明書▶P124)	着信を拒否する相手の電話番号を入力します。最大20件登録できます。	電話番号 (最大32桁)



### ワンポイント

- 登録した迷惑電話防止電話番号をすべて消去するには  
画面左下にある [クリア] をクリックすると、電話番号をすべて消去することができます。



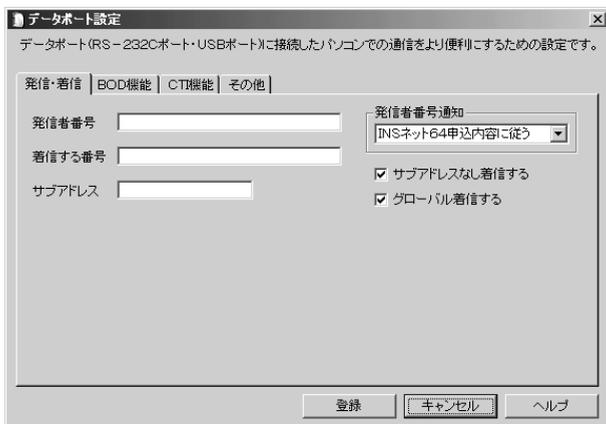
### お知らせ

- 相手の電話番号が通知されないときは、「着信履歴 TEL1」および「TEL2」の電話番号欄に、電話番号を表示できない理由の記号が表示されます。  
表示される記号の種類と意味
  - P：相手が電話番号を通知しない操作をしたとき  
相手が電話番号を通知しない契約になっているとき
  - O：INSナンバー・ディスプレイを提供していない地域からかかってきたとき
  - C：公衆電話からかかってきたとき
  - S：サービスが競合しているために電話番号を通知できないとき

# データポート設定画面

メニュー画面で【データポート設定】をクリックすると表示される画面です。

## ■ 発信・着信



※下線\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
発信者番号 (取扱説明書▶P140)	発信するときに通知する電話番号を入力します。	電話番号 (最大32桁)
着信する番号 (取扱説明書▶P152)	RS-232CポートまたはUSBポートに着信する電話番号を入力します。	電話番号 (最大32桁)
サブアドレス (取扱説明書▶P158)	RS-232CポートまたはUSBポートに設定するサブアドレスを入力します。	サブアドレス (最大19桁)
発信者番号通知 (取扱説明書▶P140)	RS-232CポートまたはUSBポートから発信するとき、発信者番号を通知するかどうかを設定します。	発信者番号通知する 発信者番号通知しない <u>INSネット64申込内容に従う</u>
サブアドレスなし着信する (取扱説明書▶P158)	サブアドレスが指定されていない着信を受けられるかどうかを設定します。	着信する 着信しない
グローバル着信する (取扱説明書▶P152)	INSネット64のグローバル着信の利用を契約している場合、グローバル着信を利用するかどうかを設定します。	着信する 着信しない

(前ページの続きです)



### お知らせ

- 発信者番号通知を「通知しない」または「通知する」に設定し、i・ナンバーを「使用する」に設定した場合は、必ず発信者番号（取扱説明書▶P140）を正しく設定してください。
- 「サブアドレスなし着信する」を選択しない場合は、サブアドレスのない着信（相手が契約者回線番号、i・ナンバー電話番号または追加番号のみで発信）は受けられなくなります。



### お願い

- 発信者番号を正しく設定しない場合、相手に発信者番号（取扱説明書▶P140）が正しく通知されません。また、INSネット64サービスが利用できない場合がありますので、発信者番号を正しく設定してください。

## ■ BOD機能

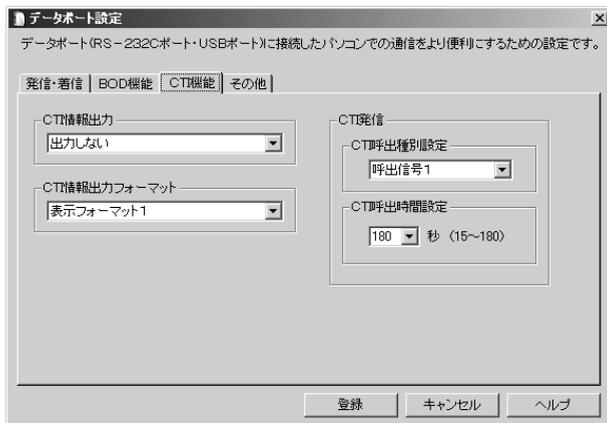


※下線\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
リソースBOD (P30)	リソースBODを利用するとき、利用するタイミングを選択します。	使用しない 発信/着信時に使用する 発信時に使用する 着信時に使用する
スループットBOD (P31)	スループットBODを利用するかどうかを選択します。スループットBODでBACPを利用する場合は、「使用する (BACP)」を選択します。	使用しない 使用する 使用する (BACP)
リンク追加 算出時間 (P31)	スループットBODを利用するときのリンク追加算出時間を指定します。	10~60 (秒) (お買い求め時: 30秒)
リンク追加 しきい値 (P31)	スループットBODを利用するときのリンク追加しきい値を指定します。	60~90 (%) (お買い求め時: 70%)
リンク削除 算出時間 (P31)	スループットBODを利用するときのリンク削除算出時間を指定します。	10~60 (秒) (お買い求め時: 10秒)
リンク削除 しきい値 (P31)	スループットBODを利用するときのリンク削除しきい値を指定します。	10~40 (%) (お買い求め時: 20%)

# データポート設定画面

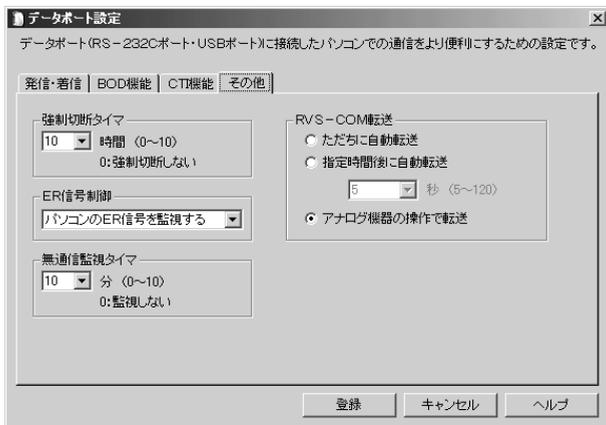
## ■ CTI機能



※下線\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
CTI情報出力 (P33)	アナログポートに着信したとき、相手の発信者番号または非通知理由、着信した番号をRS-232CポートまたはUSBポートに出力するかどうかを設定します。	出力しない TEL1への着信を出力する TEL2への着信を出力する TEL1またはTEL2への着信を出力する
CTI情報出力フォーマット (P33)	CTI情報出力フォーマットを設定します。「表示フォーマット1」に設定した場合は、転送元番号、ポート番号は表示されません。	表示フォーマット1 表示フォーマット2
CTI呼出種別設定 (P35)	CTI発信でアナログ通信機器を呼び出すときの呼出音を選択します。呼出音を鳴らさないときは、「送出しない」を選択します。「送出しない」を選択しても、「CTI呼出時間設定」で指定した時間内はCTI発信することができます。	送出しない 呼出信号1「ブルルル、ブルルル…」 呼出信号2「ブルブル、ブルブル…」
CTI呼出時間設定 (P35)	CTI発信でアナログ通信機器を呼び出す時間を指定します。	15~180 (秒) (お買い求め時：180秒)

## ■ その他



※下線\_\_は、お買い求め時の設定です。

設定項目	説明	設定内容
強制切断タイマ (●P28)	データ通信を開始してから強制的に切断するまでの時間を指定します。「0」にすると強制切断は行われません。	0～10 (時間) (お買い求め時：10時間)
ER信号制御 (●P29)	ER信号がないパソコン (Macintosh など) をお使いの場合は、「常時ON」を選択します。	パソコンのER信号を監視する 常時ON
無通信監視タイマ (●P28)	データの送受信がなくなってから自動的に切断するまでの時間を指定します。「0」にすると自動切断は行われません。	0～10 (分) (お買い求め時：10分)
RVS-COM転送 (●P39)	RVS-COMソフトウェアをご利用の場合、アナログポートへの着信をRS-232Cポートへ転送する方法を指定します。	ただちに自動転送 指定時間後に自動転送 5～120 (秒) アナログ機器の操作で転送

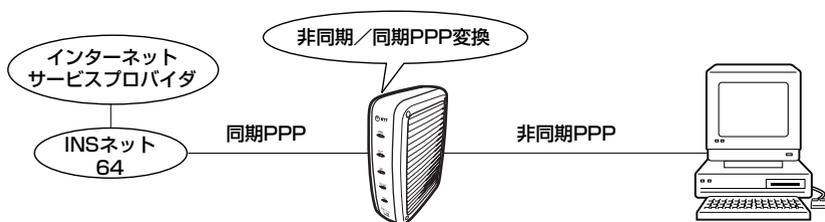
## 利用できる通信モード

本商品は、インターネットサービスプロバイダに非同期／同期PPP変換、または128KマルチリンクPPPの通信モードで接続できます。

通信モードは、イーージーウィザードの「インターネット接続の設定」で設定したり、付属のCD-ROMからパソコンにモデム定義ファイル（Windows®対応機種の場合）やCCLファイル（Macintoshの場合）をインストールすることにより設定することができます。

### 非同期／同期PPP変換

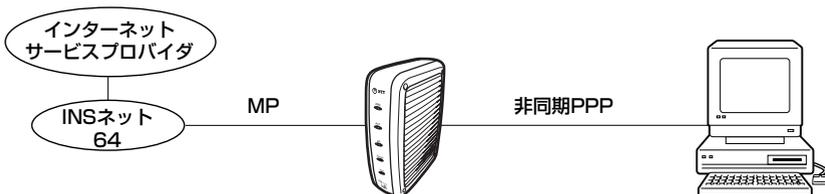
パソコンからの非同期PPP（Point to Point Protocol）データを同期PPPデータに変換して通信するモードです。また、この逆の動作も行います。インターネットの同期64 kbit/sの接続サービスを利用するときの通信モードです。



### 128KマルチリンクPPP

マルチリンクプロトコル（MP）方式により、INSネット64の2本のBチャンネルを使って128 kbit/sで通信するモードです。インターネットサービスプロバイダが128KマルチリンクPPPに対応したアクセスポイントを持つ場合に利用できます。

128KマルチリンクPPPは、発信専用の機能です。



## 自動応答

INSネット64からの着信には、自動応答します。128KマルチリンクPPPで着信した場合は、Bチャンネル1本のみ自動応答します。



### ワンポイント

- 128KマルチリンクPPPで接続しているときは
  - 本商品のACTランプが赤く点灯します。
  - アナログポートでの発信、着信はできません。
- 128KマルチリンクPPPの通信料金は  
2本のBチャンネルを使用するので、非同期/同期PPP変換で1本のBチャンネルを使用しているときの2倍の通信料金がかかります。
- 使用するチャンネル数を自動的に変更するには（BOD機能）  
128KマルチリンクPPP通信でデータ通信を行っているとき、アナログ通信機器の発着信または通信データ量によって、使用するチャンネル数を自動的に変更することができます。（▶P30）



### お願い

- RS-232Cポートで通信する場合、128KマルチリンクPPPでは本商品とパソコン間の通信速度は230.4 kbit/sでを使用することをおすすめします。Windows®対応機種で使用する場合、お使いになるパソコンが230.4 kbit/sに対応していないときは、別途230.4 kbit/sに対応した市販の高速RS-232Cボードが必要です。  
Macintoshで使用する場合は、230.4 kbit/s対応の機種をお使いください。  
115.2 kbit/sで使用される場合は、十分な通信速度が出ない場合があります。

# 通信を自動的に切断するには (無通信監視／強制切断)

無通信状態が続いたときに自動切断したり、一定時間が経過すると強制的に切断したりすることができます。

## 無通信監視

通信相手とデータのやりとりが無い状態が続いたとき、通信を自動切断することができます。お買い求め時は10分で切断するように設定されています。

インターネットサービスプロバイダによっては、監視パケットなどを定期的に発信する場合があります。この場合は自動切断されませんので、必ずパソコンから切断操作を行うか、強制切断機能をご利用ください。

### ● 必要な設定

自動切断するまでの時間を変更する場合は、無通信監視タイマの時間を変更します。無通信監視を行わない場合は、無通信監視タイマを「0」に設定します。

機能	PCで設定 (P25)	設定内容
無通信監視タイマ	データポート設定画面 「その他」	自動切断するまでの時間を0～10(分)の範囲で設定する

## 強制切断

通信時間が設定した時間を超えたとき、強制的に切断することができます。お買い求め時は10時間で切断するように設定されています。

インターネットサービスプロバイダが監視パケットなどを定期的に発信するため、無通信監視タイマを利用できない場合でも、うっかりした切断忘れを防止できます。

### ● 必要な設定

強制切断するまでの時間を変更する場合は、強制切断タイマの時間を変更します。強制切断を行わない場合は、強制切断タイマを「0」に設定します。

機能	PCで設定 (P25)	設定内容
強制切断タイマ	データポート設定画面 「その他」	強制切断するまでの時間を0～10(時間)の範囲で設定する

## お知らせ

- 一般的に、通信ソフトウェアでは、ER信号を使った切断、ATコマンドによる切断(+++, ATH)の2つで切断します。Macintoshのモデムポート、プリンタポートでは、通信ポートで一般的に使われるER信号とRS信号を1つの信号で制御しているため、ER信号による切断ができません。ソフトウェアの異常で画面上は切断されていても、ATコマンドが送出されず、実際は切断できていない場合もあります。通信費用の節約のためにも強制切断タイマを設定しておくことをお勧めします。

## ER信号を制御するには

ER信号は、RS-232CポートまたはUSBポートに接続したパソコンが動作準備できているかどうかを本商品に知らせる信号です。ER信号のないパソコンをご使用になる場合は、パソコンのER信号を常にONとみなすように設定する必要があります。

### ● 必要な設定

MacintoshでRS-232Cポートをお使いの場合は、ER信号を「常時ON」に設定します。お買い求め時は、「パソコンのER信号を監視する」に設定されています。

機能	PCで設定 (P25)	設定内容
ER信号制御	データポート設定画面 「その他」	ER信号のないパソコン (Macintoshなど) をお使いの場合は、「常時ON」を選択する

1  
設定ユーティ  
リティの活用

2  
パソコンでの  
設定画面

3  
いろいろな  
通信機能

4  
RS-232C  
ポートの設定



### ワンポイント

#### ● Macintoshの制御信号について

Macintoshのモデムポート、プリンタポートでは、通信ポートで一般的に使われるER信号とRS信号を1つの信号で制御しています。ER信号を「常時ON」にしていないと、RS-CSフロー制御を使ったデータ通信中にフローがかかったとき、ER信号 (RS信号) がOFFになり、通信が切断されてしまいます。

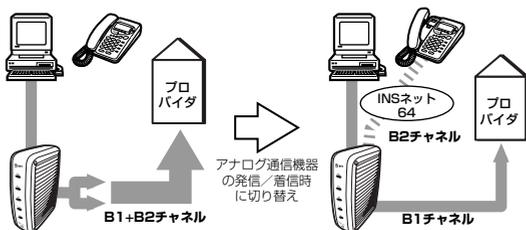
# BOD機能を利用するには

BOD (Bandwidth On Demand) とは、128KマルチリンクPPP (MP) でデータ通信を行っているとき、使用するチャンネルの数を自動的に変更する機能です。  
アナログ通信機器の発着信によって変更する「リソースBOD」、通信データ量によって変更する「スループットBOD」の2つの方式があります。

## リソースBOD

リソースBODを設定すると、128KマルチリンクPPP (MP) でデータ通信を行っているとき、アナログポートに接続した電話機やファクスに発着信があると、データ通信のBチャンネルを1本削除して電話機やファクスが使用できるようになります。

電話機やファクスの使用が終わると、Bチャンネルを1本追加して128KマルチリンクPPP (MP) 通信に戻ります。



アナログ通信機器を使用していないときは、2本のBチャンネルを使用する  
アナログ通信機器の発信時/着信時に、1本のBチャンネルに切り替える

### ● 必要な契約

INSネット64の契約で「通信中着信通知サービス」の利用を選択する必要があります。

### ● 必要な設定

リソースBODの設定で、リソースBODをいつ利用するかを選択します。

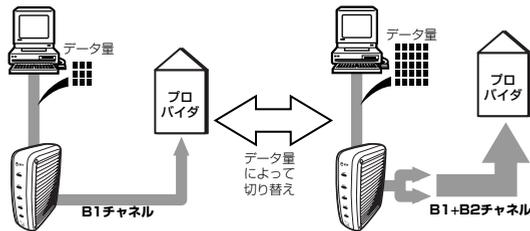
機能	PCで設定 (←P23)	設定内容
リソースBOD	データポート設定画面 「BOD機能」	リソースBODを利用する場合は、次の中から利用するタイミングを選択する 「発信/着信時に使用する」:アナログ通信機器からの発信時、およびアナログ通信機器への着信時に利用する 「発信時に使用する」: アナログ通信機器からの発信時に利用する 「着信時に使用する」:アナログ通信機器への着信時に利用する

### ● お知らせ

- プロバイダの混雑状況によっては、アナログ通信機器の使用が終わったあとにBチャンネルを追加できないことがあります。ACT (Active) ランプの状態を確認できます。このときは、ハンドセットを取りあげて置く操作をすると、もう一度Bチャンネルの追加を試みます。
- Bチャンネルの追加と電話をかけるタイミングが重なったときには、話中音が聞こえることがあります。このときは、再度電話をかけ直してください。
- リソースBODとスループットBODの両方を利用するときは、アナログ通信機器の使用が終わってもRS-232CポートまたはUSBポートの通信データ量がしきい値以上にならないとBチャンネルを追加しません。
- リソースBODは、S/Tユニット (オプション) のS/T端子に接続したINSネット64用通信機器では利用できません。

## スループットBOD

スループットBODを設定すると、通信データ量が少ないときには1本のBチャンネルを使用し、多いときは2本のBチャンネルを使用して通信を行うことができます。



データ量が少ないときは、1本のBチャンネルを使用する  
データ量が多いときは、2本のBチャンネルを使用する

### ● 必要な設定

スループットBODを「使用する」または「使用する (BACP)」に設定します。BACPに対応したインターネットサービスプロバイダをご利用の場合は、スループットBODを「使用する (BACP)」に設定します。

リンク追加算出時間、リンク追加しきい値、リンク削除算出時間、リンク削除しきい値で、Bチャンネルを追加／削除するときの算出時間とデータ量を設定します。

「リンク追加算出時間」内の通信データ量が「リンク追加しきい値」より大きくなると、Bチャンネル2本で通信します。また、「リンク削除算出時間」内の通信データ量が「リンク削除しきい値」より小さくなると、Bチャンネル1本で通信します。

機能	PCで設定 (P23)	設定内容
スループットBOD	データポート設定画面 「BOD機能」	スループットBODを利用する場合は、次のどちらかを選択する 「使用する」：スループットBODを使用する 「使用する (BACP)」：スループットBODでBACPを利用する
リンク追加 算出時間	データポート設定画面 「BOD機能」	10～60 (秒) の範囲で設定する (お買い求め時：30秒)
リンク追加 しきい値	データポート設定画面 「BOD機能」	60～90 (%) の範囲で設定する (お買い求め時：70%)
リンク削除 算出時間	データポート設定画面 「BOD機能」	10～60 (秒) の範囲で設定する (お買い求め時：10秒)
リンク削除 しきい値	データポート設定画面 「BOD機能」	10～40 (%) の範囲で設定する (お買い求め時：20%)

## BOD機能を利用するには

(前ページの続きです)

### ■ 設定例

以下のように設定する場合

- 40秒間の通信データ量の平均値が、51.2 kbit/s（64 kbit/sの80%）より大きくなったとき、Bチャンネル2本で通信する
- 20秒間の通信データ量の平均値が、6.4 kbit/s（64 kbit/sの10%）より小さくなったとき、Bチャンネル1本で通信する

機能	設定内容
スループットBOD	「使用する」または「使用する（BACP）」を選択する
リンク追加 算出時間	40（秒）に設定する
リンク追加 しきい値	80（%）に設定する
リンク削除 算出時間	20（秒）に設定する
リンク削除 しきい値	10（%）に設定する



### ワンポイント

#### ● BACPとは

BACP（Bandwidth Allocation Control Protocol）とは、Bチャンネルの追加、削除を行っていかどうかをインターネットサービスプロバイダに問い合わせる方式です。



### お知らせ

- しきい値は、64 kbit/s（Bチャンネル1本分）を100%として計算しています。
- プロバイダの状況、データ通信の利用状況（Webページを見る、ダウンロードするなど）、アクセスポイントの混雑状況などによっては、Bチャンネルの追加と削除が頻繁に発生して、料金が高くなる場合があります。
- 本商品はプロバイダからのBチャンネル削除、追加要求があると拒否するように設計されています。プロバイダから強制的にBチャンネルを追加、削除された場合には、通信エラーとなる可能性があります。ただし、一般的なプロバイダでは、このような要求はありませんので問題ありません。
- Bチャンネルを追加、削除した直後はそれ以前の通信データ量を200%または0%として計算するため、通信データ量によっては「リンク追加算出時間」または「リンク削除算出時間」を経過する前にBチャンネルの追加、削除が行われる場合があります。

# CTI機能を利用するには

CTI (Computer Telephony Integration) とは、アナログポートへの着信時に通知される情報をパソコンで処理するなど、電話とパソコンを統合的に利用する機能です。CTI情報出力とCTI発信の2つの機能があります。

CTIを実現するには、別途INSメイトV30Slim対応のアプリケーションソフトのご購入が必要です。

## CTI情報出力

アナログポートへ着信したとき、発信者番号、着信した番号などの情報をRS-232CポートまたはUSBポートに出力することができます。電話をかけてきた方の電話番号の表示や管理ができます。RS-232CポートまたはUSBポートが空いているときに限り、1回のみ出力します。



### ● 必要な契約

一般の電話回線からの着信時に、相手先の電話番号をRS-232CポートまたはUSBポートに出力するには、INSナンバー・ディスプレイの契約（有料）が必要です。

### ● 必要な設定

どのアナログポートへ着信したかの情報をRS-232CポートまたはUSBポートに出力するか、CTI情報出力を設定する必要があります。出力する形式を選択する場合は、CTI情報出力フォーマットを設定します。

機能	PCで設定 (P24)	設定内容
CTI情報出力	データポート設定画面 「CTI機能」	次の中から、情報を出力するアナログポートを選択する 「TEL1への着信を出力する」 「TEL2への着信を出力する」 「TEL1またはTEL2への着信を出力する」
CTI情報出力フォーマット	データポート設定画面 「CTI機能」	「表示フォーマット1」「表示フォーマット2」のいずれかを選択する ※表示フォーマット1の場合、転送元番号、ポート番号は表示されません

### ■ 表示フォーマット1

#### ● 出力するデータ形式

CR	LF	RING	ANALOG	発番号/発サブアドレス	着番号/着サブアドレス	CR	LF
----	----	------	--------	-------------	-------------	----	----

CR : 0Dh 発番号 : 最大32桁

LF : 0Ah 発サブアドレス : 最大19桁

(スペース) : 20h 着番号 : 最大32桁

着サブアドレス : 最大19桁

/ (スラッシュ) : 2Fh

(次ページへ続きます)

# CTI機能を利用するには

(前ページの続きです)

## ● 非通知理由を受信したとき

発番号、発サブアドレスの代わりに、次のような非通知理由が出力されます。

CR	LF	RING_ANALOG_非通知理由_着番号/着サブアドレス	CR	LF
----	----	-------------------------------	----	----

非通知理由P (50h) : ユーザ拒否  
 O (4Fh) : サービス提供不可  
 C (43h) : 公衆電話発信  
 S (53h) : サービス競合

## ■ 表示フォーマット2

### ● 出力するデータ形式

CR	LF	RING_ANALOG_発番号/発サブアドレス_着番号/着サブアドレス; 転送元番号_ポート番号	CR	LF
----	----	--	----	----

CR : ODh 発番号 : 最大32桁 転送元番号: 最大20桁  
 LF : OA h 発サブアドレス: 最大19桁 ポート番号: TEL1  
 \_ (スペース) : 20h 着番号 : 最大32桁 TEL2  
 着サブアドレス: 最大19桁 TEL1 2  
 / (スラッシュ) : 2Fh

## ● 非通知理由を受信したとき

発番号、発サブアドレスの代わりに、次のような非通知理由が出力されます。

CR	LF	RING_ANALOG_非通知理由_着番号/着サブアドレス; 転送元番号_ポート番号	CR	LF
----	----	--	----	----

非通知理由 P (50h) : ユーザ拒否 転送元番号: 最大20桁  
 O (4Fh) : サービス提供不可 ポート番号: TEL1  
 C (43h) : 公衆電話発信 TEL2  
 S (53h) : サービス競合 TEL1 2



## ワンポイント

### ● 出力する着番号は

- ダイヤルインを契約していない場合、およびグローバル着信でダイヤルインを契約している場合  
 モデムダイヤルイン用契約者回線番号に設定した電話番号がRS-232CポートまたはUSBポートに出力されます。
- i・ナンバーをご利用の場合  
 i・ナンバーを「使用する」に設定し、i・ナンバー電話番号を登録すると、その番号が出力されます。i・ナンバー電話番号を登録しないと出力されません。



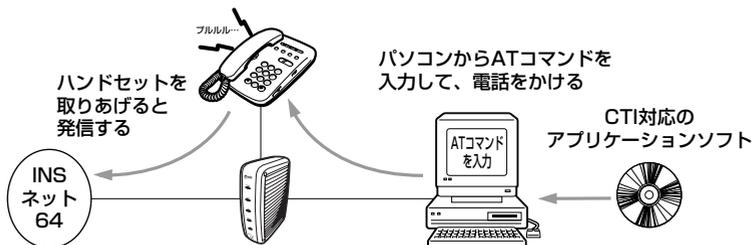
## お知らせ

- RS-232Cポートへの出力時、CI信号は変化しません。
- 設定ユーティリティで本機能を行うよう設定したあと、設定ユーティリティを終了する前にアナログポートへ着信があると、「ATコマンドエラー」と表示される場合があります。
- パソコンを最初に接続したときや、パソコンの速度を変更したときは、ターミナルソフトで必ず「AT」を入力してください。「AT」を入力しない場合、文字化けなど正しく動作しないことがあります。
- この取扱説明書では、CTI機能を利用するための出力フォーマットを公表しておりますが、これらはお客様の用意されるソフトウェアの動作を保証するものではありません。

## CTI発信

RS-232CポートまたはUSBポートに接続したパソコンからATコマンドを入力して、アナログポートに接続した電話機から発信することができます。

CTI発信は、同時に2つのアナログポートで行うことができます。



### ● 必要な設定

アナログ通信機器の着信音を鳴らさないようにしたり、着信音の音を変えるには、CTI呼出種別設定を変更します。お買い求め時は、「呼出信号1」に設定されています。

アナログ通信機器を呼び出すまでの時間を変えるには、CTI呼出時間設定を変更します。お買い求め時は、180秒に設定されています。

機能	PCで設定 (P24)	設定内容
CTI呼出種別設定	データポート設定画面 「CTI機能」	次の中から、アナログ通信機器の着信音を選択する 「送出不しい」：着信音を鳴らさない 「呼出信号1」：「ブルブル、ブルブル…」 (お買い求め時の設定) 「呼出信号2」：「ブルブル、ブルブル…」
CTI呼出時間設定	データポート設定画面 「CTI機能」	15～180 (秒) の範囲で設定する

### ● CTI発信の手順

- ① パソコンからATコマンドを入力する。  
ATコマンドで指定したアナログポートに接続されているアナログ通信機器の着信音が180秒間 (CTI呼出時間設定の設定内容) 鳴ります。
- ② 着信音が鳴っている間に、アナログ通信機器のハンドセットを取りあげる。  
ATコマンドで入力した電話番号で、本商品が自動的に発信します。着信音が鳴っている間にハンドセットを取りあげないと、呼び出しを中止します。  
すでに2本のBチャンネルを使用している場合は、ハンドセットを取りあげると、話中音が聞こえます。
- ③ 相手が出たら、お話しする。

## CTI機能を利用するには

(前ページの続きです)

### ● CTI発信のATコマンド

AT!D	アナログポート番号；相手の方の電話番号（着番号／着サブアドレス）	CR
------	----------------------------------	----

アナログポート番号：1または2    着サブアドレス：最大19桁  
 ;（セミコロン）：区切り子    /（スラッシュ）：着番号と着サブアドレスの区切り子  
 着番号：最大32桁

### ● CTI発信の取り消し

アナログ通信機器を呼び出ししている間に、次のATコマンドで発信を取り消すことができます。

AT!H	アナログポート番号	CR
------	-----------	----



### ワンポイント

- アナログ通信機器を呼び出し中に電話がかかってきたときは  
電話をかけてきた方には、話中音が聞こえます。



### お知らせ

- CTI発信後、内線転送を行った場合、パソコンへ通知するアナログポート番号はCTI発信時のアナログポート番号です。
- CTI発信後にAT!D、AT!H、および設定系コマンド（ATZ,ATZ98を含む）以外のATコマンドを入力した場合は、パソコンへERRORを通知します。
- ATD¥によるCTI発信はできません。
- CTI発信中にER信号がOFFになった場合は、ER信号制御の設定により下記の動作になります。

ER信号制御の設定	設定時の動作
パソコンのER信号を監視する	アナログ通信機器の呼び出しを停止する。その後のリザルトコードはパソコンへ通知しない。
常時ON	CTI発信動作を継続する。

- パソコンを最初に接続したときや、パソコンの速度を変更したときは、必ず「AT」を入力してください。「AT」を入力しない場合、文字化けなど正しく動作しないことがあります。
- アナログ通信機器によっては、CTI呼出種別設定（●P35）の呼出信号2の着信音が正常に鳴らない機種があります。
- この「参考情報」では、CTI発信を利用するための出力フォーマットを公表しておりますが、これらはお客様の用意されるソフトウェアの動作を保証するものではありません。

## ● リザルトコードフォーマットと通知条件

## ● CONNECTフォーマット

CR	LF	CONNECT_T	アナログポート番号	CR	LF
----	----	-----------	-----------	----	----

CR : 0Dh

LF : 0Ah

\_ (スペース) : 20h

アナログポート番号 : 1または2

通知条件

- ① 相手応答時

## ● OKフォーマット

CR	LF	OK_T	アナログポート番号	CR	LF
----	----	------	-----------	----	----

通知条件

- ① CTI発信による通話中ではないアナログポートを指定してAT!Hコマンドを入力したとき

## ● NO CARRIERフォーマット

CR	LF	NO_CARRIER_T	アナログポート番号	CR	LF
----	----	--------------	-----------	----	----

通知条件

- ① 終話時および相手話中以外で接続不可時
- ② CTI発信後アナログ通信機器を呼び出し中にAT!Hコマンドで発信を取り消したとき
- ③ CTI発信後アナログ通信機器を呼び出し、ハンドセットを取りあげたときに、すでにBチャネル2本を使用していた場合
- ④ CTI発信で指定したアナログポートに発信規制が設定されている場合
- ⑤ CTI発信で指定したアナログポートの接続機器設定が「接続しない」に設定されている場合
- ⑥ 回線異常状態でのCTI発信時

## ● BUSYフォーマット

CR	LF	BUSY_T	アナログポート番号	CR	LF
----	----	--------	-----------	----	----

通知条件

- ① 相手話中時

## ● ERRORフォーマット

CR	LF	ERROR_T	アナログポート番号	CR	LF
----	----	---------	-----------	----	----

通知条件

- ① 着番号、着サブアドレスの最大桁数を越えた番号でCTI発信した場合
- ② 使用中のアナログポートにCTI発信した場合
- ③ アナログポート番号を指定したあと、着番号を指定しないでCTI発信した場合
- ④ CTI発信からCTI呼出時間として設定されている時間内にアナログ通信機器のハンドセットを取りあげない場合
- ⑤ データ通信のオンラインコマンドモードでCTI発信した場合
- ⑥ データ通信のオンラインコマンドモードでCTI発信を取り消した場合

CR	LF	ERROR	CR	LF
----	----	-------	----	----

通知条件

- ① アナログポート番号と着番号を指定しないでCTI発信した場合
- ② アナログポート番号を指定しないでCTI発信した場合およびCTI発信を取り消した場合
- ③ アナログポート番号を1または2以外でCTI発信した場合およびCTI発信を取り消した場合

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

- ④ CTI発信した通話が終了する前にデータ通信で発信した場合
- ⑤ AT!Hコマンドのあとに他のATコマンドを続けて入力した場合

• ER OFFフォーマット

CR	LF	ER_OFF_T	アナログポート番号	CR	LF
----	----	----------	-----------	----	----

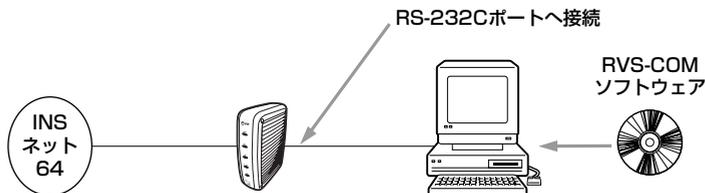
通知条件

- ① ER信号がOFFでCTI発信を行った場合

# RVS-COM機能を利用するには

本商品のRS-232Cポートでは、RVS-COMを使用したファクスの送受信、電話機能を利用できます。RS-232Cポートに接続したパソコンから、ファクスの送受信などが行えます。

本機能は、RS-232Cポート専用です。USBポートではご利用になれません。



## ●必要な設定

RVS-COM転送の設定が必要です。

お買い求め時は、「アナログ機器の操作で転送」に設定されています。

機能	PCで設定 (P25)	設定内容
RVS-COM転送	データポート設定画面 「その他」	次のいずれかを選択する 「ただちに自動転送」：アナログ通信機器の着信音を鳴らさず、ただちに転送する 「指定時間後に自動転送」：設定した時間（5～120秒）後に転送する 「アナログ機器の操作で転送」：アナログ通信機器をオフフックしたあと、フッキングし、 <b>(*)</b> <b>(*)</b> <b>(8)</b> を押して転送する（お買い求め時の設定） 「指定時間後に自動転送」を選択した場合は、5～120（秒）の範囲で時間を設定する

RVS-COM転送とRVS-COMへの移行時間は、電話機から設定することもできます。

機能	TELで設定 (取扱説明書P176)	設定内容
RVS-COM転送	機能番号：81	次のどちらかを選択する 「アナログ機器の操作で転送／指定時間後に自動転送」：アナログ通信機器をオフフックしたあと、フッキングし <b>(*)</b> <b>(*)</b> <b>(8)</b> を押して転送する。または、指定時間後に自動的に転送する（お買い求め時の設定） 「ただちに自動転送」：アナログ通信機器の着信音を鳴らさず、ただちに転送する
RVS-COMへの移行時間	機能番号：82	指定時間後に自動転送する場合は、RVS-COM転送の設定で「アナログ機器の操作で転送／指定時間後に自動転送」を選択し、転送までの時間を5～120（秒）の範囲で設定する （お買い求め時の設定：「無応答時転送しない」）

（次ページへ続きます）

1  
リ  
デ  
ィ  
の  
活  
用

2  
パ  
ソ  
コ  
ン  
で  
の  
設  
定  
画  
面

3  
通  
信  
機  
能

4  
ポ  
ー  
ト  
の  
設  
定

(前ページの続きです)



## ワンポイント

● RVS-COMとは

パソコンから直接ファクス送信などができる通信ソフトウェアです。本商品には、RVS-COMソフトウェアは添付されていないので、別途ご用意ください。



## お知らせ

- RVS-COMについての情報や使用方法については、メガソフト社のホームページをご覧ください。

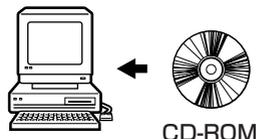
# イーザーウィザードでRS-232C ポートを使うには (Windows Vista®)

本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポート（シリアルポート）を接続して使うために、イーザーウィザードを使って、モデム定義ファイルとRS-232Cポート用ドライバをインストールします。  
操作を始める前に、本商品とパソコンが接続されていないことを確認してください。

## 1 本商品とパソコンが接続されていないことを確認する。

## 2 INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

自動的にV30Slimの案内ページが表示されます。



CD-ROM

(次ページへ続きます)



### ワンポイント

#### ● 自動的に案内ページが表示されない場合は

- ① [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックする。
- ② CD-ROMをセットしたドライブの [V30Slim] アイコンをダブルクリックする。
- ③ ②を行っても案内ページが表示されない場合は、[V30Slim.exe] をダブルクリックする。  
以降は手順3へ進みます。



### お知らせ

- ご使用前に必ず案内ページの「本CD-ROMのお取り扱い上の注意」を開いてお読みください。
- このページの内容は一例を示しています。



### お願い

- イーザーウィザードを起動する前に、他のアプリケーションをすべて終了させてください。  
マウスポインタを自動的に移動させるソフトなど、システムに常駐しているもの（[スタートアップ] グループに登録してあるもの）も終了させてください。他のアプリケーションを起動したままイーザーウィザードを実行すると、システムが応答しなくなる可能性があります。

## イーザーウィザードでRS-232C ポートを使うには (Windows Vista®)

(前ページの続きです)

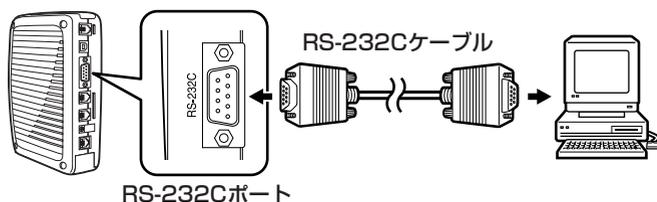
### 3 [ユーティリティのインストール] をクリックする。

インストール確認画面が表示されます。



案内ページ

### 4 本商品とパソコンをRS-232Cケーブルで接続する。



#### ワンポイント

- イーザーウィザードを利用できないときは  
イーザーウィザードを使わない方法で必要なソフトウェアをインストールしてください。(☛「手動設定編」)

#### お願い

- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。
- RS-232Cケーブルを接続したままパソコンを起動すると、Windows® のプラグアンドプレイ機能が働きRS-232Cポート用ドライバが正常にインストールされない場合があります。  
このような場合はいったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、正しい手順でインストールをやり直してください。
- RS-232Cポートが複数有るパソコンで、接続するRS-232Cポートを変更する場合は、いったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、再度インストールをしてください。

## 5 [次へ>] をクリックする。



## 6 インストール先を確認し、[次へ>] をクリックする。

インストール先を変更する場合は [変更] をクリックしてインストール先を指定します。



## 7 [インストール] をクリックする。

自動的にインストールが行われます。



## 8 [再起動] をクリックする。

パソコンが再起動します。ここで [INS-MIT-V30Slim イージーウィザードを起動する] がチェックされている場合は、パソコンが再起動したのち、イージーウィザードが起動します。



(次ページへ続きます)

1  
リ  
デ  
ィ  
の  
活  
用

2  
パ  
ソ  
コ  
ン  
で  
の  
設  
定  
画  
面

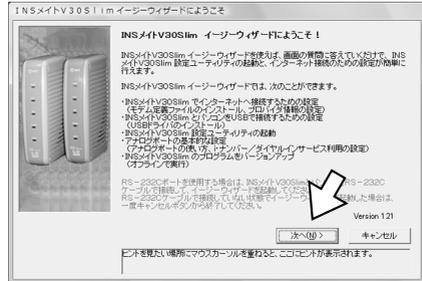
3  
通  
信  
機  
能  
な  
い  
ろ  
ろ  
の  
機  
能

4  
R  
e  
s  
t  
a  
r  
t  
u  
p  
の  
設  
定

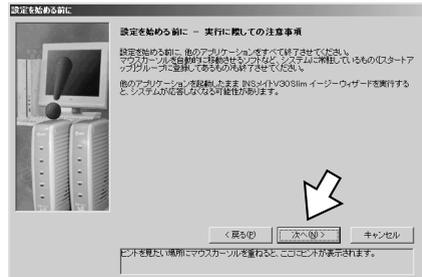
# イーザーウィザードでRS-232C ポートを使うには (Windows Vista®)

(前ページの続きです)

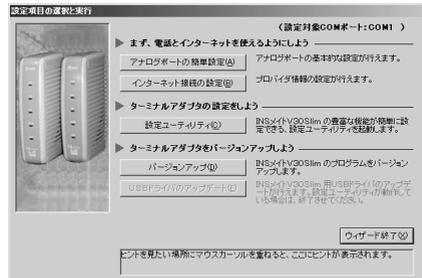
**9** 右の画面が表示されたら、[次へ>]  
をクリックする。



**10** [次へ>] をクリックする。

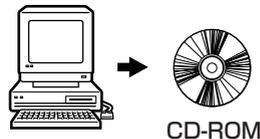


イーザーウィザードが起動し、[設定項目の  
選択と実行] 画面が表示されます。  
インストール後は、自動的に [アナログポート  
の簡単設定]、[インターネット接続の設定]  
が順に起動します。



**11** CD-ROMドライブからCD-ROM  
を取り出す。

インストールが完了しました。



引き続き、「アナログポートの設定を行うには」  
(取扱説明書 P50) へ進みます。

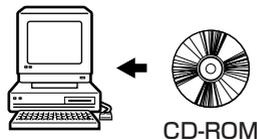
# イーザーウィザードでRS-232C ポートを使うには (Windows<sup>®</sup> XP/2000)

本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポート（シリアルポート）を接続して使うために、イーザーウィザードを使って、モデム定義ファイルとRS-232Cポート用ドライバをインストールします。  
操作を始める前に、本商品とパソコンが接続されていないことを確認してください。

## 1 本商品とパソコンが接続されていないことを確認する。

## 2 INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

自動的にV30Slimの案内ページが表示されます。



CD-ROM

## 3 [ユーティリティのインストール] をクリックする。

インストール確認画面が表示されます。



案内ページ

(次ページへ続きます)



### ワンポイント

- 自動的に案内ページが表示されない場合は
  - ① [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックする。
  - ② CD-ROMをセットしたドライブの [V30Slim] アイコンをダブルクリックする。
  - ③ ②を行っても案内ページが表示されない場合は、[V30Slim.exe] をダブルクリックする。以降は手順3へ進みます。



### お知らせ

- ご使用前に必ず案内ページの「本CD-ROMのお取り扱い上の注意」を開いてお読みください。
- このページの内容は一例を示しています。



### お願い

- イーザーウィザードを起動する前に、他のアプリケーションをすべて終了させてください。マウスポインタを自動的に移動させるソフトなど、システムに常駐しているもの（[スタートアップ] グループに登録してあるもの）も終了させてください。他のアプリケーションを起動したままイーザーウィザードを実行すると、システムが応答しなくなる可能性があります。

1  
設定ユーティ  
リの活用

2  
パソコンでの  
設定画面

3  
いろいろな  
通信機能

4  
RS-232C  
ポートの設定

(前ページの続きです)

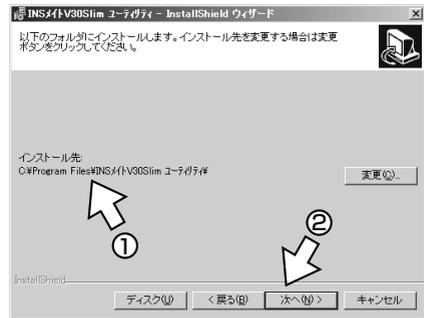
## 4 [次へ>] をクリックする。

ここで、パソコンの再起動をうながす画面が出た場合は、画面の説明に従って [再起動] をクリックしてパソコンを再起動したのち、この手順からやり直します。



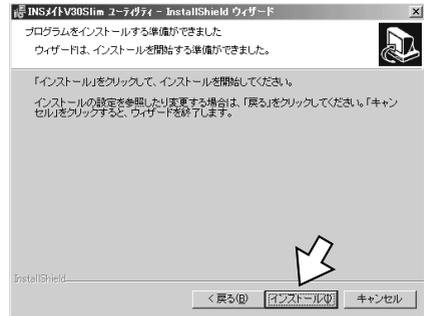
## 5 インストール先を確認し、[次へ>] をクリックする。

インストール先を変更する場合は [変更] をクリックしてインストール先を指定します。



## 6 [インストール] をクリックする。

自動的にインストールが行われます。

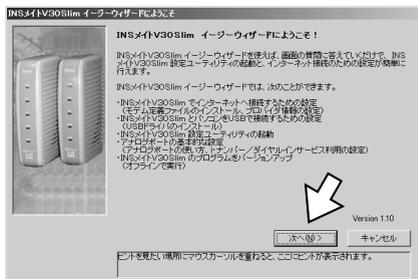


## 7 [再起動] をクリックする。

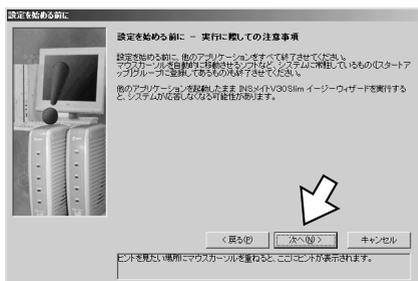
パソコンが再起動します。  
ここで [INS-MIT-V30Slim イーザーウィザードを起動する] がチェックされている場合は、パソコンが再起動したのち、イーザーウィザードが起動します。



## 8 右の画面が表示されたら、[次へ>] をクリックする。



## 9 [次へ>] をクリックする。



(次ページへ続きます)



### ワンポイント

- スタートメニューからイージーウィザードを起動するには [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] (または [すべてのプログラム]) - [INS-Meit V30Slim ユーティリティ] - [INS-Meit V30Slim イージーウィザード] をクリックします。起動中の画面が表示され、手順8の画面が表示されます。起動するまでに時間がかかることがあります。
- イージーウィザードを利用できないときは イージーウィザードを使わない方法で必要なソフトウェアをインストールしてください。(☛「手動設定編」)

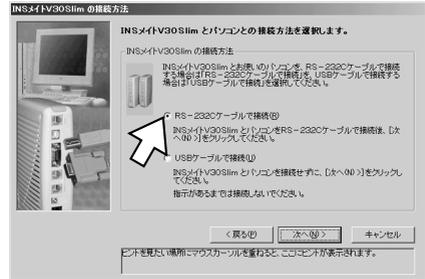


### お願い

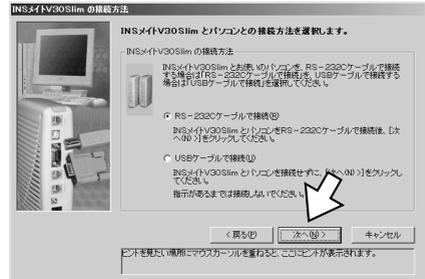
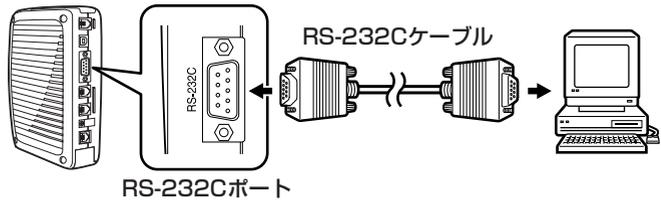
- 拡張RS-232Cポートをお使いの場合は、「拡張RS-232Cポートを使うには (Windows® XP)」(☛P132) または「拡張RS-232Cポートを使うには (Windows® 2000)」(☛P141) を参照してインストールしてください。

(前ページの続きです)

## 10 [RS-232Cケーブルで接続] が選 択されていることを確認する。



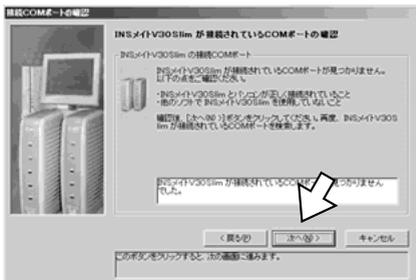
## 11 本商品とパソコンをRS-232Cケーブルで接続し、[次へ>] をクリックする。



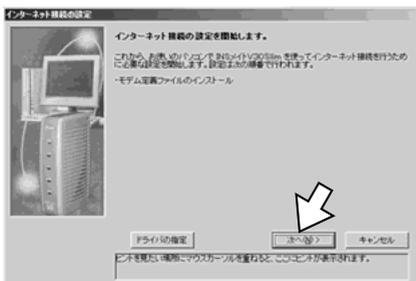
### STOP お願い

- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。
- RS-232Cケーブルを接続したままパソコンを起動すると、Windows® のプラグアンドプレイ機能が働きRS-232Cポート用ドライバが正常にインストールされない場合があります。このような場合はいったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、正しい手順でインストールをやり直してください。
- RS-232Cポートが複数有るパソコンで、接続するRS-232Cポートを変更する場合は、いったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、再度インストールをしてください。

右の画面が表示されたときは、本商品とパソコンの接続を再度確認し[次へ>]をクリックします。

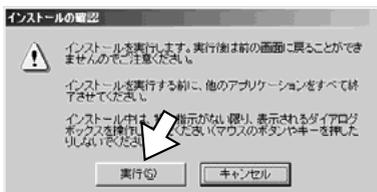


## 12 [次へ>] をクリックする。



## 13 [実行] をクリックする。

自動的に必要なファイルがインストールされます。  
手順14の画面になるまでマウスやキーボードにさわらないでください。



(次ページへ続きます)



## ワンポイント

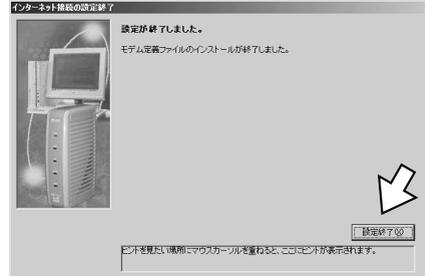
- Windows® XP Service Pack2をご利用の場合  
イージーウィザードをインストール中に右の画面にて停止することがあります。  
以下の操作を行うことでインストールを継続・正常に終了することができます。
- ① 「いいえ、今回は接続しません」を選択
  - ② [次へ] をクリックする



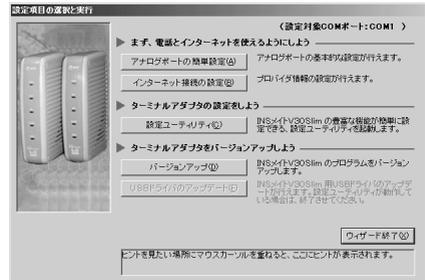
# イージーウィザードでRS-232C ポートを使うには (Windows® XP/2000)

(前ページの続きです)

## 14 [設定終了] をクリックする。

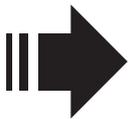
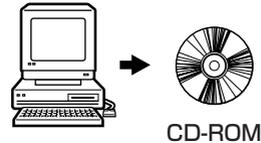


イージーウィザードが起動し、[設定項目の選択と実行] 画面が表示されます。インストール後は、自動的に [アナログポートの簡単設定]、[インターネット接続の設定] が順に起動します。



## 15 CD-ROMドライブからCD-ROM を取り出す。

インストールが完了しました。



引き続き、「アナログポートの設定を行うには」  
(取扱説明書 P50) へ進みます。

### STOP お願い

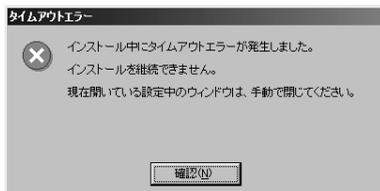
- Windows® XPまたはWindows® 2000で拡張RS-232Cポートをお使いの場合に、「インストールを正常に終了できませんでした。・・・パソコンに拡張シリアルカードを増設しそのポートを使用している場合・・・」と表示されることがあります。このような場合はいったんドライバを削除してから (取扱説明書 P201)、「拡張RS-232Cポートを使うには (Windows® XP) (P132) または「拡張RS-232Cポートを使うには (Windows® 2000) (P141) を参照してインストールしてください。

# 手動設定編

- 1 手動設定について .....52
- 2 Windows Vista® .....54
- 3 Windows® XP/2000 .....71
- 4 Mac OS .....113
- 5 Mac OS X .....127
- 6 拡張RS-232Cポート .....132

# イーザーウィザードが利用できないときは

イーザーウィザードによってドライバのインストールを行っているときに、下のような画面が出た場合は、イーザーウィザードが利用できなくなっています。



(画面はWindows®の例です。)

その場合は、下の表でパソコンのOSと使用できるポートを確認のうえ、参照するページの手順に従って手動でインストール、インターネット接続の設定を行ってください。

## ● Windows®

パソコンのOS	使用できるポート	インストール	インターネット接続
Windows Vista® (Home Basic 32ビット版、 Home Premium 32ビット版)	USBポート	☛P54	☛P65
	RS-232Cポート	☛P59	
Windows® XP	USBポート	☛P71	☛P94
	RS-232Cポート	☛P81	
Windows® 2000	USBポート	☛P71	☛P103
	RS-232Cポート	☛P87	

## ● Mac OS

パソコンのOS	使用できるポート	インストール	インターネット接続
Mac OS 8.1、8.5	RS-232Cポート	☛P121	☛P125
Mac OS 8.6、9、9.1、9.2	USBポート	☛P113	
	RS-232Cポート	☛P121	
Mac OS X (10.0、10.1)	USBポート	☛P127	Mac OS Xのインターネット接続の設定については、「取扱説明書」を参照してください。



# USBポートを使うには (Windows Vista®)

本商品のUSBポートとパソコンのUSBポートを接続して使うには、次の手順が必要です。

付属のINSメイトV30Slim専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

インストールは、管理者の権限で行う必要があります。

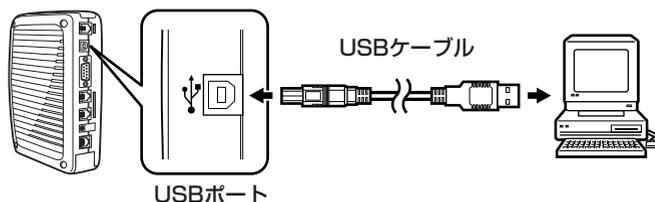
- 1 INSネット64回線に接続する（取扱説明書▶P29）  
本商品とパソコンは指示があるまで接続しないでください。
- 2 USBドライバをインストールする  
Windows Vista®（▶下記）

## USBドライバをインストールする

### 1 パソコンの電源を入れる。

Windows®が起動することを確認します。

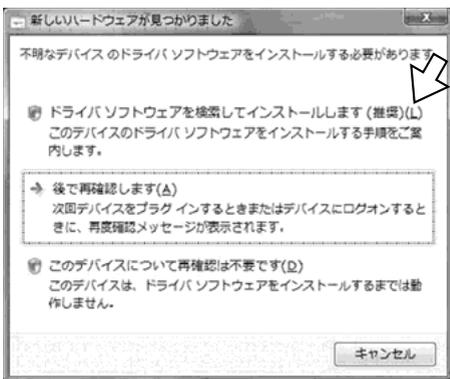
### 2 本商品とパソコンをUSBケーブルで接続する。



#### **STOP** お願い

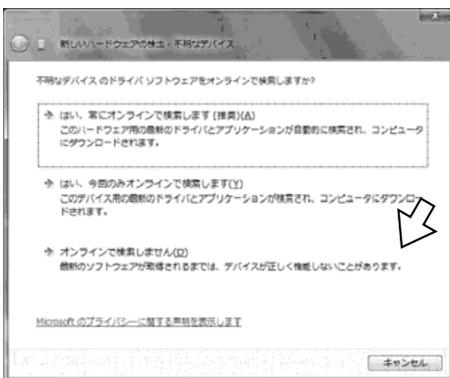
- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- USBドライバをインストールする前に、ご使用のOSを確認してください。（取扱説明書▶P37）

### 3 [ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)] をクリックする。



### 4 [オンラインで検索しません] をクリックする。

※ご利用のパソコンによっては表示されないことがあります。その場合は次の手順に進んでください。



### 5 [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します (上級)] をクリックする。

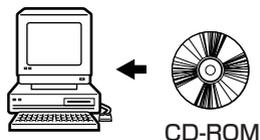


(次ページへ続きます)

# USBポートを使うには (Windows Vista®)

(前ページの続きです)

**6** INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



**7** [参照] をクリックする。



**8** CD-ROMのUSB-VISTAフォルダを選択し、[OK] をクリックする。

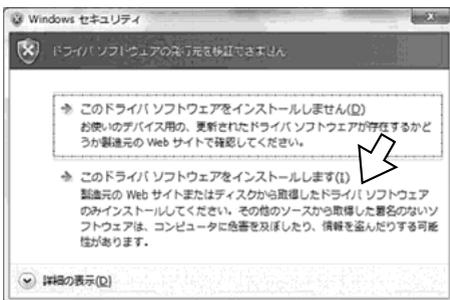


**9** [次の場所でドライバソフトウェアを検索します] に [USB¥VISTA] が表示されていることを確認し、[次へ] をクリックする。



## 10 [このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックする。

※ご利用のパソコンによっては表示されないことがあります。その場合は次の手順に進んでください。

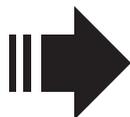
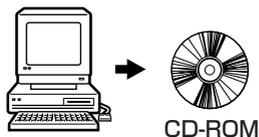


## 11 [閉じる] をクリックする。



## 12 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、「インストールの確認を行う」(P58)へ進みます。

1  
手  
動  
設  
定  
に  
つ

2  
V  
i  
n  
d  
o  
w  
s

3  
X  
P  
/  
O  
O  
C  
O  
S

4  
M  
a  
c  
O  
S

5  
M  
a  
c  
O  
S  
X

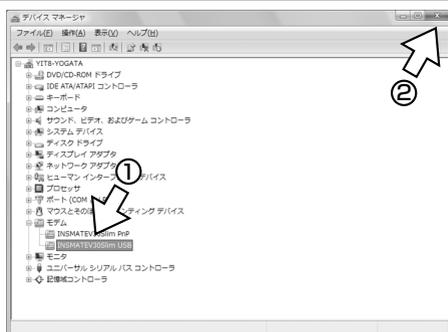
6  
2  
3  
2  
C  
P  
U  
ポ  
ー  
ト

## インストールの確認を行う

- 1 「スタート」 ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。
- 2 [システムとメンテナンス] をクリックする。
- 3 [システム] をクリックする。
- 4 [デバイスマネージャ] をクリックする。  
「ユーザーアカウント制御」画面が表示されることがあります。

**5** [モデム] に [INSMATEV30 Slim USB] が表示されていることを確認し、**X** をクリックする。

[モデム] の下に何も表示されていない場合は、左側の+アイコンをクリックします。



引き続き、「接続の設定をするには」(P65)へ進みます。

# RS-232Cポートを使うには (Windows Vista®)

本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポート（シリアルポート）を接続して使うには、次の手順が必要です。

付属のINSメイトV30Slim専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

インストールは、管理者の権限で行う必要があります

## 1 INSネット64回線に接続する（取扱説明書▶P29）

本商品とパソコンは指示があるまで接続しないでください。

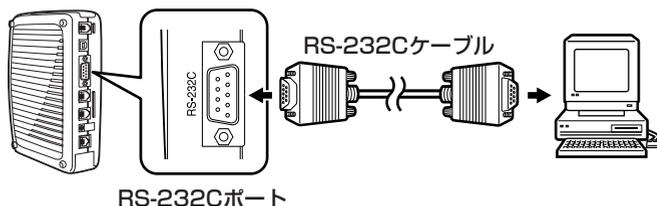
## 2 必要なファイルをインストールする

### 必要なファイルをインストールする

#### 1 パソコンの電源を入れる。

Windows® が起動することを確認します。

#### 2 付属ケーブルで本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポートをつなぐ。



(次ページへ続きます)

#### STOP お願い

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。
- RS-232Cケーブルを接続したままパソコンを起動すると、Windows®のプラグアンドプレイ機能が働きRS-232Cポート用ドライバが正常にインストールされない場合があります。このような場合はいったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、正しい手順でインストールをやり直してください。
- RS-232Cポートが複数有るパソコンで、接続するRS-232Cポートを変更する場合は、いったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、再度インストールをしてください。

1  
手  
動  
設  
定  
に  
つ

2  
V  
i  
n  
d  
o  
w  
s  
®  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s

3  
X  
P  
/  
O  
O  
C  
O  
O  
n  
/  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s  
®

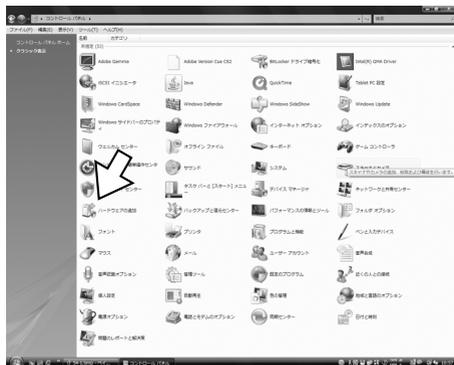
4  
M  
a  
c  
O  
S

5  
M  
a  
c  
O  
S  
X

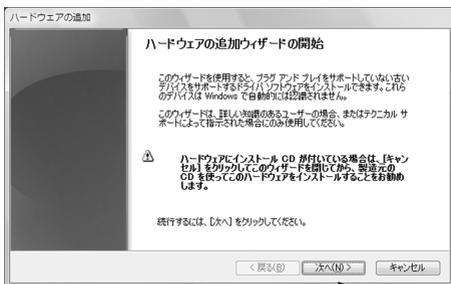
6  
拡  
張  
C  
D  
-  
R  
O  
M  
-  
T

(前ページの続きです)

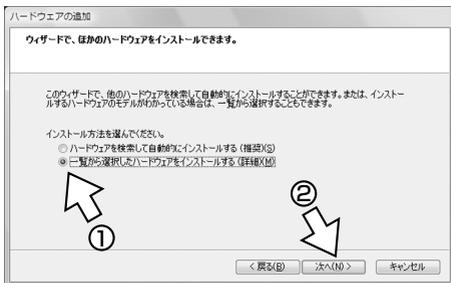
**3** [スタート] - [コントロールパネル] - [クラシック表示] の順にクリックし、[ハードウェアの追加] アイコンをダブルクリックする。



**4** [次へ>] をクリックする。



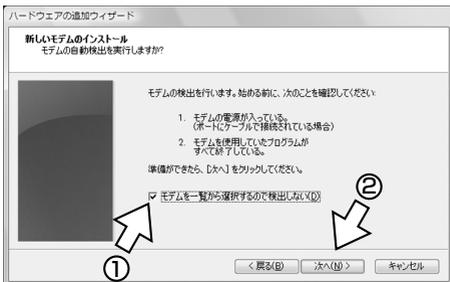
**5** [一覧から選択したハードウェアをインストールする (詳細)] を選択し、[次へ>] をクリックする。



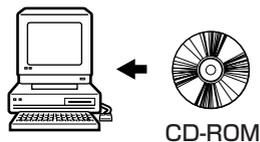
6 一覧から [モデム] を選択し、[次へ>] をクリックする。



7 [モデムを一覧から選択するので検出しません] にチェックを入れ、[次へ>] をクリックする。



8 INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END] をクリックして案内ページを閉じてください。

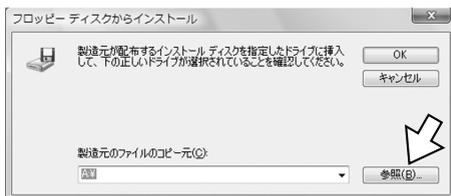


(前ページの続きです)

## 9 [ディスク使用] をクリックする。



## 10 [参照] をクリックする。



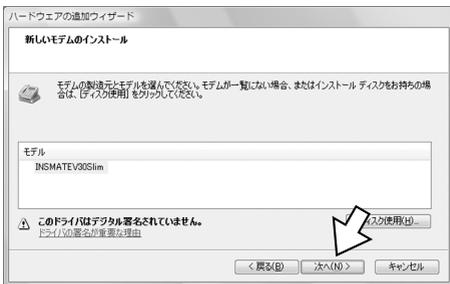
## 11 CD-ROMドライブの [USB] フォルダにある [VISTA] フォルダを開き、[MDMV30SV.inf] ファイルを選択し、[開く] をクリックする。



12 [OK] をクリックする。



13 [次へ>] をクリックする。



14 [選択したポート] をチェックし、  
[COM1] を選択して [次へ>]  
をクリックする。

(COM1はRS-232Cポートの例です)



(次ページへ続きます)

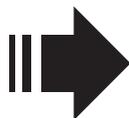
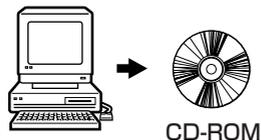
(前ページの続きです)

## 15 [完了] をクリックする。



## 16 CD-ROMドライブからCD-ROM を取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、「接続の設定をするには」(P65)へ進みます。



### ワンポイント

#### ●所在地情報を設定するには

インストールが完了したときに「電話とモデムのオプション」画面が表示された場合は、次の手順でご使用に合わせて所在地情報を設定します。

- ① 「電話とモデムのオプション」画面で「ダイヤル情報」をクリックする。
- ② 「所在地情報」または「新しい所在地」をダブルクリックし、ご使用に合わせて設定する。
- ③ 「OK」をクリックする。

# 接続の設定をするには (Windows Vista®)

インターネットに接続するために、接続先の設定、TCP/IPの設定を行います。

## 接続先の設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのアクセスポイントに接続するための情報を設定します。プロバイダから通知されたユーザID、パスワード、アクセスポイントなどの情報が必要です。

1 [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。

2 [ネットワークとインターネット] をクリックし、[ネットワークへの接続] をクリックする。

3 「接続またはネットワークをセットアップします」 をクリックする。



4 [ダイヤルアップ接続をセットアップします] をクリックし、[次へ] をクリックする。

表示されない場合は、次へ進みます。

すでにモデムが設定されている場合は、モデムの選択画面が表示されることがあります。



(次ページへ続きます)

1  
手  
動  
設  
定  
に  
つ

2  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s  
V  
i  
s  
t  
a  
@  
m  
s

3  
X  
P  
/  
O  
O  
C  
O  
O  
O  
O  
O  
O  
O

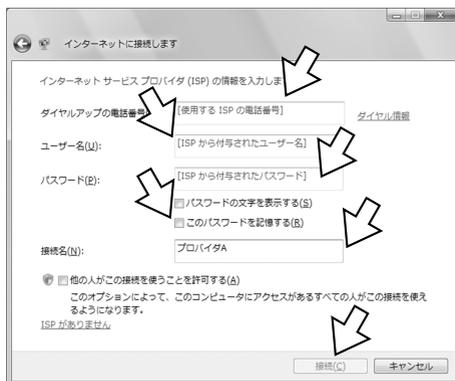
4  
M  
a  
c  
O  
S

5  
M  
a  
c  
O  
S  
X

6  
拡  
張  
F  
U  
N  
C  
T  
I  
O  
N

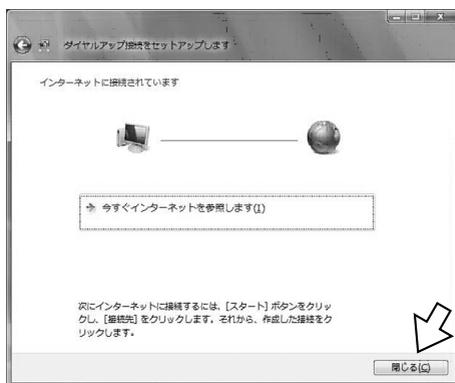
(前ページの続きです)

- 5** [ダイヤルアップの電話番号]、[ユーザー名]、[パスワード]、[接続名]を入力し、[このパスワードを記憶する] にチェックし、[接続] をクリックする。



- 6** 接続テストに成功した場合、「インターネットに接続されています」画面が表示されるので、[閉じる] をクリックする。

表示されない場合は、次へ進みます。





## ワンポイント

### ●接続テストに失敗した場合

- ① [接続をセットアップします] を選択し、[閉じる] をクリックする。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[接続先] をクリックする。  
「ネットワークに接続」画面が表示されます。
- ③ 設定した接続名を選択し、[接続] をクリックする。
- ④ [ユーザ名]、[パスワード]、[ダイヤル] の設定内容が正しいことを確認し、[プロパティ] をクリックする。  
「ダイヤルアップ接続 プロパティ」画面が表示されます。
- ⑤ [構成] をクリックする。  
「モデムの構成」画面が表示されます。
- ⑥ [モデムプロトコル] をご利用になる環境にあわせ、「PPP(128)K」または「PPP(64)K」に変更する。  
さらに、「ハードウェアの機能」のすべてのチェックを外し、[OK] をクリックする。
- ⑦ 「ダイヤルアップ接続プロパティ」画面で [OK] をクリックする。
- ⑧ [ダイヤル] をクリックする。

接続テストを開始します。

## TCP/IPの設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのサーバの情報を設定します。プロバイダから通知されたDNSサーバなどの情報が必要です。

## 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする。

コントロールパネルが表示されます。

## 2 [ネットワークの状態とタスクの表示] をクリックする。

## 3 [ネットワーク接続の管理] をクリックする。

## 4 接続名にカーソルを移動し、右クリックし、[プロパティ] をクリックする。

プロパティ画面が表示されます。



## 5 [全般] 画面で、[構成] をクリックする。



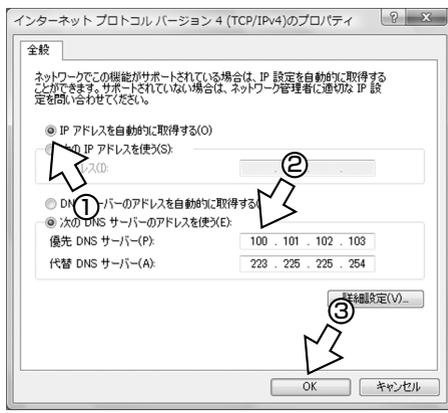
## 6 「ハードウェアの機能」のすべてのチェックを外し、[OK] をクリックする。



## 7 [ネットワーク] 画面で、「インターネットプロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ] をクリックする。

## 8 [次のDNSサーバーのアドレスを使う] をクリックし、DNSサーバーを設定し、[OK] をクリックする。

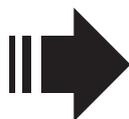
- [IPアドレスを自動的に取得する] にチェックがあることを確認します。
- [優先DNSサーバー] にプロバイダから通知されたドメインネームサーバーのIPアドレスを入力してください。
- プロバイダによっては、ドメインネームサーバーのIPアドレスを入力する必要がない場合もあります。その場合は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する] をチェックします。



[入力値は例です]

(前ページの続きです)

- 9 「プロバイダのプロパティ」画面で [OK] をクリックする。  
これで設定は完了です。



TCP/IPの設定が終了したら、必要に応じて次のページをご覧ください。

- ・「インターネット接続編」(取扱説明書▶P79)
- ・「電話／ファクス編」(取扱説明書▶P107)

# USBポートを使うには (Windows® XP/2000)

本商品のUSBポートとパソコンのUSBポートを接続して使うには、次の手順が必要です。

付属のINSメイトV30Slim専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

インストールは、管理者の権限で行う必要があります。

\* Windows® XPとWindows® 2000では、同じファイルを使用します。

## 1 INSネット64回線に接続する (取扱説明書▶P29)

本商品とパソコンは指示があるまで接続しないでください。

## 2 USBドライバをインストールする

Windows® XP (▶下記)

Windows® 2000 (▶P75)

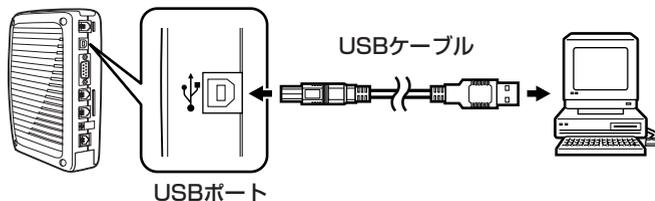
## USBドライバをインストールする (Windows® XP)

### 1 パソコンの電源を入れる。

Windows®が起動することを確認します。

### 2 本商品とパソコンをUSBケーブルで接続する。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。



#### ワンポイント

- [新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されない場合は「Windows®でUSBドライバを使用できないときは」(取扱説明書▶P190)の症状の項目を参照してください。
- Windows® XP Service Pack2をご利用の場合  
イーザーウィザードをインストール中に次の画面にて停止することがあります。  
以下の操作を行うことでインストールを継続・正常に終了することができます。  
① 「いいえ、今回は接続しません」を選択  
② [次へ] をクリックする



#### お願い

- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- USBドライバをインストールする前に、ご使用のOSを確認してください。(取扱説明書▶P37)

(次ページへ続きます)

1  
手  
動  
設  
定  
に  
つ

2  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s

3  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s  
®  
X  
P  
/  
2  
0  
0  
0

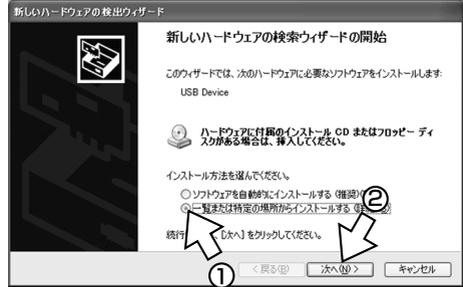
4  
M  
a  
c  
O  
S

5  
M  
a  
c  
O  
S  
X

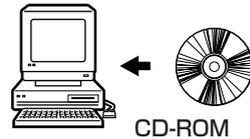
6  
拡  
張  
フ  
ォ  
ン  
ク  
シ  
ョ  
ン

(前ページの続きです)

- 3** [一覧または特定の場所からインストールする (詳細)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。



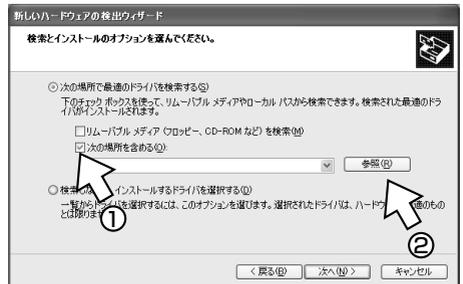
- 4** INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END] をクリックして案内ページを閉じてください。

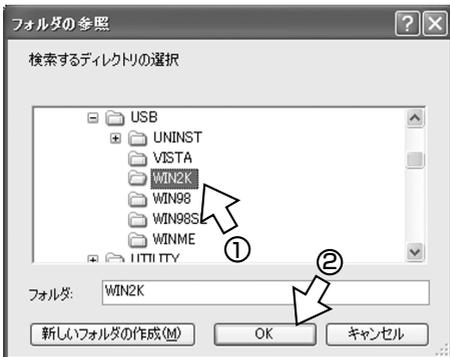


- 5** [次の場所を含める] のみをチェックし、[参照] をクリックする。



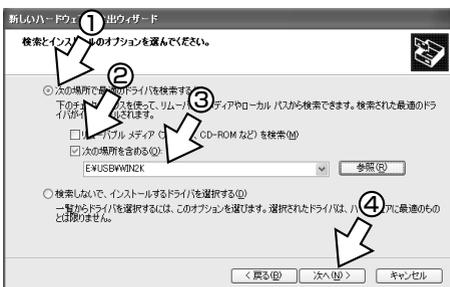
## 6 CD-ROMドライブの [USB] - [WIN2K] フォルダをクリックし、[OK] をクリックする。

[WIN2K] フォルダが表示されていない場合は、[USB] の左にある+アイコンをクリックします。

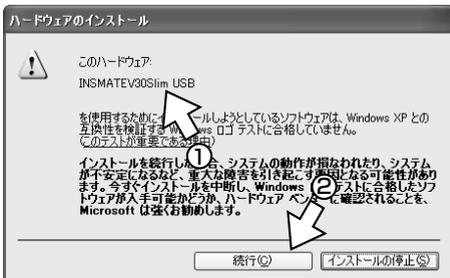


## 7 [次の場所で最適のドライバを検索する] が選択され、[次の場所を含める] のみがチェックされ、[USB¥WIN2K] が表示されていることを確認し、[次へ>] をクリックする。

ここで手順9の画面が表示された場合は、手順9へ進みます。

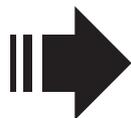
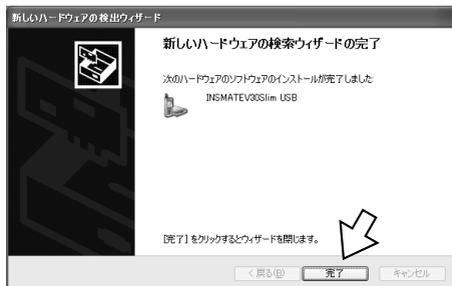


## 8 [INSMATEV30Slim USB] が表示されていることを確認し、[続行] をクリックする。



(前ページの続きです)

9 [完了] をクリックする。



引き続き、「インストールの確認を行う」(P79) へ進みます。

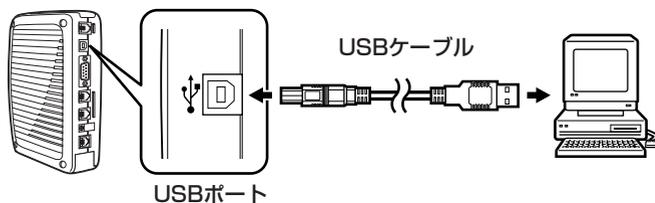
## USBドライバをインストールする (Windows® 2000)

### 1 パソコンの電源を入れる。

Windows®が起動することを確認します。

### 2 本商品とパソコンをUSBケーブルで接続する。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。



(次ページへ続きます)



#### ワンポイント

- [新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されない場合は  
[Windows®でUSBドライバを使用できないときは] (取扱説明書▶P190) の症状の項目を参照してください。

#### STOP お願い

- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- USBドライバをインストールする前に、ご使用のOSを確認してください。(取扱説明書▶P37)

1  
手  
動  
設  
定  
に  
つ

2  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s

3  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s  
®  
X  
P  
/

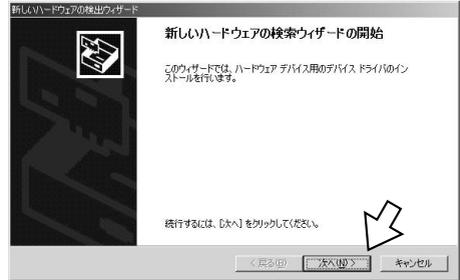
4  
M  
a  
c  
o  
s

5  
M  
a  
c  
o  
s  
X

6  
拡  
張  
フ  
ォ  
ン  
ク  
シ  
ョ  
ン

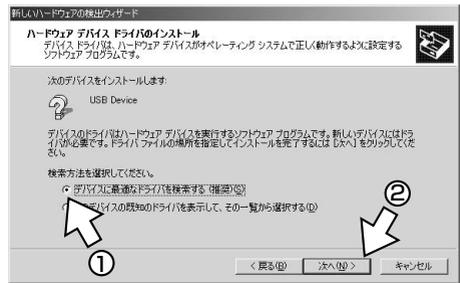
(前ページの続きです)

## 3 [次へ>] をクリックする。



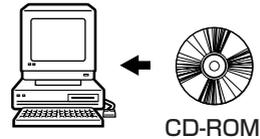
## 4 [デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。

[USB Device] と表示されないときは、[キャンセル] をクリックして画面を閉じて取扱説明書P195の操作によりUSBドライバを削除したあと、手順1から操作し直してください。



## 5 INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

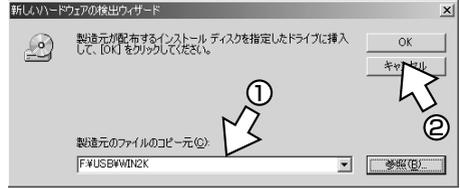
手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END] をクリックして案内ページを閉じてください。



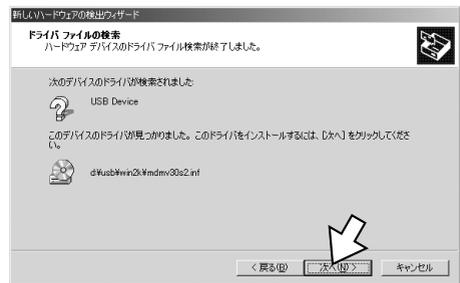


(前ページの続きです)

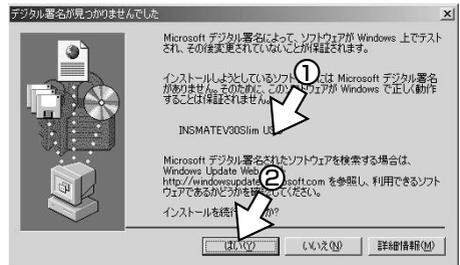
**10** [製造元のファイルのコピー元] に [USB¥WIN2K] が表示されていることを確認し、[OK] をクリックする。



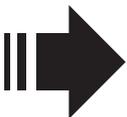
**11** [次へ>] をクリックする。  
「このデバイス用のドライバが見つかりません」と表示されたときは「Windows®でUSBドライバを使用できないときは」(取扱説明書P190)をご覧ください。  
ここで手順13の画面が表示された場合は、手順13へ進みます。



**12** [INSMATEV30Slim USB] が表示されていることを確認し、[はい] をクリックする。



**13** [完了] をクリックする。



引き続き、「インストールの確認を行う」(P79)へ進みます。

## インストールの確認を行う

画面はWindows® XPの例です。

### 1 「スタート」 ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。

Windows® 2000の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックします。

### 2 [システムのプロパティ] 画面を表示する。

Windows® XPの場合は、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックし、[システム] をクリックします。

Windows® 2000の場合は、[システム] アイコンをダブルクリックします。

### 3 [ハードウェア] をクリックする。

### 4 [デバイスマネージャ] をクリックする。

### 5 [モデム] に [INSMATEV30 Slim USB] が表示されていることを確認し、**X** をクリックする。

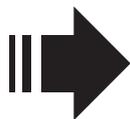
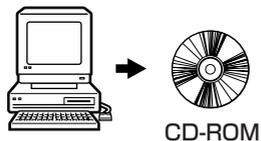
[モデム] の下に何も表示されていない場合は、左側の+アイコンをクリックします。



(前ページの続きです)

## 6 CD-ROMドライブからCD-ROM を取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、「接続の設定をするには」へ進みます。

- ・ Windows® XPの場合 (☛P94)
- ・ Windows® 2000の場合 (☛P103)

# RS-232Cポートを使うには (Windows® XP)

本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポート（シリアルポート）を接続して使うには、次の手順が必要です。

付属のINSメイトV30Slim専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

インストールは、管理者の権限で行う必要があります

\*Windows® XPとWindows® 2000では、同じファイルを使用します。

## 1 INSネット64回線に接続する（取扱説明書▶P29）

本商品とパソコンは指示があるまで接続しないでください。

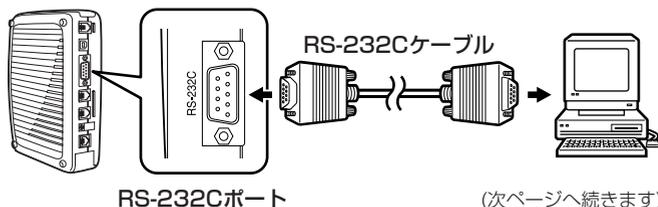
## 2 必要なファイルをインストールする

### 必要なファイルをインストールする

#### 1 パソコンの電源を入れる。

Windows® が起動することを確認します。

#### 2 付属ケーブルで本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポートをつなぐ。



#### STOP お願い

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。
- RS-232Cケーブルを接続したままパソコンを起動すると、Windows®のプラグアンドプレイ機能が働きRS-232Cポート用ドライバが正常にインストールされない場合があります。このような場合はいったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、正しい手順でインストールをやり直してください。
- 拡張RS-232Cポートをお使いの場合は、ここで説明しているインストール手順はご利用になれません。「拡張RS-232Cポートを使うには（Windows® XP）」（▶P132）を参照してインストールしてください。
- RS-232Cポートが複数有るパソコンで、接続するRS-232Cポートを変更する場合は、いったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、再度インストールをしてください。

(前ページの続きです)

- 3** [スタート] ボタンをクリックして、  
[コントロールパネル] をクリック  
する。



- 4** [プリンタとその他のハードウェア] をクリックする。



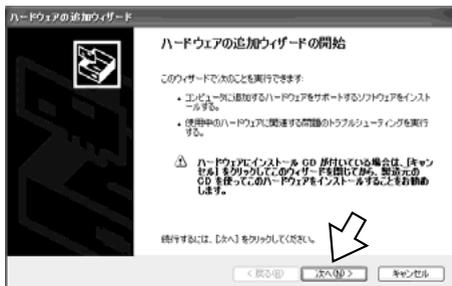
- 5** [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする。

[ハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示されます。

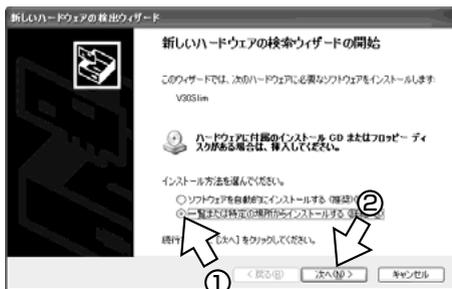


## 6 [次へ>] をクリックする。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。

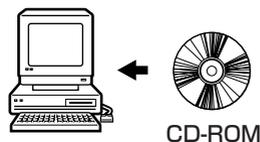


## 7 [一覧または特定の場所からインストールする (詳細)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。



## 8 INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END] をクリックして案内ページを閉じてください。



(次ページへ続きます)



### ワンポイント

#### ● Windows® XP Service Pack2をご利用の場合

イーजीウィザードをインストール中に次の画面にて停止することがあります。以下の操作を行うことでインストールを継続・正常に終了することができます。

- ① 「いいえ、今回は接続しません」を選択
- ② [次へ] をクリックする

(前ページの続きです)

**9** [次の場所で最適のドライバを検索する] をクリックし、[次の場所を含める] のみをチェックして [参照] をクリックする。



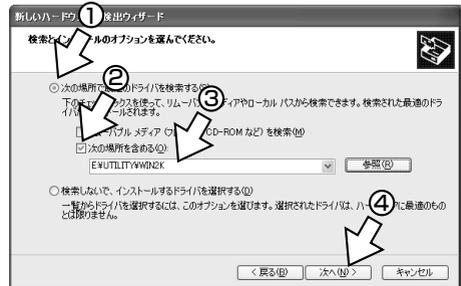
**10** CD-ROMの [UTILITY] フォルダの中の [WIN2K] フォルダをクリックし、[OK] をクリックする。

[WIN2K] フォルダが表示されていない場合は、[UTILITY] の左にある+アイコンをクリックします。

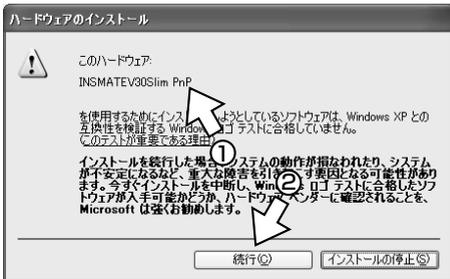


**11** [次の場所で最適のドライバを検索する] が選択され、[次の場所を含める] のみがチェックされ、[UTILITY¥WIN2K] が表示されていることを確認して、[次へ>] をクリックする。

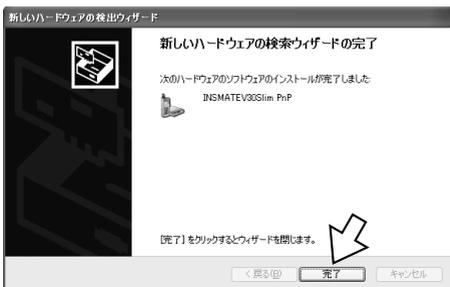
ここで手順13の画面が表示された場合は、手順13へ進みます。



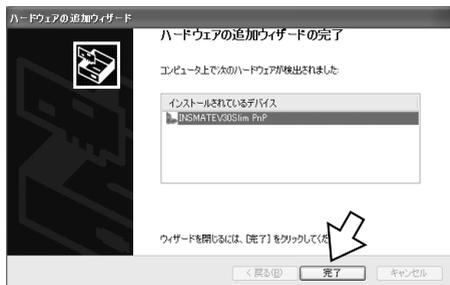
## 12 [INSMATEV30Slim PnP] と表示されていることを確認し、[続行] をクリックする。



## 13 [完了] をクリックする。 [ハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示されます。 表示されない場合は、手順15へ進みます。



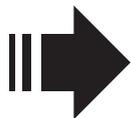
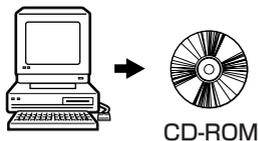
## 14 [完了] をクリックする。



(前ページの続きです)

## 15 CD-ROMドライブからCD-ROM を取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、「接続の設定をするには」(P94)へ進みます。



### ワンポイント

#### ●所在地情報を設定するには

インストールが完了したときに「電話とモデムのオプション」画面が表示された場合は、次の手順でご使用に合わせて所在地情報を設定します。

- ① 「電話とモデムのオプション」画面で「ダイヤル情報」をクリックする。
- ② 「所在地情報」または「新しい所在地」をダブルクリックし、ご使用に合わせて設定する。
- ③ 「OK」をクリックする。

# RS-232Cポートを使うには (Windows® 2000)

本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポート（シリアルポート）を接続して使うには、次の手順が必要です。

付属のINSメイトV30Slim専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

インストールは、管理者の権限で行う必要があります。

## 1 INSネット64回線に接続する（取扱説明書▶P29）

本商品とパソコンは指示があるまで接続しないでください。

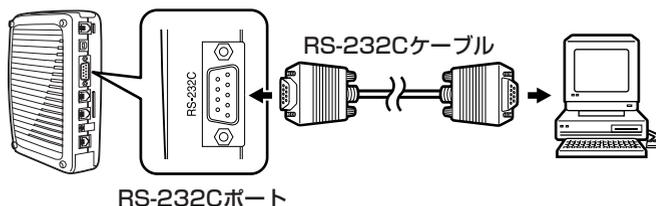
## 2 必要なファイルをインストールする

### 必要なファイルをインストールする

#### 1 パソコンの電源を入れる。

Windows® が起動することを確認します。

#### 2 付属ケーブルで本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポートをつなぐ。



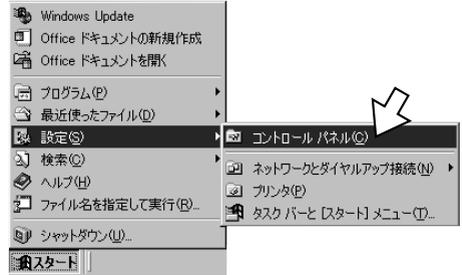
(次ページへ続きます)

#### STOP お願

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。
- RS-232Cケーブルを接続したままパソコンを起動すると、Windows®のプラグアンドプレイ機能が働きRS-232Cポート用ドライバが正常にインストールされない場合があります。このような場合はいったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、正しい手順でインストールをやり直してください。
- 拡張RS-232Cポートをお使いの場合は、ここで説明しているインストール手順はご利用になれません。「拡張RS-232Cポートを使うには（Windows® 2000）」（▶P141）を参照してインストールしてください。
- RS-232Cポートが複数有るパソコンで、接続するRS-232Cポートを変更する場合は、いったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、再度インストールをしてください。

(前ページの続きです)

**3** [スタート] ボタンをクリックして、  
[設定] - [コントロールパネル]  
をクリックする。

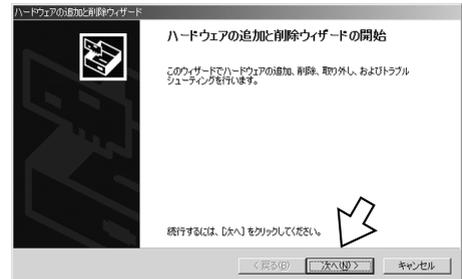


**4** [ハードウェアの追加と削除] アイ  
コンをダブルクリックする。

[ハードウェアの追加と削除ウィザード] 画  
面が表示されます。

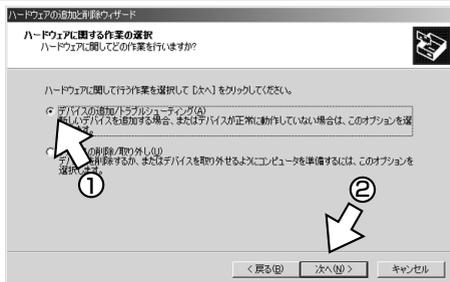


**5** [次へ>] をクリックする。

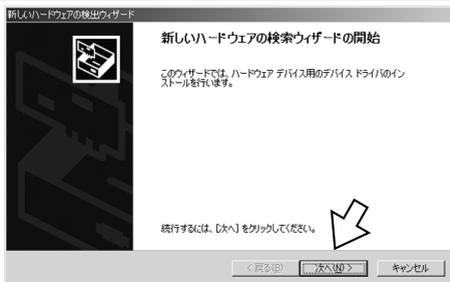


## 6 [デバイスの追加/トラブルシューティング] をクリックし、[次へ>] をクリックする。

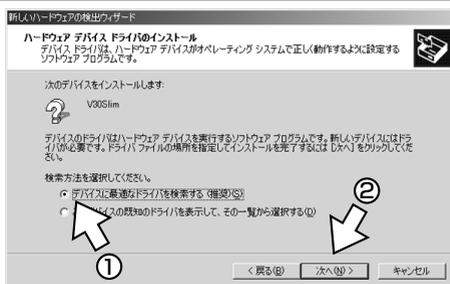
[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。



## 7 [次へ>] をクリックする。

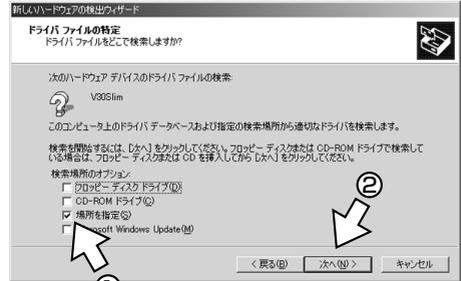


## 8 [デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。



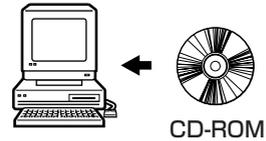
(前ページの続きです)

**9** [場所を指定] のみをチェックし、  
[次へ>] をクリックする。

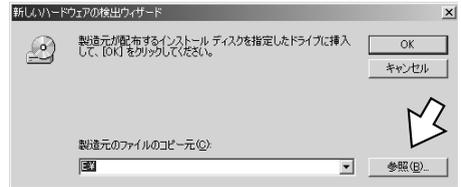


**10** INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

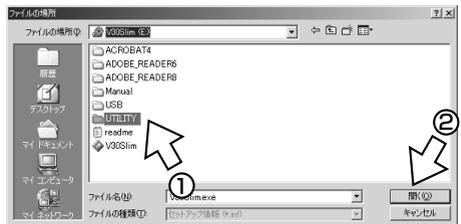
手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END]をクリックして案内ページを閉じてください。



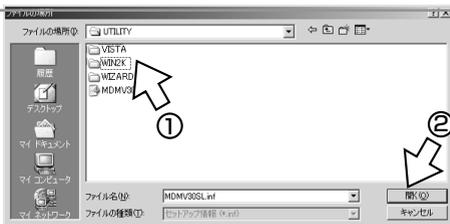
**11** [参照] をクリックする。



**12** CD-ROMの [UTILITY] フォルダをクリックし、[開く] をクリックする。



13 [WIN2K] フォルダをダブルクリックし、[開く] をクリックする。



14 [製造元のファイルのコピー元] に [UTILITY¥WIN2K] が表示されていることを確認し、[OK] をクリックする。



15 [V30Slim] と表示されていることを確認し、[次へ>] をクリックする。

ここで手順17の画面が表示された場合は、手順17へ進みます。



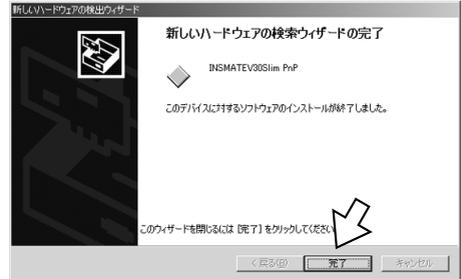
16 [INSMATEV30Slim PnP] と表示されていることを確認し、[はい] をクリックする。



(前ページの続きです)

## 17 [完了] をクリックする。

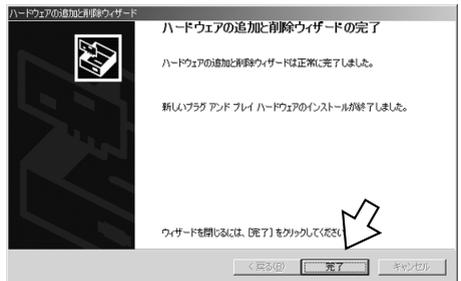
[新しいハードウェアの検出ウィザード] が終了し、[ハードウェアの追加と削除ウィザード] 画面が表示されます。



## 18 [INSMATEV30Slim PnP] と表示されていることを確認し、[次へ>] をクリックする。

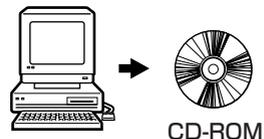


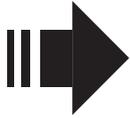
## 19 [完了] をクリックする。



## 20 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。

以上でインストールは完了です。





引き続き、「接続の設定をするには」(P103)へ進みます。

1  
い  
手  
動  
設  
定  
に  
つ

2  
V  
i  
n  
d  
o  
w  
s

3  
O  
O  
O  
N  
X  
T  
I  
V  
i  
n  
d  
o  
w  
s  
®

4  
M  
a  
c  
O  
S

5  
M  
a  
c  
O  
S  
X

6  
2  
3  
2  
C  
P  
U  
ポ  
ー  
ト  
拡  
張  
F  
L  
O  
P  
P  
Y



## ワンポイント

### ●所在地情報を設定するには

インストールが完了したときに「電話とモデムのオプション」画面が表示された場合は、次の手順でご使用に合わせて所在地情報を設定します。

- ① 「電話とモデムのオプション」画面で「ダイヤル情報」をクリックする。
- ② 「所在地情報」または「新しい所在地」をダブルクリックし、ご使用に合わせて設定する。
- ③ 「OK」をクリックする。

# 接続の設定をするには (Windows® XP)

インターネットに接続するために、接続先の設定、TCP/IPの設定を行います。

## 接続先の設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのアクセスポイントに接続するための情報を設定します。プロバイダから通知されたユーザID、パスワード、アクセスポイントなどの情報が必要です。

1 [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。

2 [ネットワークとインターネット接続] をクリックし、[ネットワーク接続] をクリックする。

3 [ネットワークタスク] から [新しい接続を作成する] をクリックする。

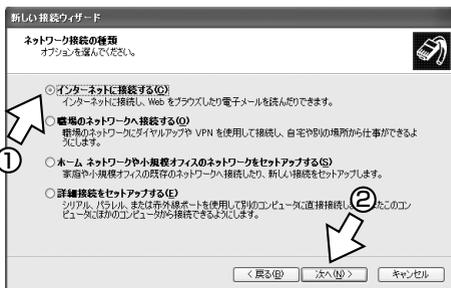
[新しい接続ウィザード] 画面が表示されます。



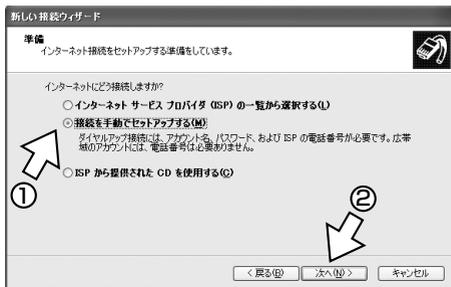
4 [次へ>] をクリックする。



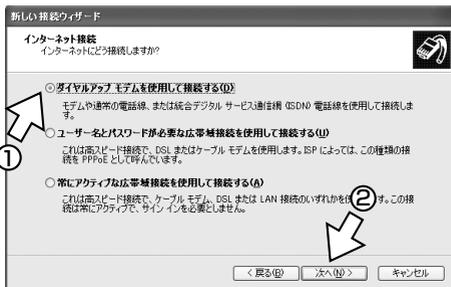
## 5 [インターネットに接続する] を選択して、[次へ>] をクリックする。



## 6 [接続を手動でセットアップする] をクリックして、[次へ>] をクリックする。



## 7 [ダイヤルアップモデムを使用して接続する] をクリックして [次へ>] をクリックする。



(前ページの続きです)

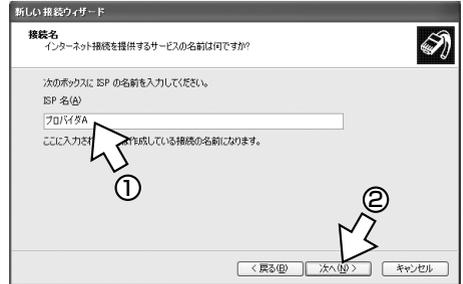
**8** [デバイスの選択] 画面が表示された場合は以下のようにデバイスを選択し、[次へ>] をクリックする。

- RS-232Cポートをご利用の場合  
[INSMATEV30Slim PnP]
- USBポートをご利用の場合  
[INSMATEV30Slim USB]

表示されない場合は、手順9に進みます。  
「拡張RS-232Cポートを使うには  
(Windows® XP) (P132)」の設定を行った場合は、[INSMATEV30Slim] と表示されます。



**9** [ISP名] を入力して、[次へ>] をクリックする。

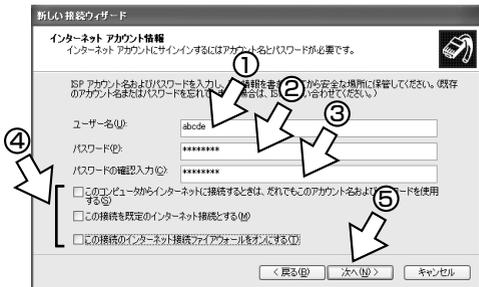


**10** 接続先の電話番号を入力して、[次へ>] をクリックする。

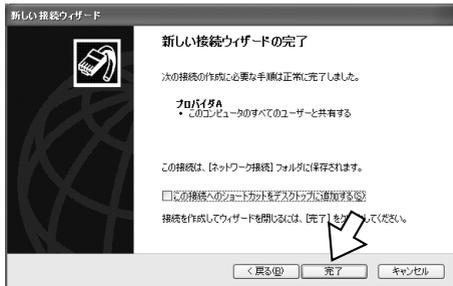
アクセスポイントの電話番号を入力してください。



11 [ユーザ名]、[パスワード]、[パスワードの確認入力] を入力して、画面下側の3種の設定項目のチェックを外し、[次へ>] をクリックする。



12 [完了] をクリックする。



[ネットワーク接続] に、作成したアイコンが表示された後、続けて [XXXへ接続] 画面が表示されます。(P98)



## TCP/IPの設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのサーバの情報を設定します。プロバイダから通知されたDNSサーバなどの情報が必要です。

### 1 [XXXへ接続] 画面で [プロパティ] をクリックする。



### 2 [全般] 画面で、[接続時に通知領域にアイコンを表示する] をチェックし、[ネットワーク] をクリックする。

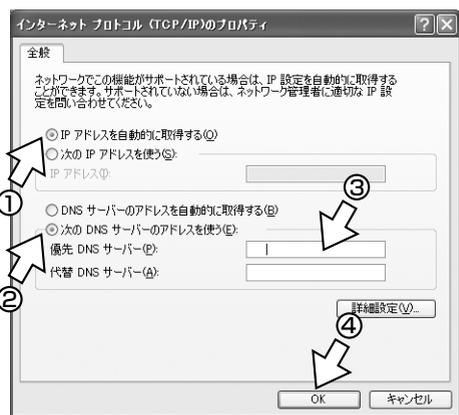


3 [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]と[Microsoftネットワーク用クライアント]のチェックを外し、[インターネットプロトコル]をチェックして、[プロパティ]をクリックする。



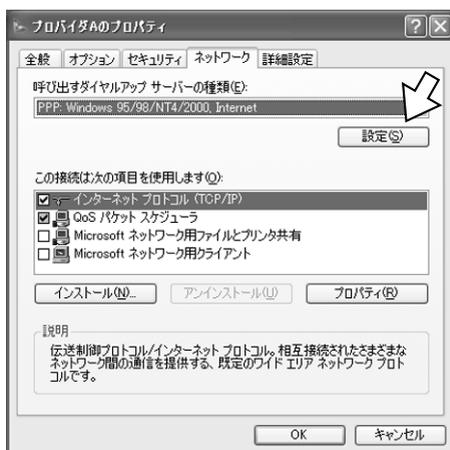
4 [次のDNSサーバーのアドレスを使う]をクリックし、DNSサーバーの設定をして、[OK]をクリックする。

- [IPアドレスを自動的に取得する]にチェックがあることを確認します。
- [優先DNSサーバー]にプロバイダから通知されたドメインネームサーバーのIPアドレスを入力してください。
- プロバイダによっては、ドメインネームサーバーのIPアドレスを入力する必要がない場合もあります。その場合は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]をチェックします。



(前ページの続きです)

## 5 [設定] をクリックする。



## 6 [LCP拡張を使う]、[ソフトウェアによる圧縮を行う]、[単一リンク接続に対してマルチリンクをネゴシエートする] のチェックを外し、[OK] をクリックする。



## 7 [全般] をクリックする。



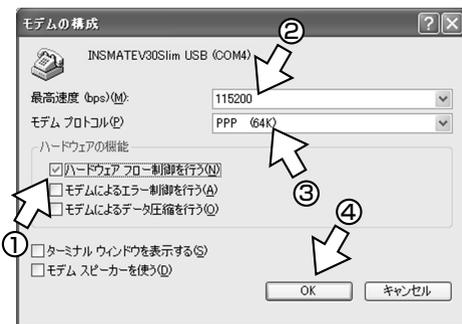
## 8 [構成] をクリックする。



(前ページの続きです)

**9** [ハードウェアの機能] の [ハードウェアフロー制御を行う] のみをチェックし、ご利用になる通信モードに合わせて、[最高速度] および [モデムプロトコル] を設定して [OK] をクリックする。

- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[最高速度] 115 200 bps以下  
[モデムプロトコル] : PPP (64K)
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[最高速度] 230 400 bps  
[モデムプロトコル] : PPP (128K)



**10** [OK] をクリックする。

これで設定は完了です。



TCP/IPの設定が終了したら、必要に応じて次のページをご覧ください。

- 「インターネット接続編」(取扱説明書●P79)
- 「電話／ファクス編」(取扱説明書●P107)

# 接続の設定をするには (Windows® 2000)

インターネットに接続するために、接続先の設定、TCP/IPの設定を行います。

## 接続先の設定を行う

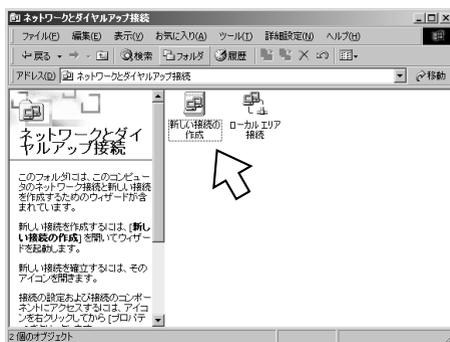
ご利用になるインターネットサービスプロバイダのアクセスポイントに接続するための情報を設定します。プロバイダから通知されたユーザID、パスワード、アクセスポイントなどの情報が必要です。

1 [マイネットワーク] を右クリックし、[プロパティ] をクリックする。



2 [新しい接続の作成] アイコンをダブルクリックする。

[ネットワークの接続ウィザード] 画面が表示されます。



1  
手  
動  
設  
定  
に  
つ

2  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s  
s  
t  
a  
b  
l  
e

3  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s  
X  
P

4  
M  
a  
c  
O  
S

5  
M  
a  
c  
O  
S  
X

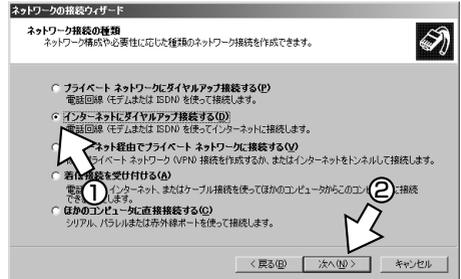
6  
2  
2  
C  
P  
U  
ポ  
ー  
ト

(前ページの続きです)

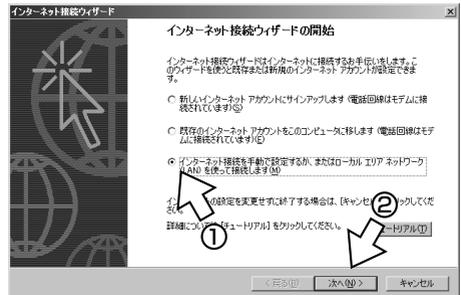
**3** [次へ>] をクリックする。



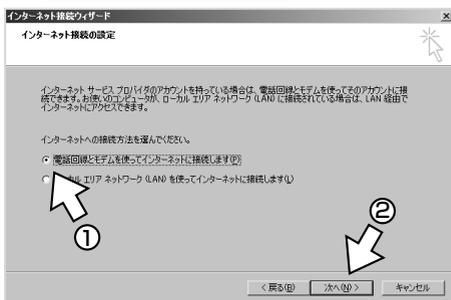
**4** [インターネットにダイヤルアップ接続する] をクリックして [次へ>] をクリックする。



**5** [インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク (LAN) を使って接続します] をクリックして [次へ>] をクリックする。



## 6 [電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します] をクリックして [次へ>] をクリックする。



## 7 「モデムの選択」画面が表示された場合は以下のようにモデムを選択し、[次へ>] をクリックする。

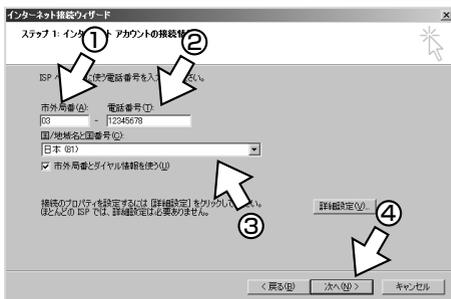
- RS-232Cポートをご利用の場合  
[INSMATEV30Slim PhP]
- USBポートをご利用の場合  
[INSMATEV30Slim USB]

表示されない場合は手順8に進みます。  
「拡張RS-232Cポートを使うには (Windows® 2000)」(P141) の設定を行った場合は、[INSMATEV30Slim] と表示されます。



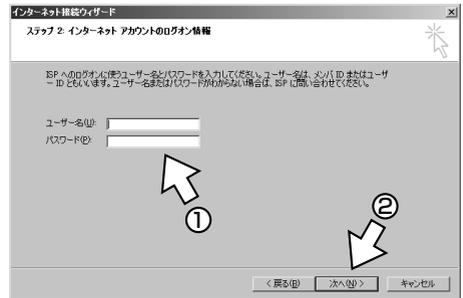
## 8 接続先の電話番号を入力して [次へ>] をクリックする。

アクセスポイントの電話番号を入力してください。  
[国番号] は [日本 (81)] を選択してください。

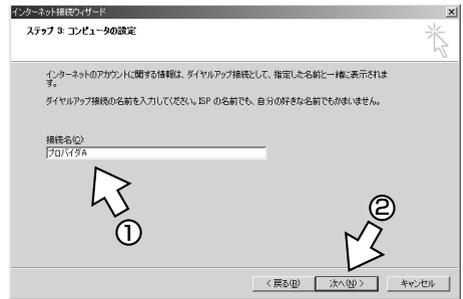


(前ページの続きです)

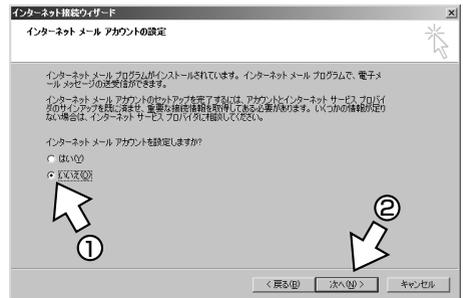
**9** [ユーザー名]、[パスワード] を入力して [次へ>] をクリックする。



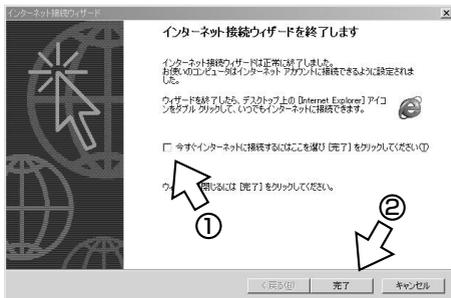
**10** [接続名] を入力して [次へ>] をクリックする。



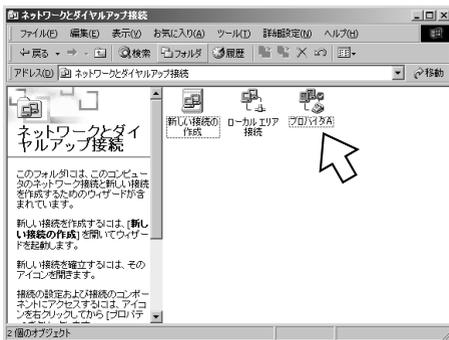
**11** [いいえ] をクリックし、[次へ>] をクリックする。



## 12 [今すぐインターネットに接続するにはここを選び [完了] をクリックしてください] のチェックを外し、[完了] をクリックする。



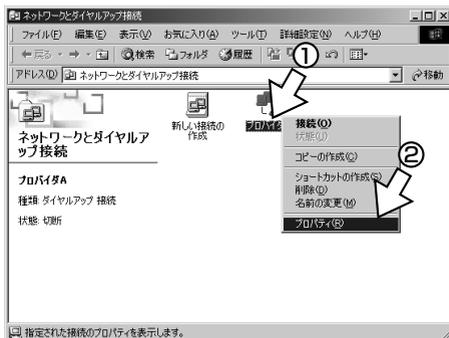
ネットワークとダイヤルアップ接続に、作成したアイコンが表示されます。



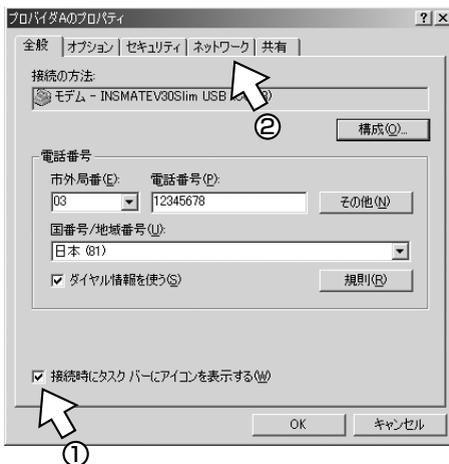
## TCP/IPの設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのサーバの情報を設定します。プロバイダから通知されたDNSサーバなどの情報が必要です。

- 1 「接続先の設定を行う」で作成したアイコンを右クリックし、ショートカットメニューの【プロパティ】をクリックする。



- 2 [全般] 画面で、【接続時にタスクバーにアイコンを表示する】をチェックし、【ネットワーク】をクリックする。

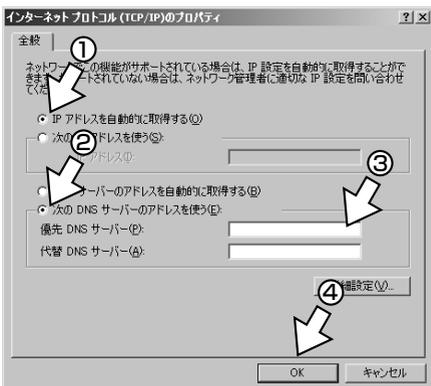


### 3 [インターネットプロトコル] のみをチェックし、[プロパティ] をクリックする。



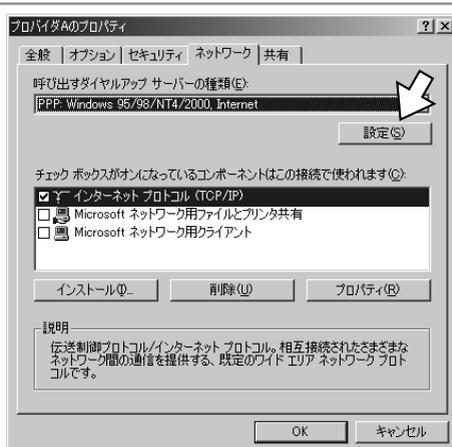
### 4 [次のDNSサーバーのアドレスを使う] をクリックし、DNSサーバーの設定をして、[OK] をクリックする。

- [IPアドレスを自動的に取得する] にチェックがあることを確認します。
- [優先DNSサーバー] にプロバイダから通知されたドメインネームサーバのIPアドレスを入力してください。プロバイダによっては、ドメインネームサーバのIPアドレスを入力する必要がない場合もあります。その場合は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する] をチェックします。



(前ページの続きです)

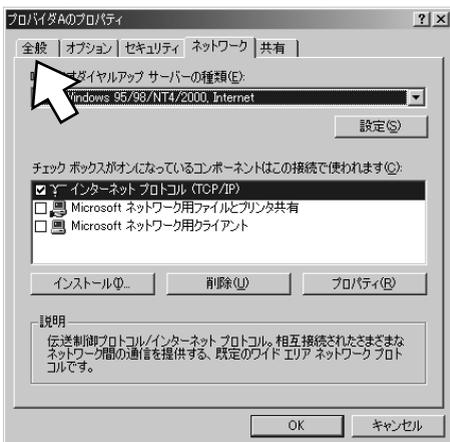
## 5 [設定] をクリックする。



## 6 [LCP拡張を使う]、[ソフトウェアによる圧縮を行う]、[単一リンク接続に対してマルチリンクをネゴシエートする]のチェックを外し、[OK] をクリックする。



## 7 [全般] をクリックする。



## 8 [構成] をクリックする。



1  
手  
動  
設  
定  
に  
つ

2  
V  
i  
n  
d  
o  
w  
s  
s  
t  
a  
b  
l  
e

3  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s  
s  
e  
c  
u  
r  
i  
t  
y

4  
M  
a  
c  
O  
S

5  
M  
a  
c  
O  
S  
X

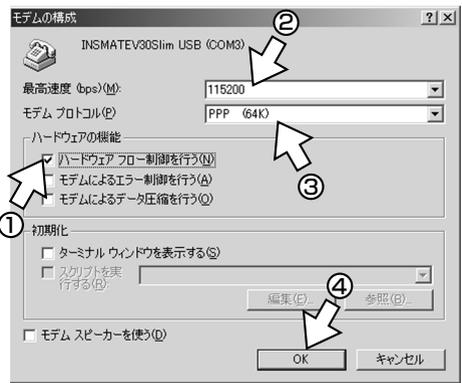
6  
2  
2  
C  
O  
P  
Y  
R  
I  
G  
H  
T

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

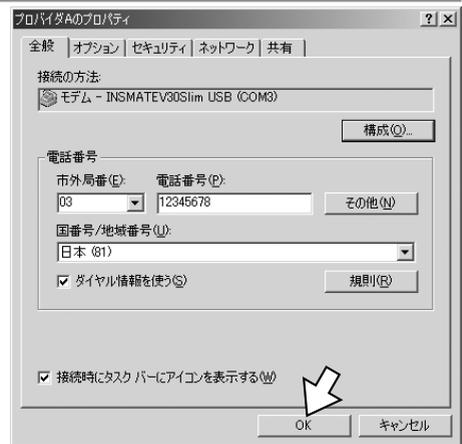
**9** [ハードウェアの機能] の [ハードウェアフロー制御を行う] のみをチェックし、ご利用になる通信モードに合わせて、[最高速度] および [モデムプロトコル] を設定して [OK] をクリックする。

- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[最高速度] 115 200 bps以下  
[モデムプロトコル] : PPP (64K)
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[最高速度] 115 200 bps  
[モデムプロトコル] : PPP (128K)



**10** [OK] をクリックする。

これで設定は完了です。



TCP/IPの設定が終了したら、必要に応じて次のページをご覧ください。

- 「インターネット接続編」(取扱説明書●P79)
- 「電話／ファクス編」(取扱説明書●P107)

# USBポートを使うには (Mac OS 8.6/9/9.1/9.2)

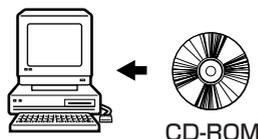
本商品のUSBポートとパソコンのUSBポートを接続して使うには、次の手順が必要です。Mac OS 8.1、8.5ではUSBをサポートしていませんので、USBポートに本商品を接続して使うことはできません。  
付属のINSメイトV30Slim専用CD-ROMをご用意ください。

- 1 INSネット64回線に接続する（取扱説明書P29）  
本商品とパソコンは指示があるまで接続しないでください。
- 2 USBドライバをインストールする
- 3 CCLファイル（モデム情報ファイル）をインストールする

## USBドライバをインストールする

1 パソコンを起動する。

2 INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



3 [V30Slim] アイコンをダブルクリックする。

[V30Slim] アイコンをダブルクリックする前に手順4の画面が表示された場合は、手順4に進みます。



4 [OS8,9] フォルダをダブルクリックする。



(次ページへ続きます)

### お知らせ

- インストールを開始する際、パソコンに本商品を接続しないでください。接続している場合は、パソコンを起動すると「USB装置“不明装置”を使用するのに必要なソフトウェアが見つかりません。装置に付属のマニュアルを参照して、必要なソフトウェアをインストールしてください。」などと表示される場合があります。インストールを開始する前に、USBケーブルを外してください。

1  
手  
動  
設  
定  
に  
つ

2  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s

3  
X  
P  
/  
O  
O  
C  
O  
O  
C  
O  
O  
C  
O  
O  
C  
O  
O  
C  
O  
O

4  
M  
a  
c  
O  
S

5  
M  
a  
c  
O  
S  
X

6  
2  
3  
3  
2  
C  
O  
P  
Y

(前ページの続きです)

## 5 [USB] フォルダをダブルクリックする。



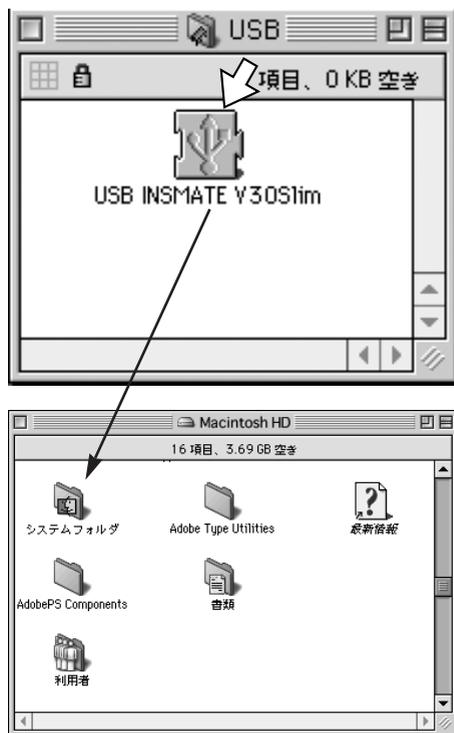
[USB] 画面が表示されます。



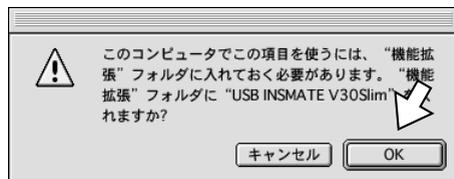
## 6 [Macintosh HD] アイコンをダブルクリックする。



7 手順5の画面の [USB INSMATE V30Slim] を [Macintosh HD] フォルダの中にある [システムフォルダ] にドラッグする。



8 [OK] をクリックする。

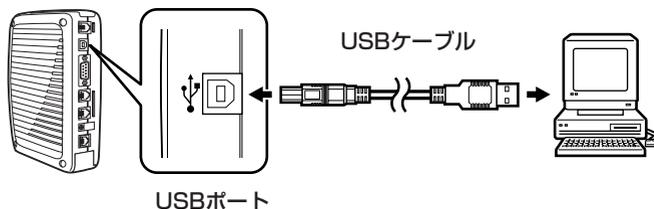


9 CD-ROMを取り出してパソコンを再起動する。

# USBポートを使うには (Mac OS 8.6/9/9.1/9.2)

(前ページの続きです)

## 10 本商品とパソコンをUSBケーブルで接続する。



## 11 画面左上の【アップル】メニューの【Appleシステム・プロフィール】を選択する。



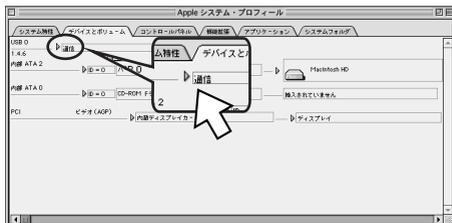
## 12 システム・プロフィール画面の【デバイスとボリューム】をクリックする。



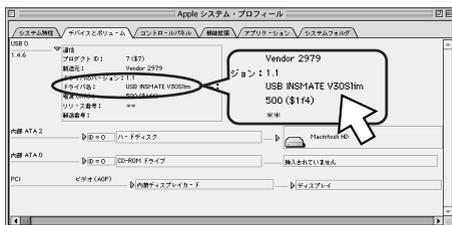
### STOP お願い

- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。

13 「USB」の右側にある▶通信の▶印をクリックする。



14 ドライバ名：[USB INSMATE V30Slim] が表示されることを確認して、ウインドウを閉じる。



## CCLファイルをインストールする

- 1 [V30Slim] アイコンをダブルクリックする。



- 2 [OS 8,9] フォルダをダブルクリックする。



- 3 [CCL] フォルダをダブルクリックする。

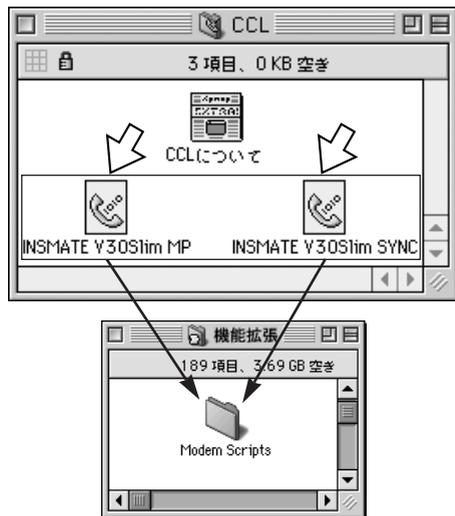
 お知らせ

- 付属品のCD-ROM内の [CCL] フォルダ内にある [CCLについて] ファイルを必ずお読みください。

- 4 [Macintosh HD] フォルダの中にある [システムフォルダ] をダブルクリックし、[機能拡張] フォルダをダブルクリックする。



- 5 [CCL] フォルダ内の [INSMATE V30Slim SYNC] と [INSMATE V30Slim MP] を [機能拡張] フォルダの中にある [Modem Scripts] フォルダへドラッグする。



- 6 アップルメニューの [コントロールパネル] - [モデム] を選択する。

(前ページの続きです)

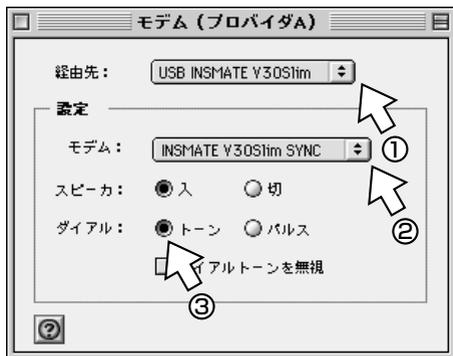
## 7 モデムの設定を行う。

以下の内容を参考にして、設定してください。

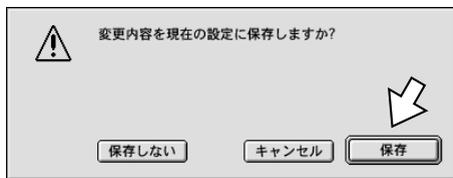
[経由先] …… [USB INSMATE V30Slim]  
を選択

[モデム] …… 同期64 kbit/s (☛P26)  
のアクセスポイントへ接続  
するときは、[INSMATE  
V30Slim SYNC] を選択  
• MP128 kbit/s (☛P26)  
のアクセスポイントへ接続  
するときは、[INSMATE  
V30Slim MP] を選択

[ダイヤル] …… [トーン] を選択

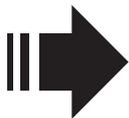
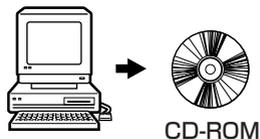


## 8 画面を閉じるとき、設定を保存する。



## 9 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、「接続の設定をするには」(☛P125)へ進みます。

# RS-232Cポートを使うには (Mac OS 8.1 / 8.5 / 8.6 / 9 / 9.1 / 9.2)

本商品のRS-232Cポートとパソコンのモデムポート（またはプリンタポート）を接続して使うには、次の手順が必要です。

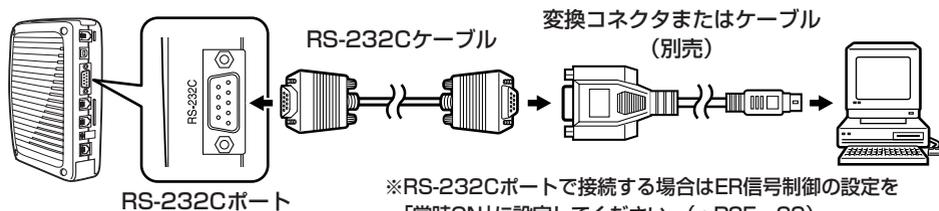
付属のINSメイトV30Slim専用CD-ROMをご用意ください。

- 1 INSネット64回線に接続する（取扱説明書▶P29）
- 2 RS-232Cポートに接続する  
本商品とパソコンをRS-232Cケーブルで接続してください。
- 3 CCLファイル（モデム情報ファイル）をインストールする

## RS-232Cポートに接続する

1 パソコンの電源を切る。

2 付属ケーブルで本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポートをつなぐ。



※RS-232Cポートで接続する場合はER信号制御の設定を「常時ON」に設定してください。（▶P25、29）

※変換コネクタまたはケーブルはお客様でご用意ください。

### STOP お問い合わせ

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入してください。

1  
手  
動  
設  
定  
に  
つ

2  
W  
i  
n  
d  
o  
w  
s

3  
X  
P  
C  
O  
N  
T  
O  
O  
S

4  
M  
a  
c  
O  
S

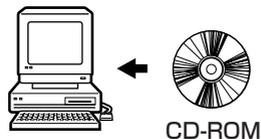
5  
M  
a  
c  
O  
S  
X

6  
拡  
張  
F  
T  
-  
2  
3  
2  
C  
ポ  
ー  
ト

# RS-232Cポートを使うには (Mac OS 8.1/8.5/8.6/9/9.1/9.2)

## CCLファイルをインストールする

- 1 パソコンの電源を入れ、INSメイト V30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



- 2 [V30Slim] アイコンをダブルクリックする。

[V30Slim] アイコンをダブルクリックする前に手順3の画面が表示された場合は、手順3に進みません。



- 3 [OS8,9] フォルダをダブルクリックする。



- 4 [CCL] フォルダをダブルクリックする。



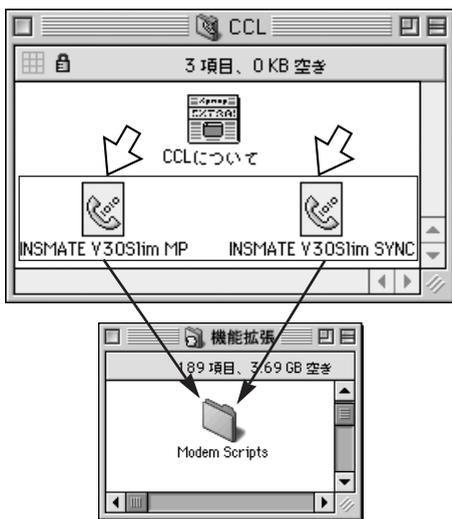
### お知らせ

- 付属品のCD-ROM内の [CCL] フォルダ内にある [CCLについて] ファイルを必ずお読みください。

5 [Macintosh HD] フォルダの中にある [システムフォルダ] をダブルクリックし、[機能拡張] フォルダをダブルクリックする。



6 [CCL] フォルダ内の [INSMATE V30Slim SYNC] と [INSMATE V30Slim MP] を [機能拡張] フォルダの中にある [Modem Scripts] フォルダへドラッグする。



7 アップルメニューの [コントロールパネル] - [モデム] を選択する。

# RS-232Cポートを使うには (Mac OS 8.1/8.5/8.6/9/9.1/9.2)

(前ページの続きです)

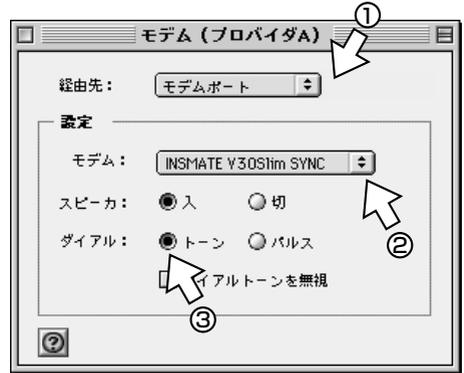
## 8 モデムの設定を行う。

以下の内容を参考にして、設定してください。

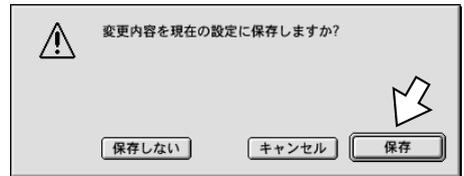
[経由先] ……本商品を接続したポートを  
[モデムポート] または [プリンタポート] から選択

[モデム] ……同期64 kbit/s (☛P26) のアクセスポイントへ接続するときは、[INSMATE V30Slim SYNC] を選択  
•MP128 kbit/s (☛P26) のアクセスポイントへ接続するときは、[INSMATE V30Slim MP] を選択

[ダイアル] ……[トーン] を選択

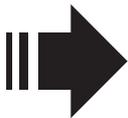
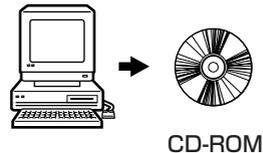


## 9 画面を閉じるとき、設定を保存する。



## 10 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、「接続の設定をするには」(☛P125) へ進みます。

# 接続の設定をするには (Mac OS 8.1/8.5/8.6/9/9.1/9.2)

インターネットに接続するために、接続先の設定、TCP/IPの設定を行います。

## 1 [アップルメニュー] の [コントロールパネル] - [モデム] を選択する。

モデムのコントロールパネルが開きます。

イーゼルウィザードを使用せずに必要なファイルをインストールした場合 (P118、122) は、手順5から始めます。

## 2 モデムの設定を行う。

以下の内容を参考にして設定してください。

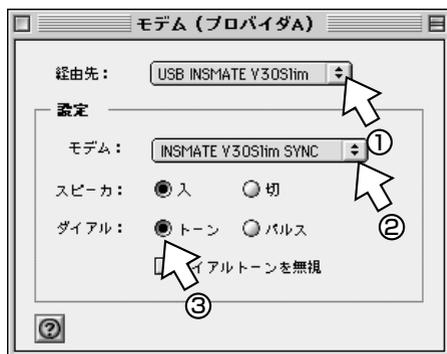
[経由先] ……RS-232Cポートをご利用の場合  
本商品を接続したポートを [モデムポート] または [プリンタポート] から選択

- USBポートをご利用の場合 [USB INSMATE V30 Slim] を選択

[モデム] ……同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するときは、 [ INSMATE V30Slim SYNC] を選択

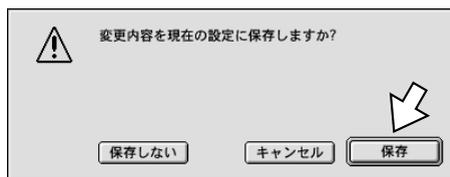
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するときは、 [INSMATE V30Slim MP] を選択

[ダイアル] …… [トーン] を選択



## 3 [モデム] のウインドウを閉じる。

## 4 「変更内容を現在の設定に保存しますか？」と表示されたら、[保存] をクリックする。



(次ページへ続きます)

# 接続の設定をするには (Mac OS 8.1/8.5/8.6/9/9.1/9.2)

(前ページの続きです)

## 5 [アップルメニュー] の [コントロールパネル] - [TCP/IP] を選択する。

## 6 プロバイダの情報を設定する。

以下のように設定します。

[経由先] …… [PPP] を選択

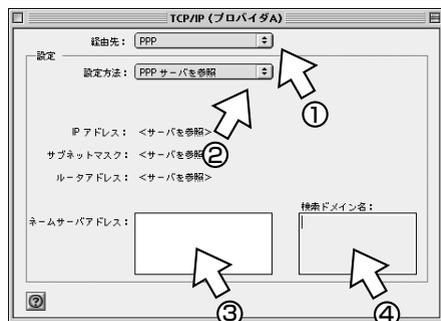
[設定方法] …… [PPPサーバを参照] を選択

[ネームサーバアドレス]

……………プロバイダから通知された  
ネームサーバアドレス

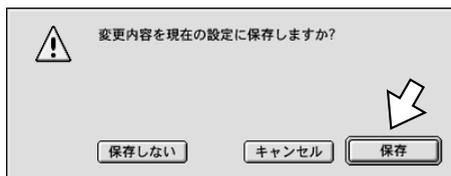
[検索ドメイン名]

……………プロバイダから通知された  
ドメインサーバ名



## 7 [TCP/IP] のウィンドウを閉じる。

## 8 「変更内容を現在の設定に保存しますか？」と表示されたら、[保存] をクリックする。



接続の設定が終了したら、必要に応じて次のページをご覧ください。

- ・「インターネット接続編」(取扱説明書●P79)
- ・「電話/ファクス編」(取扱説明書●P107)

# USBポートを使うには (Mac OS X)

本商品のUSBポートとパソコンのUSBポートを接続して使うには、次の手順が必要です。

USBドライバをインストールしなくても、Mac OS Xの標準USBドライバで本商品をお使いになることができます。

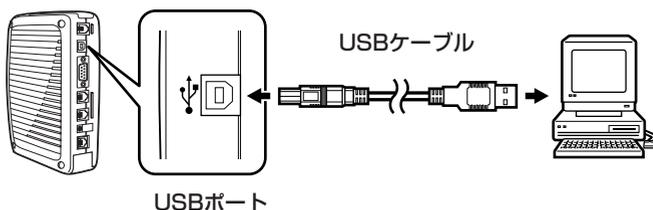
付属のINSメイトV30Slim専用CD-ROMをご用意ください。

- 1 INSネット64回線に接続する（取扱説明書●P29）
- 2 本商品とパソコンを接続する  
本商品とパソコンをUSBケーブルで接続してください。
- 3 CCLファイル（モデム情報ファイル）をインストールする

## 本商品とパソコンを接続する

1 パソコンの電源を切る。

2 本商品とパソコンをUSBケーブルで接続する。

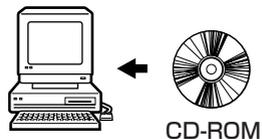
1  
手  
動  
設  
定  
に  
つ2  
V  
i  
n  
d  
o  
w  
s3  
X  
P  
/  
O  
N  
T  
O  
O  
w  
s  
®4  
M  
a  
c  
O  
S5  
M  
a  
c  
O  
S  
X6  
拡  
張  
F  
U  
N  
C  
T  
I  
O  
N  
ポ  
ー  
ト

### STOP お問い合わせ

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- 画面はMac OS X (10.0.4) の例です。

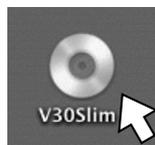
## CCLファイルをインストールする

- 1 パソコンの電源を入れ、INSメイト V30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



- 2 [V30Slim] アイコンをダブルクリックする。

[V30Slim] アイコンをダブルクリックする前に手順3の画面が表示された場合は、手順3に進みます。



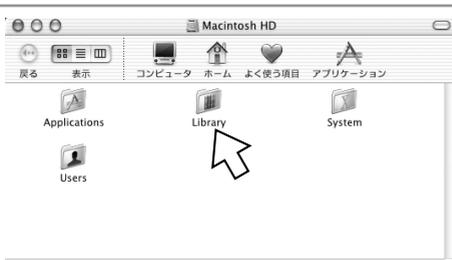
- 3 [OSX] アイコンをダブルクリックする。



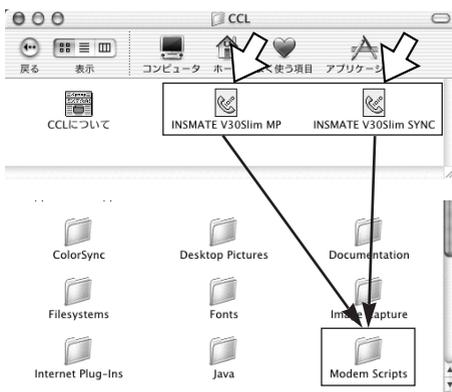
- 4 [CCL] フォルダをダブルクリックする。



5 Macintosh HDフォルダの中にある【Library】フォルダをダブルクリックする。



6 [CCL] フォルダ内の [INSMATE V30Slim SYNC] と [INSMATE V30Slim MP] を [Library] フォルダの中にある [Modem Scripts] フォルダへコピーする。



7 アップルメニューの【システム環境設定】を選択する。

8 【ネットワーク】アイコンをクリックする。



(前ページの続きです)

## 9 [設定] または [表示] の一覧からポートの種類を選択する。

- USBポートをご利用の場合 [USBモデム] または [USBモデムXXX] を選択
- 複数のポートをご利用の場合は、[設定] の [詳細] または [表示] の [動作中のネットワークポート] をクリックし、本商品を接続するポートをドラッグしてリスト内の一番上へ移動し、優先順位を1番に指定します。  
また、使用しない他のポートについては、リスト内の「入」チェックボックスのチェックを外してください。



## 10 [モデム] をクリックし、モデムの設定を行う。

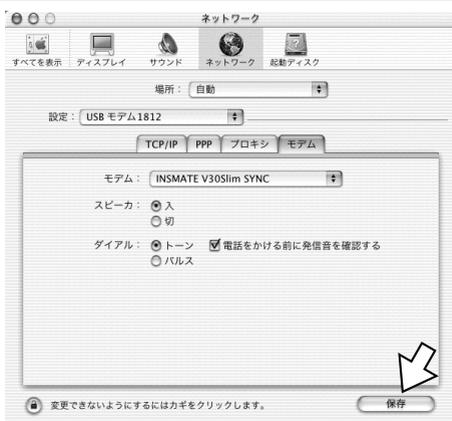
- 以下の内容を参考にして、設定してください。
- [モデム] ……同期64 kbit/s (P26) のアクセスポイントへ接続するときは、[INSMATE V30Slim SYNC] を選択
- MP128 kbit/s (P26) のアクセスポイントへ接続するときは、[INSMATE V30Slim MP] を選択
- [ダイヤル] ……[トーン] を選択



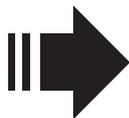
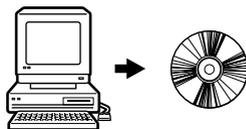
### お知らせ

- [USBモデムXXX] の“XXX”については、お使いのパソコンにより異なります。
- USBモデムが複数表示される場合があります。この場合、有効なモデムをモデム名称で判断することができません。実際に動作するモデムが有効なモデムとなります。

## 11 [保存] または [今すぐ適用] をクリックする。



## 12 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。



引き続き、「接続の設定をする」(取扱説明書 P98) へ進みます。

### お知らせ

- Mac OS X (10.5) をお使いでUSBポートをご利用の場合は、手順9では一覧から「USB Modem」を選択し、[詳細]をクリックします。
- Mac OS X (10.5) をお使いの場合、手順11では [OK]をクリックします。

# 拡張RS-232Cポートを使うには (Windows® XP)

本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポート（シリアルポート）を接続して使うには、次の手順が必要です。

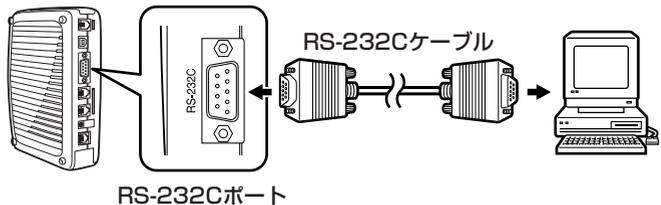
付属のINSメイトV30Slim専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

- 1 INSネット64回線に接続する（取扱説明書▶P29）
- 2 RS-232Cポートに接続する  
本商品とパソコンをRS-232Cケーブルで接続してください。
- 3 モデム定義ファイルをインストールする

## RS-232Cポートに接続する

1 パソコンの電源を切る。

2 付属ケーブルで本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポートをつなぐ。



3 パソコンの電源を入れる。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、「RS-232Cポートを使うには (Windows® XP)」(▶P83) の手順7へ進みます。

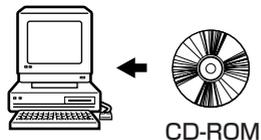
### STOP お願い

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。
- RS-232Cポートが複数有るパソコンで、接続するRS-232Cポートを変更する場合は、いったんドライバを削除してから（取扱説明書▶P201）、再度インストールをしてください。

## モデム定義ファイルをインストールする

- 1 INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END]をクリックして案内ページを閉じてください。



- 2 [スタート] ボタンをクリックして、[コントロールパネル] をクリックする。



- 3 [プリンタとその他のハードウェア] をクリックする。



(前ページの続きです)

## 4 [電話とモデムのオプション] をクリックする。



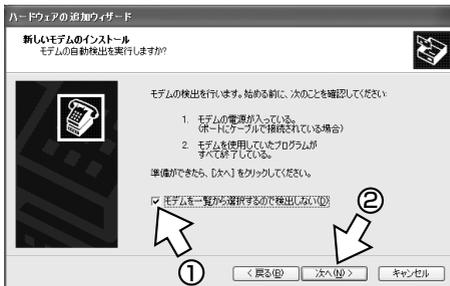
## 5 [モデム] をクリックする。



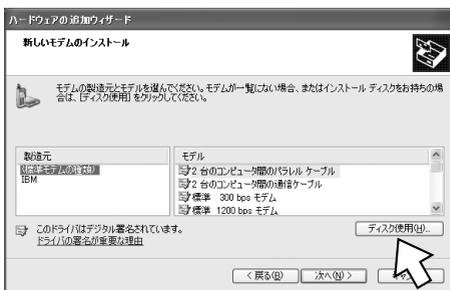
## 6 [追加] をクリックする。



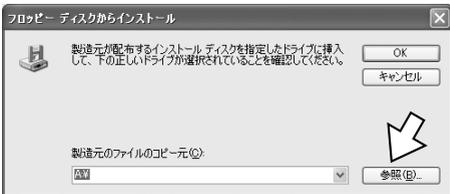
7 [モデムを一覧から選択するので検出しません] をチェックして [次へ>] をクリックする。



8 [ディスク使用] をクリックする。



9 [参照] をクリックする。



(前ページの続きです)

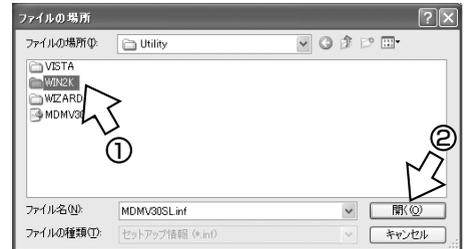
**10** [ファイルの場所] の ▾ をクリックし、一覧からCD-ROMドライブを選択する。



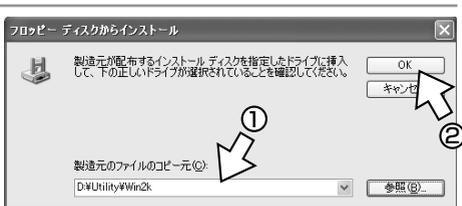
**11** [UTILITY] フォルダをダブルクリックする。



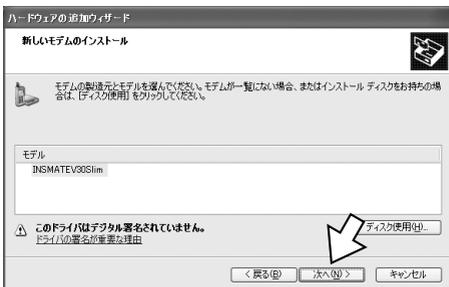
**12** [WIN2K] フォルダをダブルクリックし、[開く] をクリックする。



- 13 [製造元のファイルのコピー元] に [UTILITY¥WIN2K] が表示されていることを確認し、[OK] をクリックする。



- 14 [次へ>] をクリックする。



- 15 [選択したポート] をクリックし、インストールするCOMポートを選択し、[次へ>] をクリックする。  
ここで手順17の画面が表示された場合は、手順17へ進みます。



- 16 [INSMATEV30Slim] と表示されていることを確認し、[続行] をクリックする。



(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

17 [完了] をクリックする。



18 [ダイヤル情報] をクリックする。



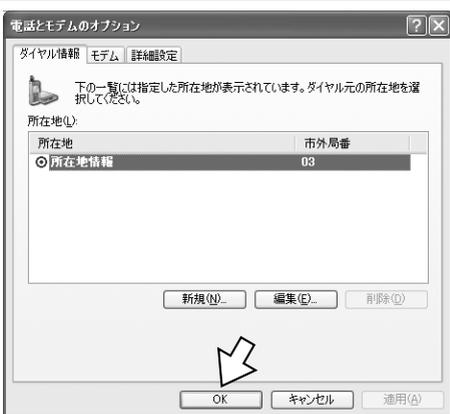
19 [所在地情報] または [新しい所在地] をダブルクリックする。



20 [所在地情報] または [新しい所在地] をご使用にあわせて正しく設定し、[OK] をクリックする。



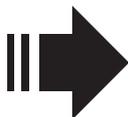
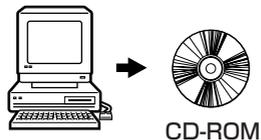
21 [OK] をクリックする。



(前ページの続きです)

## 22 CD-ROMドライブからCD-ROM を取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、「接続の設定をするには」(P94)へ進みます。

# 拡張RS-232Cポートを使うには (Windows® 2000)

本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポート（シリアルポート）を接続して使うには、次の手順が必要です。

付属のINSメイトV30Slim専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

1 INSネット64回線に接続する（取扱説明書➡P29）

2 RS-232Cポートに接続する

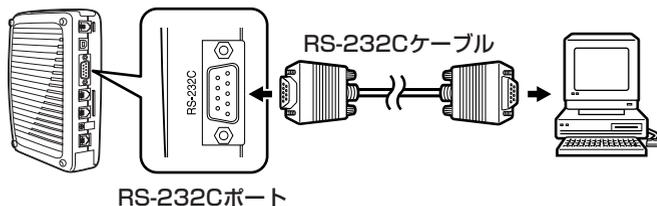
本商品とパソコンをRS-232Cケーブルで接続してください。

3 モデム定義ファイルをインストールする

## RS-232Cポートに接続する

1 パソコンの電源を切る。

2 付属ケーブルで本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポートをつなぐ。



3 パソコンの電源を入れる。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、「RS-232Cポートを使うには (Windows® 2000)」(➡P89) の手順7へ進みます。

(次ページへ続きます)

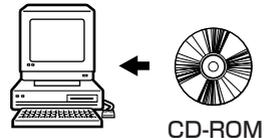
### STOP お願い

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。
- RS-232Cポートが複数有るパソコンで、接続するRS-232Cポートを変更する場合は、いったんドライバを削除してから（取扱説明書➡P201）、再度インストールをしてください。

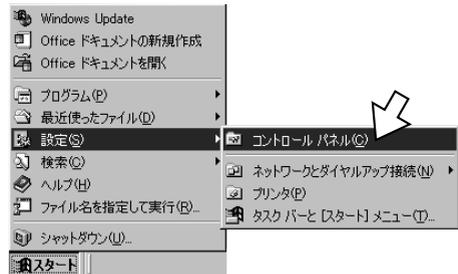
## モデム定義ファイルをインストールする

- 1 INSメイトV30Slim専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END]をクリックして案内ページを閉じてください。



- 2 [スタート] ボタンをクリックして、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする。



- 3 [電話とモデムのオプション] アイコンをダブルクリックする。

[所在地情報]が表示された場合は、[市外局番/エリアコード]に市外局番を入力し、[OK]をクリックします。



## 4 【モデム】 をクリックする。

本商品を接続したポートに他のモデムがセットアップされている場合は削除してください。

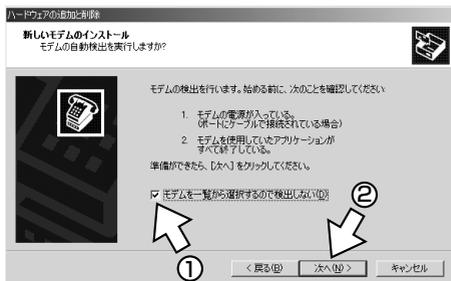
これまで、モデムがセットアップされていなかったときなどは、右の画面が表示されずに「新しいモデムのインストール」画面が表示されますので、手順6へ進みます。



## 5 【追加】 をクリックする。



## 6 【モデムを一覧から選択するので検出しません】 をチェックして【次へ>】 をクリックする。



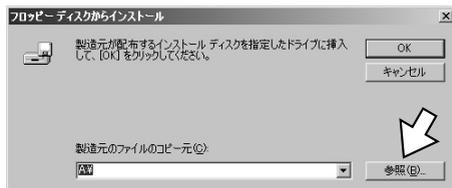
(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

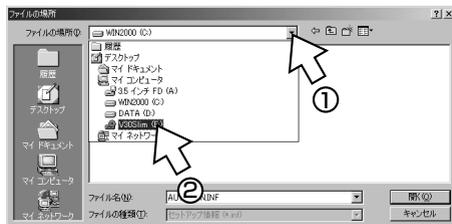
## 7 [ディスク使用] をクリックする。



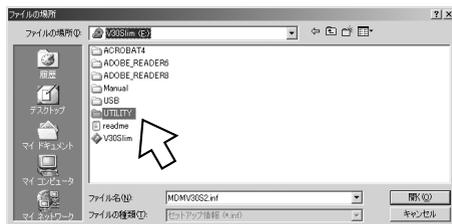
## 8 [参照] をクリックする。



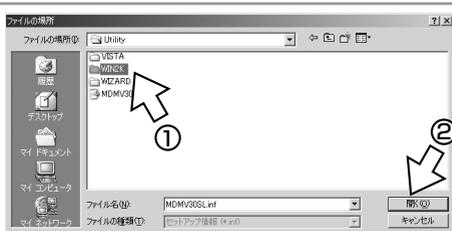
## 9 [ファイルの場所] の▼をクリックし、一覧からCD-ROMドライブを選択する。



## 10 [UTILITY] フォルダをダブルクリックする。



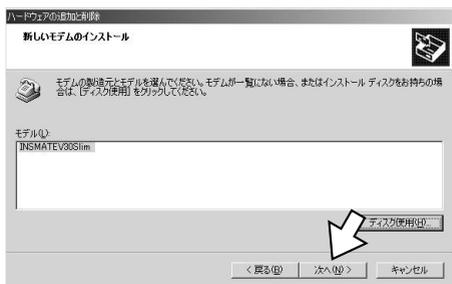
## 11 [WIN2K] フォルダをダブルクリックし、[開く] をクリックする。



## 12 [製造元のファイルのコピー元] に [UTILITY¥WIN2K] が表示されていることを確認し、[OK] をクリックする。



## 13 [次へ>] をクリックする。



## 14 [選択したポート] をクリックし、インストールするCOMポートを選択し、[次へ>] をクリックする。

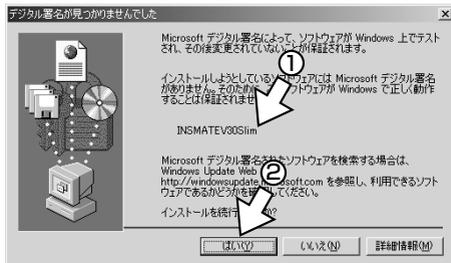
ここで手順16の画面が表示された場合は、手順16へ進みます。



(前ページの続きです)

## 15 [INSMATEV30Slim] と表示されていることを確認し、[はい] をクリックする。

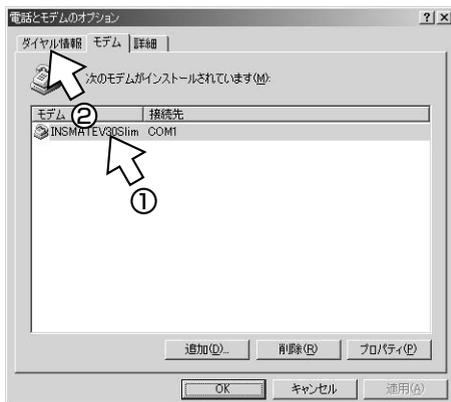
[所在地情報] 画面が表示された場合はご使用に合わせて正しく設定し、[次へ>] をクリックしてください。



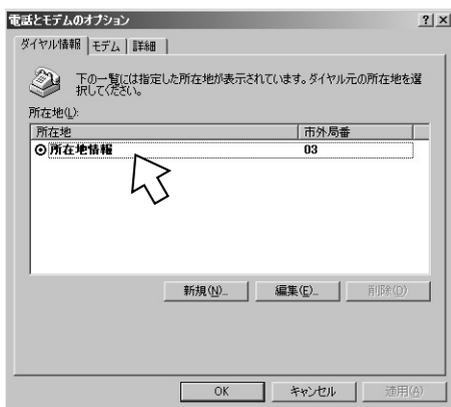
## 16 [完了] をクリックする。



## 17 [モデム] に [INSMATEV30Slim] と表示されていることを確認し、[ダイヤル情報] をクリックする。



## 18 [所在地情報] または [新しい所在地] をダブルクリックする。



## 19 [所在地情報] または [新しい所在地] をご使用に合わせて正しく設定し、[OK] をクリックする。



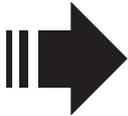
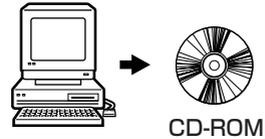
(前ページの続きです)

20 [OK] をクリックする。



21 CD-ROMドライブからCD-ROM  
を取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、「接続の設定をするには」(P103)へ進みます。

# その他

ATコマンド .....	150
設定記入シート .....	174

# ATコマンド

ATコマンドは、米国Hayes社が開発したモデムを制御するコマンドで、多くのモデムで採用されています。本商品は、ATコマンドに準拠しており、さらに拡張コマンドを採用しています。ATコマンドで行う設定の主な項目は、設定ユーティリティをご利用になると簡単に設定することができます。(➡取扱説明書P67、69、70)

## ATコマンドの入力方法

通信ソフトウェア (Windows® XPのハイパーターミナルなど) を利用して、ATコマンドを入力します。また、「AT」と入力することにより、INSメイトV30Slimが正しく接続されていることを確認することができます。ATコマンドについては「コマンド形式」(➡P152) 以降を参照してください。

〈例〉Windows® XPのハイパーターミナルを利用する場合

### 1 [スタート] をクリックして、[すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [通信] の順にポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。

「ハイパーターミナル」が表示されます。

お使いのパソコンによっては、手順2の画面が表示されずに [接続の設定] 画面が表示されることがあります。その場合は手順3に進みます。

### 2 [Hypertrm] アイコンをダブルクリックします。

[接続の設定] 画面が表示されます。



### 3 [名前] に任意の名前を入力し [OK] をクリックします。

本商品の設定用の名前を付けて保存すると便利です。



### 4 [接続方法] に本商品が接続されているポートへのダイレクトを選択し、[OK] をクリックします。

〈例〉com1ポートに接続しているとき…「com1へダイレクト」

[COM1 プロパティ] 画面が表示されます。



## 5 通信速度などの設定を入力し、[OK] をクリックします。

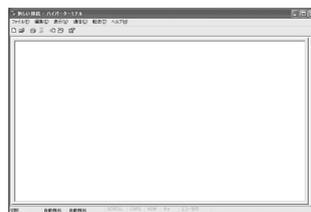
同期方式	非同期
データ長	8 bit
パリティビット	なし
ストップビット	1 bit
通信速度	9.6/19.2/38.4/57.6/115.2/ 230.4 (kbit/s)

ATコマンドを入力できる状態になります。



## 6 「AT」を入力し、リターン（またはEnter）を押します。

本商品が正しく接続されているときは、「OK」と表示されます。



### ワンポイント

#### ● ATコマンドとは

ATコマンドとは、データ通信を行うときにINSメイトV30Slimに対して設定を命令するためのコマンドです。ソフトのインストールや設定についての詳細は、ATコマンド用アプリケーションソフトやパソコンなどの取扱説明書を参照してください。

#### ● 「OK」と表示されないときは

「OK」と表示されないときは、以下の点を確認してください。

- ・RS-232CケーブルまたはUSBケーブル

INSメイトV30Slimとご利用になるパソコンに適合したRS-232CケーブルまたはUSBケーブルを使用しているか確認してください。



### お知らせ

- 「ハイパーターミナル」以外の通信ソフトウェアをご利用の場合は、お使いのソフトウェアの説明書などを参照して起動し、ATコマンドを入力してください。
- ATコマンド入力についての詳細は、各ソフトウェアメーカー、インターネットサービスプロバイダ、パソコン通信業者にお問い合わせください。

# ATコマンド

## コマンド形式

ATコマンドは以下の形式で入力します。

A	T	コマンド	CR	LF
---	---	------	----	----

- 文字は半角を使用してください。
- ATは「at」でもかまいませんが、「At」や「aT」は使用しないでください。
- コマンドは最大255文字まで入力できます。255文字を超えた場合は、ERRORをパソコンに返します。
- 複数のコマンドを連続して入力することもできます。
- コマンドの中には、コマンドの後ろにパラメータ (n) の必要なものもあります。
- CR (リターンキー) は復帰文字であり、コマンドの区切りを示します。
- LFは省略できます。
- LFは改行文字です。

## リザルトコード

送出したコマンドに対して表示される本商品からの応答結果を、リザルトコードといいます。表示されるリザルトコードには、数字形式と文字 (英字) 形式があり、ATVコマンドで選択することができます。

〈数字形式〉

リザルトコード (数字)	CR
--------------	----

〈文字形式〉

CR	LF	リザルトコード (文字)	CR	LF
----	----	--------------	----	----

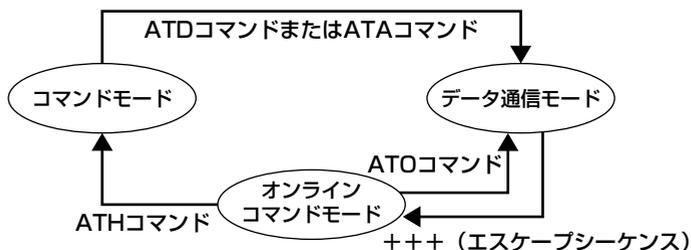
リザルトコード一覧 (P173)

## コマンドモードとデータ通信モード

「コマンドモード」のときは、パソコンから入力した文字は本商品で解釈され、本商品の制御コマンドとみなされます。データ通信モードのときは、実際にデータ通信が行われている状態で、パソコンから入力した文字はそのまま通信相手へ送信されます。パソコンから送信したデータが、本商品を制御するデータなのか、相手に送信するデータなのかを区別するために、これら2つのモードが用意されています。本商品は電源を入れた状態では、コマンドモードになっており、ATDコマンド（発信）でダイヤルしたあと、または着信時にATAコマンドで応答したあとに、データ通信モードに切り替わります。

データ通信モードから一時的にコマンドモードに切り替えたモードをオンラインコマンドモードと呼び、そのためのコマンドとしてエスケープシーケンス（+++）があります。

回線を切断するときは、「+++」でオンラインコマンドモードに切り替えたあと、ATHコマンドで切断します。



### お知らせ

- 本商品は、パソコンからのER信号がONになると通信可能になります。ER信号をONにできないパソコンの場合は、設定ユーティリティまたはAT&Dコマンドで「ER信号を常時ONとみなす」に設定してください。

# ATコマンド

## ATコマンド一覧

### ●ポート共通

#### ■ポート共通設定

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
サブアドレスなし着信設定	TEL1ポート TEL2ポート データポート	AT\$A6 AT\$B6 AT\$N6	0	0：許可する 1：許可しない	あり
機能	サブアドレスなし着信の選択を行います。				
設定例	AT\$A6=0			表示例	AT\$A6?
省略	不可				
グローバル着信設定	TEL1ポート TEL2ポート データポート	AT\$A5 AT\$B5 AT\$N5	0	0：グローバル着信する 1：グローバル着信しない	あり
機能	グローバル着信の選択を行います。				
設定例	AT\$A5=0			表示例	AT\$A5?
省略	不可				
優先着信ポート指定	AT\$D3		0	0：指定しない 1：TEL1ポート 2：TEL2ポート	あり
機能	着信時、優先的に着信するポートの指定を行います。				
設定例	AT\$D3=0			表示例	AT\$D3?
省略	不可				

#### ■三者通話

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
三者通話設定	AT\$D5		0	0：使用しない 1：疑似三者通話する 2：三者通話する	あり
機能	三者通話を使用するかしないかを設定します。				
設定例	AT\$D5=0			表示例	AT\$D5?
省略	不可				
話者切替タイマ設定	AT\$D8		4	2~9：話者切替までの時間(秒)	あり
機能	話者切替時間を設定します。				
設定例	AT\$D8=4			表示例	AT\$D8?
省略	不可				

## ■通信中転送

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
通信中転送設定	AT\$D6	0	0：使用しない 1：使用する	あり
機能	通信中転送を使用するかしないかを設定します。			
設定例	AT\$D6=0		表示例	AT\$D6?
省略	不可			

## ■着信転送

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
着信転送設定	AT\$D7	0	0：使用しない 1：疑似着信転送する 2：着信転送する	あり
機能	着信転送を使用するかしないかを設定します。			
設定例	AT\$D7=0		表示例	AT\$D7?
省略	不可			
着信転送トーン設定	AT\$Z5	0	0：転送トーンなし、転送元トーンなし 1：転送トーンあり、転送元トーンなし 2：転送トーンなし、転送元トーンあり 3：転送トーンあり、転送元トーンあり	あり
機能	着信転送時、トーンを使用するかしないかを設定します。			
設定例	AT\$Z5=0		表示例	AT\$Z5?
省略	不可			

# ATコマンド

## ■迷惑電話防止

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定	
非通知拒否設定	AT\$D9	1	0:する 1:しない	あり	
機能	迷惑着信拒否の発番号非通知着信についての拒否を設定します。				
設定例	AT\$D9=0		表示例	AT\$D9?	
省略	不可				
迷惑電話防止電話番号	AT\$D10	なし	迷惑着信拒否番号1~32桁	あり	
機能	迷惑電話防止電話番号の登録・消去・表示を行います。				
登録例	AT\$D10=0312345678	消去例	AT\$D10=#(全消去) AT\$D10=#0312345678 (番号指定消去)	表示例	AT\$D10?
省略	不可				

## ■電話番号設定

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定	
契約者回線番号用着信転送先電話番号	AT\$Y0	なし	電話番号1~32桁	あり	
機能	契約者回線番号へ着信時アナログポートの着信転送先電話番号の登録・消去・表示を行います。				
登録例	AT\$Y0=0312345678	消去例	AT\$Y0=#	表示例	AT\$Y0?
省略	不可				
ダイヤルイン/ i・ナンバー用1 着信転送先電話番号	AT\$Y1	なし	電話番号1~32桁	あり	
機能	ダイヤルイン1またはi・ナンバー情報1へ着信時アナログポートの着信転送先電話番号の登録・消去・表示を行います。				
登録例	AT\$Y1=0312345678	消去例	AT\$Y1=#	表示例	AT\$Y1?
省略	不可				
ダイヤルイン/ i・ナンバー用2 着信転送先電話番号	AT\$Y2	なし	電話番号1~32桁	あり	
機能	ダイヤルイン2またはi・ナンバー情報2へ着信時アナログポートの着信転送先電話番号の登録・消去・表示を行います。				
登録例	AT\$Y2=0312345678	消去例	AT\$Y2=#	表示例	AT\$Y2?
省略	不可				
契約者回線番号用 着信転送元電話番号	AT\$Z0	なし	転送元電話番号1~32桁 転送元サブアドレス1~19桁	あり	
機能	アナログポートの着信転送元電話番号およびサブアドレスの登録・消去・表示を行います。				
登録例	AT\$Z0=0312345678/1234	消去例	AT\$Z0=#	表示例	AT\$Z0?
省略	不可				

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
ダイヤルイン/ i・ナンバー用1 着信転送元電話番号	AT\$Z1		なし	転送元電話番号1~32桁 転送元サブアドレス1~19桁	あり
機能	ダイヤルイン1またはi・ナンバー情報1で着信したときの着信転送元の電話番号・サブアドレスの登録・消去・表示を行います。電話番号とサブアドレスの区切り子は/です。				
登録例	AT\$Z1=0312345678/4567	消去例	AT\$Z1=#	表示例	AT\$Z1?
省略	不可				
ダイヤルイン/ i・ナンバー用2 着信転送元電話番号	AT\$Z2		なし	転送元電話番号1~32桁 転送元サブアドレス1~19桁	あり
機能	ダイヤルイン2またはi・ナンバー情報2で着信したときの着信転送元の電話番号・サブアドレスの登録・消去・表示を行います。電話番号とサブアドレスの区切り子は/です。				
登録例	AT\$Z2=0312345678/8901	消去例	AT\$Z2=#	表示例	AT\$Z2?
省略	不可				

■発信者番号通知

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
発信者番号通知	TEL1ポート TEL2ポート データポート	ATC1 ATC2 ATCO	2	0:通知しない 1:通知する 2:申込内容に従う	あり
機能	発信時、発信者情報の付加方法について設定を行います。				
設定例	ATC12			表示例	ATC1?
省略	不可				

# ATコマンド

## ■ i・ナンバー

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定		
i・ナンバー	AT\$E0		0	0：使用しない 1：使用する	あり		
機能	i・ナンバーの設定をします。						
設定例	AT\$E0=0			表示例	AT\$E0?		
省略	不可						
i・ナンバー電話番号	1 2 3	AT\$E1 AT\$E2 AT\$E3	なし	i・ナンバー情報に対応した電話番号(1~20桁)	あり		
機能	i・ナンバー使用時にi・ナンバー情報に対応した電話番号の登録・消去・表示を行います。						
設定例	AT\$E1=0312345678	消去例	AT\$E1=#	表示例	AT\$E1?		
省略	不可						
発信ポート番号指定	TEL1ポート TEL2ポート データポート	AT\$A21 AT\$B21 AT\$N21	1 2 1	1：i・ナンバー情報1 2：i・ナンバー情報2 3：i・ナンバー情報3	あり		
機能	i・ナンバーを利用している場合の発信時INSネット64に送出するi・ナンバー情報を指定します。						
設定例	AT\$A21=1			表示例	AT\$A21?		
省略	不可						
i・ナンバー着信設定	TEL1ポート TEL2ポート データポート	AT\$A22 AT\$B22 AT\$N22	1 2 3	設定値	あり		
				i・ナンバー情報1	×	×	×
				i・ナンバー情報2	○	×	×
				i・ナンバー情報3	×	○	×
				0	×	×	×
				1	○	×	×
				2	×	○	×
				3	×	○	×
4	×	×	○				
5	○	×	○				
6	×	○	○				
7	○	○	○				
○：着信可 ×：着信不可							
機能	i・ナンバー着信時、i・ナンバー情報に対応して着信するポートを設定します。						
設定例	AT\$A22=1			表示例	AT\$A22?		
省略	不可						

●アナログポート  
■アナログポート各種設定

データ定義		ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
発信者番号		TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A20 AT\$B20	なし	電話番号 1~32桁	あり
機能	発信者番号の登録・消去・表示を行います。					
登録例	AT\$A20=0312345678		消去例	AT\$A20#		表示例 AT\$A20?
省略	不可					
アナログポート接続設定		TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A28 AT\$B28	1	0:使用しない 1:使用する	あり
機能	アナログポートを使用するかしないかを設定します。					
設定例	AT\$A28=0			表示例	AT\$A28?	
省略	不可					
着信する番号		TEL1ポート TEL2ポート	AT#ZAn AT#ZBn	なし	n:対地番号(0~7) 着信する番号 1~32桁	あり
機能	着信する番号の登録・消去・表示を行います。					
登録例	AT#ZAO=0312345678		消去例	AT#ZAO#		表示例 AT#ZAO?
省略	不可					
サブアドレス		TEL1ポート TEL2ポート	AT#ZA AT#ZB	なし	サブアドレス 1~19桁	あり
機能	サブアドレスの登録・消去・表示を行います。					
登録例	AT#ZA=9876		消去例	AT#ZA#		表示例 AT#ZA?
省略	不可					
受話音量調整		TEL1ポート TEL2ポート	AT&H1 AT&H2	1	0:小 1:中 2:大	あり
機能	アナログ電話機の受話音量の調整ができます。					
設定例	AT&H1=1			表示例	AT&H1?	
省略	不可					
アナログポート設定値表示		TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A0 AT\$B0	なし	AT\$A0でTEL1ポートの情報 を表示します。 AT\$B0でTEL2ポートの情報 を表示します。	なし
接続機器設定		TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A1 AT\$B1	1	0:電話機 1:ファクス付き電話機・モデム・Lモード対応電話機	あり
機能	アナログポートの接続機器を設定します。					
設定例	AT\$A1=0			表示例	AT\$A1?	
省略	不可					

(次ページへ続きます)

# ATコマンド

(前ページの続きです)

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
<b>HLC (高位レイヤ整合性) 設定</b>	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A2 AT\$B2	0	0: HLC設定しない 1: HLC設定する	あり
機能	HLC設定を行うかどうかを設定します。				
設定例	AT\$A2=0			表示例	AT\$A2?
省略	不可				
<b>内線呼出信号設定</b>	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A8 AT\$B8	1	0: 呼出信号1 1: 呼出信号2	あり
機能	内線呼出信号音の選択を行います。				
設定例	AT\$A8=0			表示例	AT\$A8?
省略	不可				
<b>ダイヤル種別</b>	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A18 AT\$B18	0	0: PB固定 1: DP固定	あり
機能	アナログポートへ接続する端末に応じてダイヤル種別をPB固定/DP固定に設定できます。				
設定例	AT\$A18=0			表示例	AT\$A18?
省略	不可				
<b>発信規制</b>	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A19 AT\$B19	0	0: 規制しない 1: 0発信規制 2: 外線発信規制	あり
機能	アナログ通信機器からの外線発信を規制することができます。				
設定例	AT\$A19=0			表示例	AT\$A19?
省略	不可				
<b>内線機能</b>	AT\$D64		1	0: 内線機能使用しない 1: 内線機能使用する	あり
機能	アナログ通信機器からの内線発信および内線転送を使用するかしないかを設定します。				
設定例	AT\$D64=1			表示例	AT\$D64?
省略	不可				
<b>FAX自動転送設定</b>	AT\$D65		0	0: 転送しない 1: 転送する	あり
機能	着信応答後のCNG信号検出でTEL1ポートからTEL2ポートへの内線転送を行うか行わないかを設定します。				
設定例	AT\$D65=0			表示例	AT\$D65?
省略	不可				
<b>フッキング検出時間</b>	AT\$D73		1	0: 短い (100 ms~500 ms) 1: 普通 (300 ms~1000 ms) 2: 長い (500 ms~1500 ms)	あり
機能	フックボタンを押したときにフッキングと認識させる時間を設定します。				
設定例	AT\$D73=1			表示例	AT\$D73?
省略	不可				
<b>ダイヤル桁間タイマ</b>	AT\$D74		04	02~15: 2秒~15秒	あり
機能	ダイヤル間の間隔時間を設定します。				
設定例	AT\$D74=04			表示例	AT\$D74?
省略	不可				

データ定義		ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
ダイヤル終了識別		AT\$D75		1	0:ダイヤル終了手動識別しない 1:ダイヤル終了手動識別する(#) 2:ダイヤル終了手動識別する(##)	あり
機能	ダイヤル終了を手動で行えるように設定します。					
設定例	AT\$D75=1			表示例	AT\$D75?	
省略	不可					
メッセージあり表示		AT\$D76		1	0:表示しない 1:表示する	あり
機能	メッセージあり情報をランプで表示するかしないかを設定します。					
設定例	AT\$D76=1			表示例	AT\$D76?	
省略	不可					
メッセージあり通知		TEL1ポート	AT\$A29	0	0:しない 1:する	あり
		TEL2ポート	AT\$B29			
機能	メッセージあり情報をアナログ通信機器に通知するかしないかを設定します。					
設定例	AT\$A29=0			表示例	AT\$A29?	
省略	不可					

### ■ナンバー・ディスプレイ

データ定義		ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
ナンバー・ディスプレイ発信者番号通知		TEL1ポート	AT\$A9	0	0:しない 1:する	あり
		TEL2ポート	AT\$B9			
機能	発信者番号をアナログ通信機器に通知をするかしないかを設定します。					
設定例	AT\$A9=0			表示例	AT\$A9?	
省略	不可					
ナンバー・ディスプレイ発サブアドレス付加設定		TEL1ポート	AT\$A12	0	0:しない 1:する	なし
		TEL2ポート	AT\$B12			
機能	発信者番号に発サブアドレスが含まれる場合、アナログ通信機器に通知するかしないかを設定します。					
設定例	AT\$A12=0			表示例	AT\$A12?	
省略	不可					

### ■ネーム・ディスプレイ

データ定義		ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
ネーム・ディスプレイ発信者名通知		TEL1ポート	AT\$A30	0	0:しない 1:する	あり
		TEL2ポート	AT\$B30			
機能	発信者名をアナログ通信機器へ通知するかどうかを設定します。					
設定例	AT\$A30=0			表示例	AT\$A30?	
省略	不可					

# ATコマンド

## ■モデムダイヤルイン

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
モデムダイヤルイン 着番号通知	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A10 AT\$B10	0	0:しない 1:する	あり
機能	着信ダイヤルイン番号をアナログ通信機器に通知するかしないかを設定します。				
設定例	AT\$A10=0			表示例	AT\$A10?
省略	不可				
モデムダイヤルイン 着サブアドレス付加設定	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A13 AT\$B13	0	0:しない 1:する	なし
機能	着信ダイヤルイン番号に着サブアドレスが含まれた場合、アナログ通信機器に通知するかしないかを設定します。				
設定例	AT\$A13=0			表示例	AT\$A13?
省略	不可				
モデムダイヤルイン 契約者回線番号	AT\$D11		なし	契約者回線番号1~20桁	あり
機能	モデムダイヤルイン時、契約者回線番号で着信した場合に送出するダイヤルイン番号の登録・消去・表示を行います。				
登録例	AT\$D11=0312345678	消去例	AT\$D11=#	表示例	AT\$D11?
省略	不可				

## ■なりわけ

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
INSなりわけ	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A15 AT\$B15	0	0:使用しない 1:使用する	あり
機能	INSなりわけサービスを使用するかしないかを設定します。				
設定例	AT\$A15=0			表示例	AT\$A15?
省略	不可				
疑似なりわけ	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A16 AT\$B16	0	0:使用しない 1:使用する	あり
機能	疑似なりわけを使用するかしないかを設定します。				
設定例	AT\$A16=0			表示例	AT\$A16?
省略	不可				
なりわけ動作設定	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A17 AT\$B17	0	0:識別リングング 1:セキュリティ(着信拒否)	あり
機能	INSなりわけまたは疑似なりわけを使用するときの動作を設定します。				
設定例	AT\$A17=0			表示例	AT\$A17?
省略	不可				
疑似なりわけ番号	TEL1ポート TEL2ポート	AT&Y1t AT&Y2t	なし	t:疑似なりわけ番号(0~9) 電話番号 1~32桁 サブアドレス 1~19桁	あり
機能	疑似なりわけ番号の登録・消去・表示を行います。電話番号とサブアドレスの区切り子は/です。				
登録例	AT&Y10=0312345678/9876	消去例	AT&Y10=#	表示例	AT&Y10?
省略	不可				

## ■キャッチホン・ディスプレイ

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
キャッチホン・ディスプレイ 発信者番号通知	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A23 AT\$B23	0	0:しない 1:する	あり
機能	キャッチホンの発信者番号をアナログ通信機器に通知をするかしないかを設定します。				
設定例	AT\$A23=0			表示例	AT\$A23?
省略	不可				
キャッチホン・ディスプレイ 発サブアドレス付加 設定	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A24 AT\$B24	0	0:しない 1:する	なし
機能	キャッチホンの発信者番号に発サブアドレスが含まれる場合、アナログ通信機器に通知するかしないかを設定します。				
設定例	AT\$A24=0			表示例	AT\$A24?
省略	不可				

## ■着信拒否

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
着信拒否	TEL1ポート TEL2ポート	AT¥T1/1* AT¥T2/1*	1	0:着信拒否する 1:着信拒否しない	あり
機能	TEL1、2ポートへの着信拒否を設定します。				
設定例	AT¥T1/1*0			表示例	AT¥T1/1*?
省略	不可				

## ■キャッチホン

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
キャッチホン	TEL1ポート TEL2ポート	AT¥T1/2* AT¥T2/2*	0	0:しない 1:疑似キャッチホン 2:INSキャッチホン	あり
機能	TEL1、2ポートへのキャッチホンの設定を行います。				
設定例	AT¥T1/2*0			表示例	AT¥T1/2*?
省略	不可				

# ATコマンド

## ■FAX無鳴動着信設定

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
FAX無鳴動着信設定	TEL1ポート TEL2ポート	AT\$A27 AT\$B27	0	0:しない 1:する	あり
機能	FAX無鳴動着信を設定します。				
設定例	AT\$A27=0			表示例	AT\$A27?
省略	不可				

## ●データポート

### ■データポート各種設定

データ定義	ATコマンド名称		初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
発信者番号 登録・消去・表示	AT\$N20		なし	電話番号 1~32桁	あり
機能	発信者番号の登録・消去・表示を行います。				
登録例	AT\$N20=0312345678	消去例	AT\$N20#	表示例	AT\$N20?
省略	不可				
着信する番号/サブ アドレス	AT#ZN		なし	着信する番号 1~32桁 サブアドレス 1~19桁	あり
機能	着信する番号、サブアドレスの登録・消去・表示を行います。電話番号とサブアドレスの区切り子は/です。				
登録例	AT#ZN=0312345678/4567	消去例	AT#ZN#	表示例	AT#ZN?
省略	不可				
データポート設定値 表示	AT\$NO		なし	AT\$NOでデータポートの情 報を表示します。	なし
無通信監視タイマ	AT\$N9		10	0:監視しない 1~10(分)	あり
機能	無通信監視タイマの設定を行います。				
設定例	AT\$N9=0			表示例	AT\$N9?
省略	不可				
強制切断タイマ	AT\$N10		10	0:切断しない 1~10(時間)	あり
機能	強制切断タイマの設定を行います。				
設定例	AT\$N10=0			表示例	AT\$N10?
省略	不可				
通信モード	AT\$N11		0	0:非同期/同期PPP(マルチ リンク通信しない) 1:マルチリンクプロトコル PPP	なし
機能	マルチリンク通信の選択を行います。				
設定例	AT\$N11=0			表示例	AT\$N11?
省略	不可				

■CTI発信

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
CTI呼出種別設定	AT\$N13	1	0: 送出不しい 1: 呼出信号1 2: 呼出信号2	あり
機能	CTI発信時、アナログ通信機器への呼出種別を設定します。			
設定例	AT\$N13=1		表示例	AT\$N13?
省略	不可			
CTI呼出時間設定	AT\$N14	8	1: 15秒 2: 30秒 3: 45秒 4: 60秒 5: 90秒 6: 120秒 7: 150秒 8: 180秒	あり
機能	CTI発信時、アナログ通信機器への呼出時間を設定します。			
設定例	AT\$N14=1		表示例	AT\$N14?
省略	不可			
CTI情報出力 (出力ポート設定)	AT\$D12	9	0: TEL1またはTEL2への着信を出力する 1: TEL1への着信を出力する 2: TEL2への着信を出力する 9: 出力しない	あり
機能	TEL1・2ポートへの着信時、相手の発信者番号（発番号、発サブアドレス）または非通知理由をデータポートに表示するよう設定します。			
設定例	AT\$D12=1		表示例	AT\$D12?
省略	不可			
CTI情報出力 (表示フォーマット設定)	AT\$D13	0	0: 表示フォーマット1 1: 表示フォーマット2	あり
機能	CTI情報出力の表示フォーマットを設定します。			
設定例	AT\$D13=1		表示例	AT\$D13?
省略	不可			
CTI発信	AT!D	なし	アナログポート番号: 1または2 着番号: 1~32桁 着サブアドレス: 1~19桁	なし
機能	ATコマンド入力により、アナログポートの発信を行うことができます。 アナログポート番号と着番号の区切り子は、; (セミコロン) です。 着番号と着サブアドレスの区切り子は、/ (スラッシュ) です。			
設定例	AT!D1:0312345678/9999		表示例	なし
省略	なし			
CTI発信取り消し	AT!H	なし	アナログポート番号: 1または2	なし
機能	CTI発信後、アナログポートに接続したアナログ通信機器を呼び出している間に発信を取り消すことができます。			
設定例	AT!H1		表示例	なし
省略	なし			

# ATコマンド

## ■信号線制御

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
CD信号制御 (ON状態定義)	AT&C	1	0：常時ON 1：回線接続中ON	なし
機能	CD信号制御を設定します。			
設定例	AT&CO		表示例	AT&C?
省略	AT&C 省略時はAT&COと同等とします。			
ER信号制御	AT&D	2	0：常時ONとみなす 2：オンラインモード時OFF で回線切断	あり
機能	ER信号制御を設定します。			
設定例	AT&DO		表示例	AT&D?
省略	AT&D 省略時はAT&DOと同等とします。			
DR信号制御 (ON状態定義)	AT&S	0	0：常時ON 1：回線接続中ON	なし
機能	DR信号制御を設定します。			
設定例	AT&SO		表示例	AT&S?
省略	AT&S 省略時はAT&SOと同等とします。			

## ■BOD条件設定

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
BACP設定	AT\$M1	0	0：BACPを使用しない 1：BACPを使用する	あり
機能	BACPを利用するかしないかを設定します。			
設定例	AT\$M1=1		表示例	AT\$M1?
省略	不可			
リソースBOD設定	AT\$M2	0	0：リソースBOD機能を使用しない 1：発信／着信時に使用する 2：発信時にのみ使用する 3：着信時にのみ使用する	あり
機能	リソースBOD時のリンク追加／削除の対応方法を設定します。			
設定例	AT\$M2=1		表示例	AT\$M2?
省略	不可			
スループットBOD設定	AT\$M3	0	0：スループットBOD機能を使用しない 1：スループットBOD機能を使用する	あり
機能	スループットBODの適用を設定します。			
設定例	AT\$M3=1		表示例	AT\$M3?
省略	不可			

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
スループットBOD リンク追加算出時間	AT\$M4	30	10～60：10秒から60秒 ただし、10秒単位の設定のみ可	あり
機能	スループットBOD時のリンク追加算出時間を設定します。			
設定例	AT\$M4=30		表示例	AT\$M4？
省略	不可			
スループットBOD リンク削除算出時間	AT\$M5	10	10～60：10秒から60秒 ただし、10秒単位の設定のみ可	あり
機能	スループットBOD時のリンク削除算出時間を設定します。			
設定例	AT\$M5=10		表示例	AT\$M5？
省略	不可			
スループットBOD リンク追加しきい値	AT\$M6	70	60～90：60 %から90 % ただし、10 %単位の設定のみ可	あり
機能	スループットBOD時のリンク追加を行うしきい値を設定します。			
設定例	AT\$M6=70		表示例	AT\$M6？
省略	不可			
スループットBOD リンク削除しきい値	AT\$M7	20	10～40：10 %から40 % ただし、10 %単位の設定のみ可	あり
機能	スループットBOD時のリンク削除を行うしきい値を設定します。			
設定例	AT\$M7=20		表示例	AT\$M7？
省略	不可			

### ■各種製品情報

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
製品ID表示	ATI	なし	3：ROMバージョン 4：製品名称	あり
機能	装置名称、ROMバージョンを表示します。			
設定例	なし		表示例	ATI3
省略	不可			
リザルトコード有無	ATQ	0	0：リザルトコードあり 1：リザルトコードなし	なし
機能	リザルトコードを返すか返さないかを指定します。			
設定例	ATQ1		表示例	ATQ？
省略	ATQ 省略時はATQ0と同等とします。			
リザルトコード表示 形式	ATV	1	0：数字形式 1：文字形式	なし
機能	リザルトコードを数字で返すか英数文字で返すかを指定します。			
設定例	ATV1		表示例	ATV？
省略	ATV 省略時はATV0と同等とします。			

(次ページへ続きます)

# ATコマンド

(前ページの続きです)

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
リザルトコード書式	ATX	0	0：接続時のリザルト 「CONNECT」 1：接続時のリザルト 「CONNECT 64000」	なし
機能	リザルトコードの書式を変更します。			
設定例	ATX0		表示例	ATX?
省略	ATX 省略時はATX0と同義とします。			
累積通話料金	AT¥Cpn	なし	p：0：データポートの課金情報 を表示する 1：アナログポート1の課金 情報を表示する 2：アナログポート2の課金 情報を表示する n：0：表示 1：料金情報クリア	あり
機能	ポートごとの通話料金を累積し表示・クリアすることができます。 本商品に電池が入っていない状態で電源アダプタを抜くと、情報はなくなります。			
設定例	なし		表示例	AT¥C10
省略	不可			
データ通信詳細履歴表示	AT¥H	なし	0：通信記録10件分表示 1：前半5件分表示 2：後半5件分表示	あり
機能	データ通信を記録し表示することができます。 本商品に電池が入っていない状態で電源アダプタを抜くと、情報はなくなります。			
設定例	なし		表示例	AT¥H0
省略	不可			
データ通信詳細履歴削除	AT%Z	なし	一括削除	あり
機能	データ通信記録を削除します。			
設定例	AT%Z		表示例	なし
省略	不可			
コマンド一覧表示	AT¥S3	なし		なし
機能	ATコマンドを一覧表示します。			
設定例	なし		表示例	AT¥S3
省略	不可			
課金情報表示 (直前の課金情報)	AT¥Y	なし	0：データポートの課金情報を 表示する 1：アナログポート1の課金情 報を表示する 2：アナログポート2の課金情 報を表示する	あり
機能	直前に行った通話料金の表示を行います。 本商品に電池が入っていない状態で電源アダプタを抜くと、情報はなくなります。			
設定例	なし		表示例	AT¥Y0
省略	不可			

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
アナログポート着信履歴表示	AT¥Lpn	なし	p: 1: アナログポート1 2: アナログポート2 n: 0: 表示 1: クリア	あり
機能	直前の着信の発信者番号を表示する			
設定例	なし		表示例	AT¥L10
省略	不可			

■呼制御関連

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
着信応答	ATA	なし		なし
機能	「RING」が表示されているときに本コマンドを入力して応答し、相手と通信中になります。			
設定例	ATA		表示例	なし
省略	不可			
RINGレスポンス付加情報	ATW	0	0: RINGのみ 2: 発番号、発サブアドレス、ユーザデータ 3: サービス表示、発番号、発サブアドレス、着番号、着サブアドレス、i・ナンバー	なし
機能	リザルトコード「RING」の表示の仕方を設定します。電話番号とサブアドレスの区切り子は「/」、ユーザデータとの区切り子は「+」です。			
設定例	ATWO		表示例	ATW?
省略	ATW 省略時はATWOと同等とします。			
RINGレスポンス回数	ATSO	1	0: 自動応答しない 1~255: 自動応答までのRING回数	なし
機能	自動応答するかしないかを設定します。自動応答する場合は、応答までの「RING」レスポンス回数を設定します。設定値の表示は000~255の3桁で表示されます。			
設定例	ATSO=128		表示例	ATSO?
省略	不可			
ダイヤル発信	ATD	なし		なし
機能	発信して相手を呼び出します。電話番号とサブアドレスの区切り子は「/」、ユーザデータとの区切り子は「+」です。			
設定例	ATD0312345678/1234		表示例	なし
省略	不可			
ダイヤル再発信	ATD¥	なし		なし
機能	直前に発信した相手を再度呼び出します。			
設定例	ATD¥		表示例	なし
省略	不可			

(次ページへ続きます)

# ATコマンド

(前ページの続きです)

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
切断	ATH	なし		なし
機能	通信を切断または着信を拒否します。			
設定例	ATH		表示例	なし
省略	不可			
データ通信中のコマンドモードからデータ通信モードへ戻す	ATO (オー)	なし		なし
機能	エスケープコマンド(+++)を入力したあとのオンラインコマンドモード状態から通信状態に戻します。			
設定例	ATO		表示例	なし
省略	不可			
エコー有無	ATE	1	0 : エコーバックなし 1 : エコーバックあり	なし
機能	エコーバックするか否かを設定します。			
設定例	ATE1		表示例	ATE?
省略	ATE 省略時はATE0と同等とします。			

## ■初期化

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
リセット処理	ATZ	なし	0 : 保存値を読み出す 98 : すべてのパラメータを工場出荷値とする	なし
機能	すべてのパラメータを初期値に戻します。			
設定例	ATZ98		表示例	なし
省略	不可			
初期値に戻す	AT&F	なし		あり
機能	発信者番号、i・ナンバー電話番号、各ポートの着信する番号、各ポートのサブアドレス、モデムダイヤルイン用契約者回線番号、疑似なりわけ番号、着信転送先電話番号、着信転送元電話番号、着信転送元サブアドレス、迷惑電話防止電話番号、通信履歴、アナログポートの着信履歴およびカレンダー以外のパラメータを初期値に戻します。			
設定例	AT&F		表示例	なし
省略	不可			

## ■設定値保存

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
設定値保存	AT\$S	なし		あり
機能	ATコマンドで設定したパラメータを保存します。			
設定例	AT\$S		表示例	なし
省略	不可			

## ■自動速度検出

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
自動速度検出有無	ATU11	1	0：自動速度検出しない 1：自動速度検出する	なし
機能	自動速度検出の選択を行います。 ①自動速度検出有無、自動速度検出無効時固定速度設定実施後に必ず設定値保存（AT\$S）を行ってください。 ②上記①実施後に一度、本商品の電源アダプタおよび乾電池を抜いてください。			
設定例	ATU11=1		表示例	ATU11?
省略	不可			
自動速度検出無効時 固定速度設定	ATU12	0	0： 9.6 kbit/s 3： 19.2 kbit/s 5： 38.4 kbit/s 6： 57.6 kbit/s 7： 115.2 kbit/s 8： 230.4 kbit/s	なし
機能	自動速度検出無効時に、本商品とパソコン間の通信速度を設定します。			
設定例	ATU12=7		表示例	ATU12?
省略	不可			

## ■カレンダー設定

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
カレンダー設定	AT%D	年:2001 月:01 日:01 時:00 分:00	年：2001～2090 月：01～12 日：01～31 時：00～23 分：00～59	あり
機能	カレンダー設定を行います。年、月、日、時、分の区切り子は/です。カレンダーの上限は2090年9月18日までです。			
設定例	AT%D=2001/12/31/23/59 (2001年12月31日23時59分)		表示例	AT%D?
省略	不可			



## お知らせ

- ATU11コマンドとATU12コマンドは、AT\$Sコマンド実行後、電源アダプタおよび乾電池を抜いて、再度、電源アダプタを電源コンセントに差し込み、乾電池を入れることにより有効となります。

# ATコマンド

## ■RVS-COM

データ定義		ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
RVS-COM転送方法		AT\$M8	0	0 : アナログ通信機器の操作で転送 / 指定時間後に自動転送 1 : 直ちに自動転送	あり
機能	RVS-COMの転送方法を設定します。				
設定例	AT\$M8=0		表示例	AT\$M8?	
省略	不可				
RVS-COMモードへの移行時間		AT\$M9	0	0 : 無応答時転送しない (アナログ機器の操作で転送) 1 : 5秒 2 : 10秒 3 : 15秒 4 : 20秒 5 : 25秒 6 : 30秒 7 : 35秒 8 : 40秒 9 : 45秒 10 : 50秒 11 : 55秒 12 : 60秒 13 : 75秒 14 : 90秒 15 : 105秒 16 : 120秒	あり
機能	RVS-COMモードへの移行時間を設定します。設定値の表示は00~16の2桁で表示されます。				
設定例	AT\$M9=0		表示例	AT\$M9?	
省略	不可				
CIP値の設定		AT\$M10	1	1 : 1 2 : 2 4 : 4 16 : 16 17 : 17 18 : 18	なし
機能	CIP値を設定します。設定値の表示は01~18の2桁で表示されます。				
設定例	AT\$M10=1		表示例	AT\$M10?	
省略	不可				
RVS-COM起動		AT\$M11	0	0 : 未起動 1 : 起動	なし
機能	RVS-COM起動を設定します。				
設定例	AT\$M11=1		表示例	AT\$M11?	
省略	不可				

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲	設定ユーティリティでの設定
RVS-COMのi・ナンバー設定	AT\$M13	0	0:i・ナンバー情報を付加しない 1:i・ナンバー情報1を付加する 2:i・ナンバー情報2を付加する 3:i・ナンバー情報3を付加する	なし
機能	RVS-COMの発信時のi・ナンバーを設定します。			
設定	AT\$M13=0	表示例	AT\$M13?	
省略	不可			

## リザルトコード一覧

データ定義	リザルトコード名称	説明
0	OK	コマンド正常終了
1	CONNECT	通信相手との接続完了
2	RING	着信通知
3	NO CARRIER	回線切断/接続不可
	DELAYED	不正ダイヤル
4	ERROR	不正コマンド
7	BUSY	相手通信中
8	ER OFF	ER信号OFFでATDコマンドを実行/着信中ER信号OFFでATAコマンドを実行
19	CONNECT 64000	通信相手との接続完了 (リザルトコード書式を「CONNECT 64000」に設定したとき)

# 設定記入シート

本ページ以降（P174～181）の設定記入シートをプリントアウトして設定内容を記入し、保守のための資料としてご利用ください。

下線はお買い求め時の設定です。

商品名 ( INSメイトV30Slim )

## ■ i・ナンバー設定

i・ナンバー  使用する  使用しない

	i・ナンバー電話番号	i・ナンバー着信設定	発信ポート番号指定
i・ナンバー情報1		<input type="checkbox"/> TEL1 <input type="checkbox"/> TEL2 <input checked="" type="checkbox"/> データ	<input type="checkbox"/> OTEL1 <input type="checkbox"/> OTEL2 <input checked="" type="checkbox"/> データ
i・ナンバー情報2		<input type="checkbox"/> TEL1 <input checked="" type="checkbox"/> TEL2 <input type="checkbox"/> データ	<input type="checkbox"/> OTEL1 <input checked="" type="checkbox"/> OTEL2 <input type="checkbox"/> データ
i・ナンバー情報3		<input type="checkbox"/> TEL1 <input type="checkbox"/> TEL2 <input type="checkbox"/> データ	<input type="checkbox"/> OTEL1 <input type="checkbox"/> OTEL2 <input type="checkbox"/> データ

## ■ TEL1ポート設定

・発信・着信1

発信者番号 ( )

着信する番号

	着信する番号		着信する番号
0		4	
1		5	
2		6	
3		7	

サブアドレス ( )

発信者番号通知  発信者番号通知する  発信者番号通知しない  
 INSネット64申込内容に従う

サブアドレスなし着信  着信する  着信しない  
 グローバル着信  着信する  着信しない

・発信・着信2

接続機器  接続しない  電話機  ファクス付き電話機・モデム・Lモード対応電話機  
 HLC設定  しない  する  
 発信規制  規制しない  0発信規制  外線発信規制  
 着信拒否  しない  する

・キャッチホン・番号通知

キャッチホン  使用しない  疑似キャッチホン  INSキャッチホン  
 ナンバー・ディスプレイ発信者番号通知  しない  する  
 キャッチホン・ディスプレイ発信者番号通知  しない  する  
 ネーム・ディスプレイ発信者名通知  しない  する  
 モデムダイヤルイン着信電話番号通知  しない  する  
 メッセージあり情報通知 (Lモード関連)  しない  する  
 メッセージあり情報通知電話番号 (Lモード関連) ( )

・なりわけ

INSなりわけ       しない       する

疑似なりわけ       しない       する

疑似なりわけ番号

	相手先名	電話番号	サブアドレス
0			
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

なりわけ動作設定

識別リング

セキュリティ (着信拒否)

・その他

FAX無鳴動着信

しない

する

受話音量調整

小

中

大

内線呼出信号設定

呼出信号1

呼出信号2

ダイヤル種別

PB固定

DP固定

# 設定記入シート

## ■ TEL2ポート設定

### ・発信・着信1

発信者番号 ( )

着信する番号

	着信する番号		着信する番号
0		4	
1		5	
2		6	
3		7	

サブアドレス ( )

発信者番号通知

発信者番号通知する

発信者番号通知しない

INSネット64申込内容に従う

サブアドレスなし着信

着信する

着信しない

グローバル着信

着信する

着信しない

### ・発信・着信2

接続機器

接続しない

電話機

ファクス付き電話機・モデム・Lモード対応電話機

HLC設定

しない

する

発信規制

規制しない

0発信規制

外線発信規制

着信拒否

しない

する

### ・キャッチホン・番号通知

キャッチホン

使用しない

疑似キャッチホン

INSキャッチホン

ナンバー・ディスプレイ発信者番号通知

しない

する

キャッチホン・ディスプレイ発信者番号通知

しない

する

ネーム・ディスプレイ発信者名通知

しない

する

モデムダイヤルイン着信電話番号通知

しない

する

メッセージあり情報通知 (Lモード関連)

しない

する

メッセージあり情報通知電話番号 (Lモード関連)

( )

・なりわけ

- INSなりわけ       しない       する  
 疑似なりわけ       しない       する

疑似なりわけ番号

	相手先名	電話番号	サブアドレス
0			
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

- なりわけ動作設定       識別リングング       セキュリティ (着信拒否)

・その他

- FAX無鳴動着信       しない       する  
 受話音量調整       小       中       大  
 内線呼出信号設定       呼出信号1       呼出信号2  
 ダイヤル種別       PB固定       DP固定

# 設定記入シート

## ■ TEL1・TEL2ポート共通設定

### ・三者通話・通信中転送

- 三者通話  使用しない  疑似三者通話する  三者通話する  
 話者切替タイム ( ) 秒 4秒  
 通信中転送  使用しない  使用する

### ・着信転送

- 着信転送  使用しない  疑似着信転送する  着信転送する  
 着信転送トークン設定  転送トークンなし、転送元トークンなし  
 転送トークンあり、転送元トークンなし  
 転送トークンなし、転送元トークンあり  
 転送トークンあり、転送元トークンあり

### ・着信転送 転送元・転送先電話番号設定

	転送元電話番号	転送元サブアドレス	相手先名	転送先電話番号
契約者回線番号用				
ダイヤルイン i・ナンバー用1				
ダイヤルイン i・ナンバー用2				

### ・その他

- 優先着信ポート指定  指定しない  TEL1ポート  TEL2ポート  
 FAX自動転送  しない  する  
 フッキング検出タイム  短い  普通  長い  
 内線機能  使用しない  使用する  
 ダイヤル終了識別  しない  する (#)  する (##)  
 ダイヤル桁間タイム ( ) 秒 4秒  
 モデムダイヤルイン用契約者回線番号 ( )

### ・メッセージ表示 (Lモード関連)

- MSGランプ設定 (Lモード関連)  メッセージあり状態表示をする  
 メッセージあり状態表示をしない

## ・迷惑電話防止

非通知拒否設定

 拒否する 拒否しない

迷惑電話防止電話番号

	電話番号
0	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	

# 設定記入シート

## ■ データポート設定

### ・発信・着信

発信者番号 ( )  
着信する番号 ( )  
サブアドレス ( )  
発信者番号通知  発信者番号通知する  発信者番号通知しない  
 INSネット64申込内容に従う  
サブアドレスなし着信  着信する  着信しない  
グローバル着信  着信する  着信しない

### ・BOD機能

リソースBOD  使用しない  発信／着信時に使用する  
 発信時に使用する  着信時に使用する  
スループットBOD  使用しない  使用する  使用する (BACP)  
リンク追加  
算出時間 ( ) 秒 30秒  
しきい値 ( ) % 70 %  
リンク削除  
算出時間 ( ) 秒 10秒  
しきい値 ( ) % 20 %

### ・CTI機能

CTI情報出力  出力しない  TEL1への着信を出力する  
 TEL2への着信を出力する  TEL1またはTEL2への着信を出力する  
CTI情報出力フォーマット  表示フォーマット1  表示フォーマット2  
CTI発信  
CTI呼出種別設定  送出不しい  呼出信号1  呼出信号2  
CTI呼出時間設定 ( ) 秒 180秒

### ・その他

強制切断タイマ ( ) 時間 10時間  
無通信監視タイマ ( ) 分 10分  
ER信号制御  パソコンのER信号を監視する  常時ON  
RVS-COM転送  ただちに自動転送  
 指定時間後に自動転送 ( ) 秒  
 アナログ機器の操作で転送

## ■ S/Tユニット (オプション) の設定

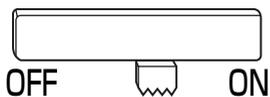
・ 終端抵抗スイッチ

OFF ON



終端抵抗ありのとき : ON  
終端抵抗なしのとき : OFF

・ 内蔵DSUスイッチ



OFF ON